

大津市歴史博物館調査報告書 5

大津百艘船万留帳 3

令和六年（二〇二四）三月

大津市歴史博物館

はしがき

大津市は、明治時代末年の『大津市志』の発行以来、数十年に一度、時代の要請に応じて市史を編纂してきました。その度に多くの古文書・歴史資料が調査され、その歴史情報が蓄積されてきました。

現在、市史編纂事業を引き継ぐ大津市歴史博物館では、館蔵・個人蔵を問わず、貴重な文化財の調査を通じて歴史文化の情報を発信しています。その中で、以前より有志の市民の方々のご協力のもと、古文書・歴史資料の調査・解読を進めてきましたが、令和三年（二〇二一）度よりその成果報告書を順次発行してきました。

この報告書では、これまでに引き続き、江戸時代に琵琶湖水運の中心的役割を担った船持仲間「大津百艘船」によつて記録されてきた「万留帳」のうち、寛政一三年（一八〇一）から享和四年（一八〇四）までの分をまとめました。これら留帳には、大津百艘船が対応した事案や物流の様子、大津代官や京都町奉行の要人との折衝、また寺社との贈答関係など、大津百艘船の活動が詳細に綴られています。

なお、最後になりましたが、本書の発行にあたり、解読・校正において大津古文書輪読会の皆様に多大なる御協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

令和六年三月

大津市歴史博物館

「目次」

はしがき

目次・凡例

一、「万留帳」寛政一三年

二、「万留帳」享和二年

三、「万留帳」享和三年

四、「万留帳」享和四年

・	1
・	2
・	4
・	36
・	62
・	96

「凡例」

一、本史料集は、大津市歴史博物館が所蔵する重要文化財「大津百艘船関係資料」のうち「万留帳」の寛政一三年（一八〇二）から享和四年（一八〇四）の四冊分を翻刻したものである。

一、史料解説にあたっては、大津古文書輪読会の各氏の協力を得て、大津市歴史博物館の五十嵐正也、高橋大樹、文化財保護課の吹上竜司、大津市都市計画課の杉江進が原本照合を含めた校正をおこなった。また本書の編集は同館高橋大樹が担当した。

一、翻刻にあたっては、原本の体裁を尊重しながら、組版上の事情により、追込み形式とした。また、平出や台頭、欠字については省略した。一、翻刻した文字について、変体仮名は現行の仮名に改めたが、江、而、与、者、茂などはそのままとした。また、ㇿ（より）以外の合字は仮名に改めた。さらに、旧字体・異体字については、固有名詞を除き、常用漢字に改めた。

一、虫損・汚損・欠損等による判読不能の文字については、その字数分を□で示し、字数不明の場合は「―」として表記した。

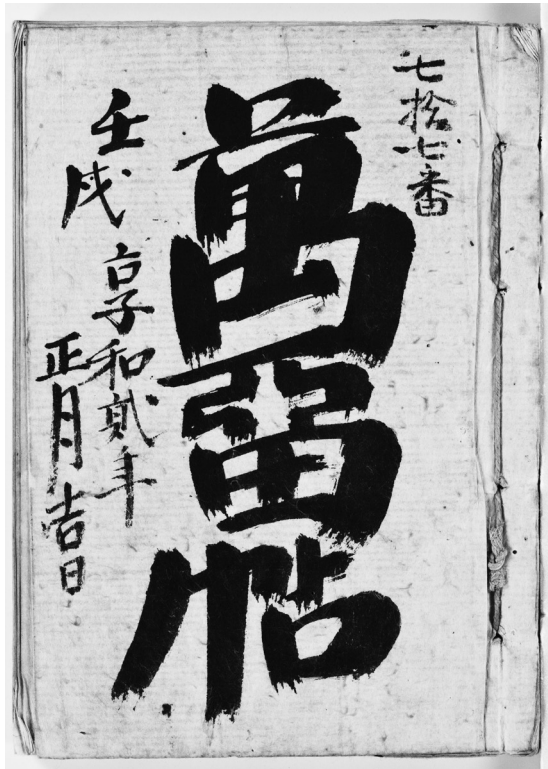
一、翻刻にあたり、適宜、読点を施した。また、傍注について右側に（―）で括弧して示した。その際、誤字と思われるものは正字を付し、原本どおりの場合は（ママ）、（衍）とした。さらに、墨消し（ミセケチ）の場合は、その文字に網掛けをほどこしてある。

一、原本上で図示されている図面については、トレース図を掲載した。トレース図は、大津市歴史博物館職員の大村紀子が作成した。

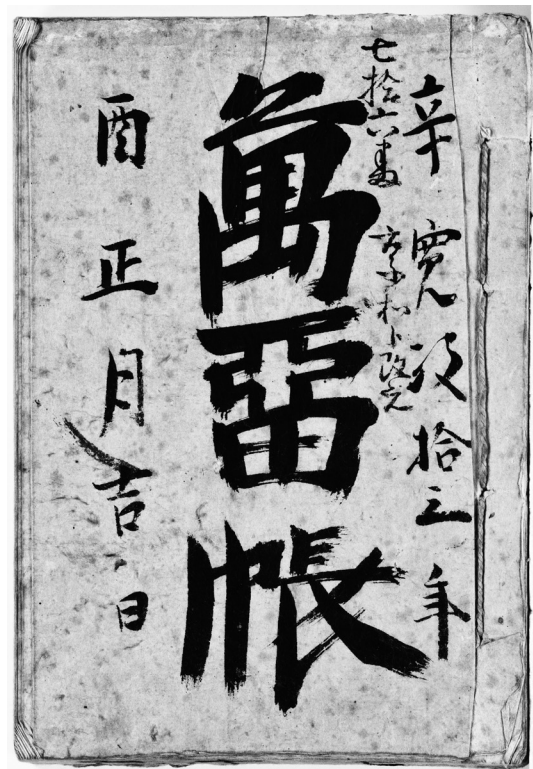
一、史料には、賤称・蔑称などの差別用語とされる言葉が使用されている場合があるが、当時の社会情勢を正しく認識するためそのまま表示したものであり、差別を容認するものではない。読者においてはその点をよく理解され利用されたい。

「謝辞」本史料集の編集・発行にあたり次の関係者より協力を得た。

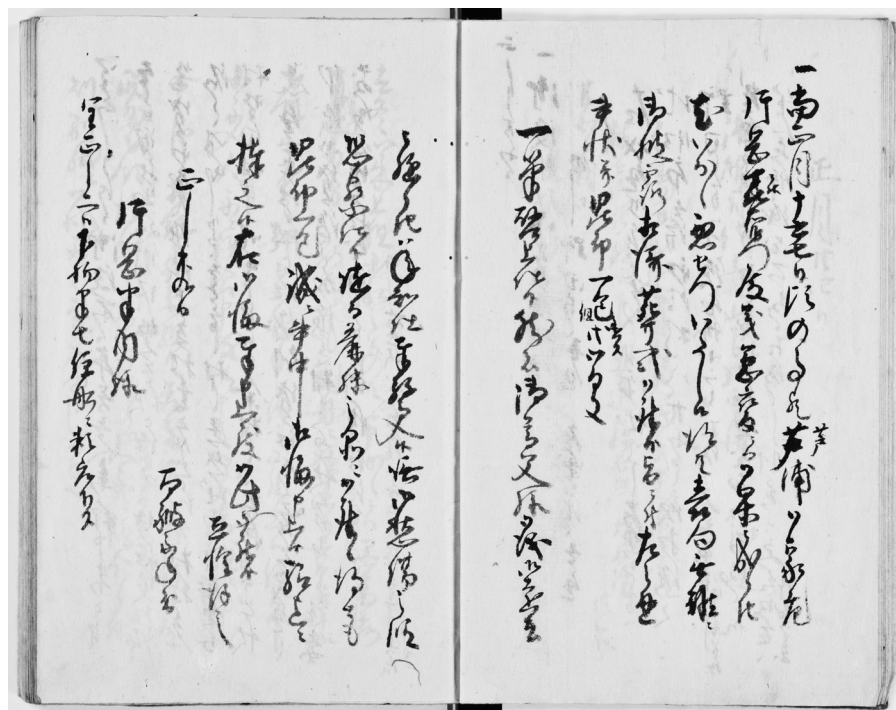
東幸代（滋賀県立大学人間文化学部教授）



「万留帳」享和2年（表紙）



「万留帳」寛政13年（表紙）



「万留帳」享和3年

一、「万留帳」寛政一三年（一八〇一）

（表紙）

辛 寛政拾三年

〔七拾六番〕^{（後書）}「享和卜改元」

万留帳

西 正月吉日

（表紙見返し）

（印：「百艘」）

- 一、片田孫四郎船乗前積難船之事、
- 一、同与五郎船吹被流候事、
- 一、下組惣代退役願之事、
- 一、御所司代御順見ニ付金藏堀掃除之事、
- 一、片田筵船当浦ニ而難船之事、
- 一、年号享和と相改候月日之事、
- 一、永田清左衛門祝義船断ニ参り候事、
- 一、小野又三郎娘死去香典遣し候事、
- 一、若狭蔵普請地上吾妻川砂之事、
- 一、御目附^{（×□□）}せた川御順見之事、
- 一、小船入朝船ニ乗せ候旅人、矢橋ニ而病氣差出、乗せ帰り養生為致国元江送り候事、
- 一、御所司代牧野様江戸御下り之事、
- 一、東願寺^{（本心）}地代参り候事、

- 一、船屋小兵衛株壹同人後家^{（本心）}を悴江譲り候事、
- 一、御所司代土井様御登りニ付惣年寄中^{（本心）}を出迎之義引合之事、并貸船屋出迎ニ出引下ケ候事、
- 一、船方下役北出雲平殿不勝ニ付仲間江無心其外八ヶ浦江も被相頼候事、

- 一、船屋忠助養子先忠助川七ニ成并渋川屋六兵衛名前子息江被讓候事、
- 一、当津六兵衛船田中江差船間違之事、
- 一、吾妻川籌御役所^{（本心）}を囀之事、
- 一、当津勘三郎船能登川行荷物盜賊并右盜入境表ニ而被召取候一件、
- 一、矢橋浦安左衛門船旅人入水之事、
- 一、野田平左衛門小船遣ヒ度由申参り候事、
- 一、野洲郡安治村より出候米野田浦と吉川浦と論之事、
- 一、小頭佐久間老母死去香典之事、
- 一、湖边村々無株ニ而船持立丸船代之御書付願、右之義三ヶ浦^{（本心）}を御役所江申出候事、
- 一、御老中牧野様、御所司代御引付御登り之事、并御所司代土井大炊頭様御登り之事、
- 一、帳付船以来当会所江相届候事并ニ出火之節船頭会所江可申事
- 一、当津長三郎片田^{（本心）}を船買候事、
- 一、船屋新右衛門株三つ永原屋江被預ケ候事、

寛政拾三辛酉正月二日、当御役所御礼、左之通

石原庄三郎様

金子貳百足

目録台、下ケ札付

御手付

石丸三平様 旧冬御役御免有之候へ共、是迄預り苦勞ニ候儀ニ

付如此、尤以来五節句、暑寒ハ相勤不申候、

々元々

福永久治右衛門様

々

内藤伍左衛門様

々

七里左六郎様

町懸り

芝山泰蔵様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁多様

右七軒金百足つゝ

小頭

佐久間正蔵様

赤井平六様

目付

高橋角左衛門様

多胡甚助様

岡本多内様

右十軒白銀壹両つゝ

肝煎

吉本弥四郎殿

山本助九郎殿

右式軒鳥目式拾疋つゝ

御足輕 宗八殿

小つかい

梅八殿

卯八殿

々式百文つゝ

々金式両壹歩、銀一両拾ヶ、五百文一、式百文六

白崎久太夫様 御蔵番三人

但屋敷不残 御門内御手代衆

平蔵町年寄

右者手札計二而相勤申候、

与次兵衛、太郎兵衛、供

正月三日、皇都御礼

西御奉行

曲渕和泉守様

金子三百疋 目録台 下ヶ札付

御用人

御取次

藤田市郎様

佐藤左一郎様

星野半右衛門様

同多仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝幸平様

椎名市右衛門様

右九軒へ銀壹両つゝ

東御奉行

森川越前守様

金子三百疋 目録台 下ヶ札付

御用人

御取次

小芝宗右衛門様

鈴木又兵衛様

中川億右衛門様

中川官兵衛様

志川藤左衛門様

石川千左衛門様

御勝手用人

村田直右衛門様

村田忠兵衛様

右八軒へ銀壹両つゝ

西御公事方

東御公事方

渡邊甚五右衛門様

四方田重丞様

深谷平左衛門様

上田弥右衛門様

不破伊左衛門様

木村清右衛門様

入江吉兵衛様

本田金右衛門様

右八軒へ金子百疋つゝ

西御公事下

東御公事下

千賀与惣右衛門様

寺田官左衛門様

浅賀卯兵衛様

末吉新五郎様

上田八蔵様

森義左衛門様

菊地治左衛門様

中川全左衛門様

柏原治部右衛門様

同定右衛門様

芝嘉右衛門様

櫛橋平蔵様

廣瀬佐次右衛門様

平尾安左衛門様

喜多尾八郎右衛門様

右十五軒へ銀壹両つゝ

上町代田内与助殿

筆工奥田九右衛門殿

下町代藤沢傳六殿

下町代藤村佐市殿

上町代中へ

下町代中へ

小番中へ

東西御門番へ

東西仲番中へ

宿鍵屋佐助へ

追分丸屋四郎兵衛へ百文

同下女中へ貳百文

山科大津屋孫右衛門へ百文

✂

披露ふた貳枚

下ヶ札貳枚、差出し貳枚

右之通治郎左衛門、孫右衛門相勤ル、供嘉兵衛、荷持

正月四日、初寄合、役人不残出勤、旧例之通諸帳面勘定相済候、尤

不相かわら中飯有之候、

七日、惣番積 船頭共へ酒、とうふ

十一日、帳固メ祝儀

饅頭百

上組小舟中

仁右衛門

五兵衛

諸白貳升

下組小舟中

甚兵衛

同

坂本新兵衛

酒貳升

関舟治兵衛

諸白三升

尾花川町

するめ貳把

右之通持参、例之通相済、

十二日夜八つ時、木屋忠、大六兩人被参、片田孫四郎舟八まん、常

樂寺乗前積合、三本杭二而難舟致候趣通達有之、十三日早朝右見

舞として廻り嘉兵衛遣し候事、

同日、大津町船矢橋浦二而梶折とこさけ難儀致候所、矢橋浦より大勢罷出、世話致し被呉候二付右挨拶として、

酒三升

鯛式わ

右十三日朝五つ時遣し候事、

〔貼紙〕
「右堅田孫四郎難舟二付、廻り加兵衛早速為見舞差下候、」

覚

一、酒三升 堅田舟方中へ遣ス、
するめ式わ

一、酒三升 八幡舟方中へ遣ス、
するめ式わ

一、 大津荷問屋中へ遣ス、

〔貼紙〕
「右者堅田」孫四郎儀、当浦のりまへ荷積受、当正月十二日三本杭二而難船いたし候二付、廻り加兵衛差下候節、八まん二而右之通相調へ、夫々旅宿へ為見舞遣ス、

一、右孫四郎難舟二付、八まん駄継会所蚊屋佐兵衛殿義、格別厚取計二よつて、八幡中荷主方一同も早速納得被致、品能相済候旨、右廻り加兵衛罷歸り申聞候二付、左之通跡を別段二及挨拶候事、

一、から橘五拾入 壹箱 駄継会所
蚊帳屋左平殿へ

代

右二書状相添、忠助船舟頭与四郎へ頼遣ス、

一、去ル十二日、堅田与五郎義、当浦を帰船之節悪風二吹流レ行衛相知レ不申由二付、見舞与して廻り弥兵衛堅田へ差下候、尤同所船方中

へ与して酒三升、堅田二而相調へ遣ス、
右弥兵衛承歸り候趣者、与五郎義沖ノ嶋へかゝり、身上、船共無別義歸村致し候事、

正月十五日、芦浦御礼

一、観音寺様 扇子三本入壹箱献之、
但扇箱くりあし、のし包添

当年も御逢無之、不相替御酒、御節等被下置候事、

御家中

片岡喜右衛門殿

西川五郎兵衛殿

久松六藏殿

右三軒扇子三本入壹箱つゝ、

右之通六兵衛、九兵衛、供平兵衛相勤候事、

一、下組小船惣代是迄甚兵衛、次右衛門相勤居候処、次右衛門儀退役いたし度旨、去ル十一日書付を以申出有之候二付、調之上正月晦日下組中不残相招、以来七兵衛へ申付候事、

一、明九日、御所司代様当駄御順見二付、坂本浦こやし船、川口堀、金藏堀江入船無之様、当仲間を坂本江通達いたし候様、御役所船方内堀様を被仰聞候二付、則左之通以書状申遣ス、

以手紙得其意候、然ハ明九日御所司代様当駄御順見二付、川口堀、金藏堀江こやし船御差出し被成間敷候、此段為可^{〔又其意〕}得其意如此御座候、以上、

大津

二月八日

船年寄

坂本浦船年寄中様

右之書状坂本四つ屋甚七与申候もの江相渡、

一、二月七日、御役所へ呼二参り太郎兵衛罷出候処、船方内堀様被仰聞候ハ、明後九日御所司代様当駄御順見与して御越被遊候、然ル処先達而方町方御役所二而御糺有之候金藏堀掃除之義、此度御調へ之上、右掛り町内へ右掃除人足之義被仰付候、右二付町内へ願出候ハ、何卒船之義ハ御役所へ被仰付可被下候様御願申上候二付、町方御役所二而御聞濟被置候間、明八日艀船式艘差出し可申様被仰渡候、別段右之趣町方御役所へ御沙汰無之趣被仰聞候二付、太郎兵衛御答申上候ハ、船之義ハ承知仕罷在候間、加子之義ハ如何可仕趣御尋申上候処、加子無之候而ハ相濟申間敷候間、壹艘二壹人宛相添可遣様被仰聞候二付、何卒加子之義ハ御用捨被下度、此度之様成船御用向無数節ハ手支無御座候得共、多分御用船入用之節ハ甚以加子手支、依之尾花川町内へ相頼候得共、右町内迎も右等之節ハ引綱等被仰付候事故、甚迷惑之趣罷在候、又候右用船并加子相増候而ハ、私共難義迷惑之趣申立御断申上候処、内堀様被仰聞候ハ、随分尤成義二候へ共、先達而之振合等も有之事二候間、是程之義者可致様与訳而御申聞被成候二付、不得止事御請申上罷歸り、則左之通取計致候事、

一、艀船式艘

尾花川町

加子新助

忠次郎

右ハ八日朝金藏堀へ相廻し、御蔵町年寄方へ案内致候事、

一、二月八日朝、かたゝ孫惣船当所太間町越後屋嘉左衛門揚りむしろ積

受入船之節、塩屋町浜先凡壹町計沖二而、右船こかし候趣見請候二付、早速小船入より小船加子拾四人并大船加子五人差遣候処、右船加子兩人共無難二而、塩屋町関へ着船致候二付、俱々手伝仕右むしろ船揚致候事、

右挨拶与して酒三升、するめ貳わ、船主孫惣并同所平兵衛同道二而、会所へ持参被致候事、

右到来もの之内

一、酒貳升

小船入加子共へ遣ス、

するめ壹わ

一、酒壹升

大船加子共へ遣ス、

するめ壹わ

✕

一、二月九日

御所司代

牧野備前守様

西町奉行

曲淵和泉守様

中井藤三郎様

右者当駄御順見与して御越被成候二付、追分江御出迎二罷出候処、夫方当所御本陣へ御入被成、御中飯在之候上、寺内方高観音并順礼観音、夫方北国町、浜通り、御蔵町御下り、御蔵へ御入、御役所二而しはらく御休息被成候上、扇屋関方京町通り、四ノ宮へ御越被成、百石町、八町、関ノ清水へ御越被成、夫方御帰館二付、右関ノ清水上二而御見送り相勤申上候事、

太郎兵衛、孫右衛門、供嘉兵衛

右兩人御出迎御見送り共相勤候事、

覺

一、分持 壹荷

此人足壹人

右者我等義明十七日大津出立、江州甲賀郡高山村迄罷越候条、書面人足御定之賃錢請取之差出可被申候、此先触早々順達、石部宿方高山村へ相達可給候、以上、

(割印号)

○酉二月十六日

石原庄三郎手代

三宅保右衛門印

大津方甲賀郡高山村迄

右宿々

問屋
年寄 中

追而明十七日雨天二候得者、日送り出立之積二候、以上、

右御先触到来候二付、矢橋浦へ相達し申候、尤当浦方小船二而明十七日五つ時前二御乗船之積二付、川口堀へ船相廻し申様申付置候事、

一、二月廿一日、当津町触有之、是迄寛政之年号相改、享和と改元有之候、尤寛政ハ当酉年迄十三年相続き候、

上巳御礼

石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元々

福永久次右衛門様

々

内藤五左衛門様

町役

芝山泰藏様

元々

七里佐六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁多様

右六軒へ青銅五拾疋つゝ、

右之外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏手札計二而相勤申候、

与次兵衛、九兵衛相勤、供次兵衛

覺

一、人足式人

右者御用二付、自分共儀明十八日明ヶ六つ時大津御役宅出立、江州浅井郡曾根村迄罷越候条、於宿々書面之人足御定之賃錢請取之、無遅滞差出可被繼立候、且渡船、川越等有之場所者前宿方通達いたし、差支無之様可被取計候、此先触早々順達いたし、曾根村二至り着村之上可被相返候、以上、

石原庄三郎手代

酉三月

内堀保次郎印

柏原弥作印

矢橋、草津、守山、武佐、愛知川、高宮、泊り鳥居本、米原、

長浜、曾根村、右宿々問屋、年寄中

右御先触到来候二付、矢橋浦へ相達し申候、尤当所へ船之儀不申参候事、

一、三月十九日、永田清左衛門、与次兵衛宅江参、当年を廻り差ふね御越有之候筈之処、浦方殊之外淋敷、一向荷物等も出来不申候二付、今暫五七年猶予いたしくれ候様相頼被申候、尤海津行戻り舟杯ハ寄くれ候ハ、荷物有次第為積可申候、しかし此義も時々模様二より候へハ、しかと致候義ハ無^{難計}之旨被申聞候付、此方申聞候者見定荷物出方無數候二、差ふね遣し候も如何二候へ共、兎角他見二ハ、相応二其元積舟も登り候様見受候、しかし弥荷物も無數候ハ、同浦之義ハ外浦与ハ違ひ、已前格別其浦方之世話もいたし、右二付而ハ聊なから金銀之取替等も有之、何^{又候へハ}角義理合も被存、差ふね之義ハ三ヶ浦壱艣之義二候へハ、不時二当浦へ被申越候様相心得可然、迎も年限を以相待候義ハ相調間敷候間、兼而其旨相心得可被申候、左候へハ弥浦方繁昌いたし候ハ、今二も舟差下し可申候、又弥出方無數候ハ、荷物無之浦方へ差遣候而も無所詮事二候へハ、先当時見合可申段被聞候、随分尤之趣二承知いたされ候、当冬ハ何卒壱艘も御頼申度旨二而被歸候、

一、三月廿一日、勢田をうくひ三拾計到来二付、銘々へ配り申候、

一、三月廿二日、小野又三郎殿娘死去二付、為香典銀三匁遣申候、

四月朔日、例之通日吉御神事之船御配符式箱、外二仲間江壱通、又船方御役人中方之御配符式箱、御役所二而受取、夫々江相達し候、左二記ス、

覚

一、船数五艘

但百五拾石積を式百石積迄

是者日吉御神事御名代船、奉行船、日吉惣政所船并供船、右之船来ル十四日日吉御神事二付、如例年可差出候、尤服忌差合之もの相改可申候、以上、

西四月朔日 石庄三郎御判

大津百艘

船持中

一、船割賦壱通 山田浦 江朔日午中刻ひら田半兵衛へ渡ス、

矢橋浦

御文言例之通二候故略之、

一、同 壱箱 今津浦始

御文言左之通、

来ル十四日、日吉御神事神輿船割賦之事、

大浦

丸船式艘 水主九人 船年寄

外梶取壱人宛

但百八拾石積を式百石積迄

二宮方早船

今津浦

丸船壱艘 水主拾壱人 甚丞

外梶取壱人

丸船壱艘 右同断 十左衛門

丸船壱艘 右同断 八郎左衛門

丸船壱艘 右同断 市三郎

海津浦

丸船壱艘 水主拾壱人 治左衛門

外梶取壱人

丸船壹艘 右同断 嘉助

丸船壹艘 右同断 甚兵衛

丸船壹艘 右同断 船年寄

但百九拾石以上之船可差出、

塩津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 角兵衛

外梶取壹人

丸船壹艘 右同断 惣兵衛

丸船壹艘 右同断 又左衛門

丸船壹艘 右同断 惣右衛門

右之船例年之通致吟味、来ル十四日以前大津江着船可致候、

尤服忌差合之者相改可申候、此配符令請印早々順達、留り所可相返もの也、

西四月朔日 石庄三郎御印

大浦

船年寄

今津浦

甚丞

海津浦

治左衛門

塩津浦

角兵衛

右之状敦賀飛脚長三郎江相渡、受取此内二あり、

外二船方御手代福永久次右衛門様、内堀繁太様を御添書壹通有之、文言例之通候間略之、

一、御廻状壹箱 坂本浦始 小から崎町又五郎江相渡、

一、同 壹箱 矢橋浦始

右式箱御文言、爰兩三年之ことく二候間略之、

外二松本浦江之御割賦、例年此方より取次遣し候へ共候二付、今日相渡り不申候故相尋候処、今朝松本浦を受取二出候二付、御役所二而御渡し之旨内堀を被仰聞、

矢橋を書面之写

口啓

弥御安泰二御出勤可被成御座奉珍重存候、此間貴村之□□へ以手紙申進候、御分間御用之御役人中様方、昨日武佐宿へ御越有之候処、草津宿を西八来戌年二相成可申段被仰出候由、内々承り合申候間、最早万端御用意二不及申、此段御心得一寸申遣候、以上、

草津宿問屋

四月朔日

武兵衛

矢橋浜

御庄屋中様

右之通書状只今到来致候故、御知らせ申上候、以上、

矢橋浦

舟年寄共へ

百艘御年寄中様

右之通書面到来候二付返書遣入、

御書面忝愈御安康御勤被成奉珍賀候、然ハ御分間御用御役人中様方草津宿を西来戌年二可相成趣、御書面拝見仕委細承知仕候、段々御世話忝奉存候、尚拝眉御礼可申上候、以上、

四月朔日

百艘年寄

矢橋浦

船役人中様

一、四月十四日、例歳之通沖之嶋より鱒三本到来いたし、内壹本預貝半、式同日遣ひ申候事、使弥兵衛、

一、四月廿三日、若狭藏普請地上ケ二付、吾妻川砂貫ひ被申度、川掛り町江沙汰有之候処、百艘地境より獵師町橋際迄式尺堀二いたし、勿論是迄半川筋二而土手有之候処、右間数之処不残取払候旨、則町代都屋方中間へ通達有之、地境より下百艘持場其尽二いたし置候而ハ、町方為二も不相成二付、中間方浚立候哉、又ハ中間方右藏所へ懸合堀貫ひ候哉、いつれ対談可致旨二付、右意ヲ含六兵衛を以藏所江為掛合候処、下り処ハ強而入用無之趣二付、此段御役所江御届申上候処、廿六日町代遠藤仁右衛門方藏所仲勤兵衛へ、百艘持場之砂御取被成候ハ、上ノ差支も無之候へ共、上計御取被成候而ハ、畢竟無益之事二而、上る流出候土砂下へはけ不申、為筋為方二も不相成候間、一躰遣し申間敷旨被懸合候処、左候ハ、浜先る上迄さらひ可申候二付、左様相心得くれ候様、藏所方返答有之候二付、廿七日於御役所二川嶋文左衛門様被仰渡候事、尤浚相濟候ハ、川中二有之候筋杭、中間方取のけ候様被仰渡候、

四月廿九日

一、南鐮沓片 川嶋文左衛門様

右ハ前書吾妻川一件二付、格別御世話ニ被成下候二付、如此遣入、

端午御礼

一、石原庄三郎様江

青銅百足
木札付

御元々

福永久次右衛門様

同

内藤伍左衛門様

御町役

芝山泰藏様

同

七里左六郎様

御用人

山田仲助様

御舟方

内堀繁太様

右六軒ハ鳥目五拾足つゝ、紙札付

其外御内屋敷御手代衆、御組同心衆不残、并北出雲平殿江ハ、手札計二而相勤ル、

次郎左衛門、勘三郎、供加兵衛

五月

一、筭拾本

右者例年之通三井寺方到来候二付、当役一統江配り申候事、

一、艀船八艘 幅三尺八寸方四尺

但沓ケ村方式艘つゝ、

右ハ御茶壺御下向、当月廿五日宇治御出立、同日守山宿御止宿、翌廿六日野洲川渡舟之御用二候間、丈夫成船致吟味、洗之柄杓沓本宛船毎二入置、廿五日昼時迄二野洲川渡場江船差出可相勤候、此配符

令請印、昼夜不限早々順達、留り所可相返候、以上、

年寄

酉五月十七日 御役所御印

大津

野洲郡

矢しま

木濱

今濱

野田

右村々庄屋

舟年寄

覚

一、艀船五艘 幅三尺八寸八四尺

但壹ヶ村の壹艘つゝ、

右ハ御茶壺御下向、当月廿五日宇治御出立、同日守山宿御止宿、翌廿六日横関川渡舟之御用ニ候間、丈夫成船吟味いたし、洗之柄杓壹本つゝ船毎ニ入置、廿五日昼時迄ニ横関川渡船場江船差出可相勤候、此配符令請印、昼夜ニ不限早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

酉五月十七日 御役所御印

野洲郡

小田

蒲生郡

牧村

多賀

北之庄

浅小井

右村々庄屋

右矢嶋三百五十文

小田四百文

〆七百五十文申遣ス、飛脚藤八、同日巳刻添状共渡ス、

覚

一、乗掛 壹太

此元馬 壹疋

一、四ツ荷 壹駄

同 壹疋

一、駕籠 壹挺

此人足 三人

一、分持 壹荷

同 壹人

〆本馬 貳疋

人足 四人

右者我等儀此度就御用、明後十九日城州宇治郷出立、中山道通り美濃路廻り、名護屋の小牧江掛り、木曾路通り江戸表江罷下り候間、於宿々、書面之人馬御定之賃銭請取之無滞差出、川越、渡船場等有之所者、前宿の兼而案内致置、差支無之様取計可被申候、此人馬触早々継送り、武州板橋宿の江戸浅草元鳥越、上林六郎屋敷江可被相届候、以上、

上林六郎手代

酉五月十七日

森本億右衛門判

城州^{宇治郡}の江州大津宿、夫の中山道通り美濃路廻り、尾州名^{六地蔵}

古屋の^{小牧宿}へ懸り、木曾路通り武州板橋宿迄、右宿々^{問屋中}

別下ヶ札ニ

大津町扇屋関の湖水船壹艘借り切、矢橋村へ懸り草津宿江罷越候間、此人馬触大津宿の百艘方江相渡シ、百艘方の矢橋村江継送り、矢橋村ニおゐて本文人馬草津迄無差支継立可給候、以上、

五月廿一日、例之通貴ふね御神酒無滞相勤、役人不残相祝被申候事、

一、御目附勢田川筋御供之瀬御順見二付、御兩人御出、扇屋関より御乗船、
倉橋内匠様

大岡次郎兵衛様

御出迎次郎左衛門、孫右衛門、供新八

六月十四日、三井寺々暑中為見舞と、そうめん式拾把到来いたし候事、

一、六月十六日、從御役所御廻状式箱七つ時参ル、文言左之通、

例年之通湖上船増減入念相改帳面二記、来月朔日より十日迄二可
致持参候、遅滞有之間敷候、此配符致受印早々順達、留り所々可
相返候、以上、

大津

西六月十六日 御役所御印

書面之趣貸船屋江も可申聞候、 大津始り

川道留り

右浦々庄屋

船年寄

右御配符下坂本村長七へ十七日二渡ス、

右同御文言老通、松本三ヶ所始り、伊庭留り、右浦々庄屋、船年寄
廻り平兵衛二遣ス、

右二付貸船屋江廻文出ス、文言左之通、

口上

一、貸船増減相改帳面二相記、来ル七月朔日より十日迄上納可被致候、
此廻状早々順達、留り所々百艘会所江御返シ可被成候、以上、

六月十六日

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、太右衛門、源七、
五郎八、善兵衛、源六

百艘印

六月十四日

京都暑氣御窺

西御奉行

曲渕和泉守様

金子貳百疋

目録台

下ケ札付

御用人

藤田一郎様

御取次

佐藤左一郎様

星野半右衛門様

同多仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝幸平様

椎名一右衛門様

右九軒八手札計

東御奉行

森川越前守様

金子貳百疋

目録台

下ケ札附

御用人

小柴宗右衛門様

御取次

鈴木又兵衛様

中川億右衛門様

中村官兵衛様

志川藤左衛門様

石川千左衛門様

御勝手御用人

村田直右衛門様

村田忠兵衛様

右八軒八手札計

西御公事方

渡邊甚五左衛門様

同御下

千賀与惣右衛門様

深谷平左衛門様

不破伊左衛門様

入江吉兵衛様

定助ヶ

本多龍左衛門様

但し御本役二候へ

ハ、御役付為御祝

儀と金子百足差上

候先例二候処、右

ハ定助ヶ二付不及

其義候事、

此五軒ハ銀壺兩つ、

東御公事方

四方田重丞様

上田弥右衛門様

木村清右衛門様

本田金右衛門様

此四軒ハ銀壺兩宛

浅賀卯兵衛様

上田八蔵様

菊地治左衛門様

柏原治部右衛門様

芝嘉左衛門様

廣瀬佐野右衛門様

此七軒ハ手札計

同御下

寺田官左衛門様

末吉新五郎様

森儀左衛門様

中川左左衛門様

同定右衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

喜多尾八郎右衛門様

此八軒ハ手札計

田内与助殿へ銀三匁

若狭屋八兵衛殿へ刺鯖貳さし

右之通次郎左衛門、孫右衛門相勤候、供嘉兵衛

六月十七日

当所暑氣御伺

石原庄三郎様

素麵参拾把、白台
包のし

御元々

福永久次右衛門様

御組頭

佐久間正蔵様

同

内藤伍左衛門様

同

赤井平六様

御町役

芝山泰蔵様

御目付

高橋角左衛門様

同

七里左六郎様

同

多胡甚助様

御勝手御用人

山田仲助様

同

多賀喜曾太様

舟方

内堀繁太様

此五軒十五わつ、

此六軒へ貳拾わ宛

右之外御門内御手代衆、北出雲平殿へハ手札計二而相勤ル、

次郎左衛門、六兵衛、供嘉兵衛、新八

一、六月十五日朝、舟下組甚兵衛舟二のせ候旅人之内、上総国望陀郡桜井村弥市と申もの、矢橋浦へ上りところてん杯給へ居候二付、右舟加子 甚兵衛 悴庄吉、留之助 悴 松歸舟いたし候後、右弥市病氣二付随分世話いたし候へ共、当分の事二ハ無之、六ヶ敷由医師被申候故、相知らせ候間、何れ成共参り候様と矢橋を書状到来候二付、則舟主甚兵衛差遣候処、つれ歸り候様矢橋を被申聞、同日夜二入舟二而つれ歸り候二付、猿ヶ関働人又兵衛方相頼右病人入置、おいと蔵寺岡丈

助殿相頼療養服藥為致置、翌十六日御訴申上候趣、左之通、

御目付

高橋角左衛門様へ、口上ニ而届置、

舟方

内堀繁太様へ、右同断、

乍恐口上書

一、昨十五日、当所小船入る矢橋浦へ渡舟之節、讃州金毘羅江参下向人
弥市と申もの、便舟いたし度相頼候ニ付乗せ遣シ、矢橋浦へ九つ時
着舟いたし、揚り候而る氣分不勝由申出し候ニ付、彼方ニ而介抱い
たし遣し候内、右村方ニ而発病いたし候ものニ無之、船中る之病人
之由にて、無抛又々船ニのせ連歸り候節、日和悪敷暮ニおよひ、小
舟入へ同夜四つ時過歸り、右弥市儀ハ船稼致候もの方へ取入、医師
相懸ケ服藥養生為致置候ニ付、此段御届奉申上候、尤右弥市儀上総
国望陀郡桜井村之ものニ而、同所名主并頼寺る之往来手形所持仕罷
有候ニ付、此段も奉申上候、以上、

百艘舟年寄

酉六月十六日

次郎左衛門印

大津

御役所

右ハ町方御役所への届書如此、

右之通御届ニ罷出候処、御聞置ニ相成、随分氣を付いたわり遣候様、
尤相変候儀者早速可申上旨被仰渡候事、

一、右病人儀ハ、矢橋へ上り候後発病之由ニ相聞へ候を、右躰送り戻し
候段、矢橋方取計不相当義ニハ存候へ共、先年当浦方も付戻し候病
人も有之由、此始末も得と不相分、勿論病人差押へ置、矢橋へ論談
ニおよひ候事も如何候敷存候ニ付、此度ハ手切ニ引請取計仕置候得

共、此向ニ差置候而ハ、後々双方共差支之筋ニ可有之候ニ付、追而
矢橋浦へ者何れニもかけ合置申度存罷有候事、

(横書)「右弥市儀六月廿七日町村送りニ而落着之訳奥ニ記有之、」

(横書)「右一件始末別紙ニ袋取拵入置候ニ付爰ニ略ス、」

一、六月廿三日、御所司代牧野備前守様江戸表江御下りニ付、追分迄出
迎、但石場江見送り先例ニ而勤不申候、

孫右衛門、勘三郎、供和助

七夕御礼

一、石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元々

福永久次右衛門様

々

内藤伍左衛門様

町役

芝山泰蔵様

々

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右六軒青銅五拾疋つゝ、

其外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏手札計ニ而相勤申候、

治郎左衛門、九兵衛、供新八

覺

一、金五百疋

一、銀子 壹枚

右者從御本山被下置慥ニ受取申候、以上、

享和元年

百艘年寄印

西七月十二日

十日講

御肝煎中

一、西七月廿四日、当御役所御役人御改名、左之通、

御手付

石丸三平様御事 石丸三五右衛門様

御元々

内藤伍左衛門様御事 内藤伍三三右衛門様

一、当四月廿七日、從御役所年寄壹人罷出候様申参り候ニ付、則年寄次郎左衛門部屋へ罷出候処、御組之内川嶋文左衛門様被仰聞候ニハ、吾妻川下モ百艘持場之内、川之東西石垣無之所之分、川縁より川中へ土砂壞れ落不申様、以来板坎或ハ簀二而、両側とも上石垣続ニ浜先へ向ケ取繕ひ候様被仰聞候ニ付、次郎左衛門答候ニハ、以前よりは是迄右姿ニ而無支有来り候所、今更繕ひ被仰聞候義ハ臨時迷惑筋、達而御断申上候へとも、御見分等之節さまくも有之事ニ候へハ、何分右之趣ニ相心得候様、幸ひ此節嶋のせき御本山普請小屋ニこハ板等可有之候間、右様之ものを以取懸り可然との旨ニ付、無抛得其意罷歸り、右場所へ治郎左衛門、多郎兵衛、六兵衛、孫右衛門、忠介同道ニ而罷越し、先請間数相改候所、石垣之小口より浪打際まで

廿間御座候へとも、但し其頃ハ満水ニ而御座候、中洲東側十五間ニ、西側十式間ニこわ板入させ繕候、尤西側之分ハ下モ二古簀御座候故、それへ取付ケ候ニ付、東側よりハ右之仕合ニ而短間ニ御座候、則御小屋へ右之趣ニ而こハ板入用之儀引合候処、何時ニ而も遣ひ候様被申聞、尤こわ代外々与ハ別而下直ニ取計被呉候事、

一、三貫貳百文 松のこハ板大小三十九枚

右ハ御小屋世話方坂本町川村屋喜助殿方へ持せ遣ス、使嘉兵衛一、貳貫五百文 堅田町ふたうの辻子、働人長治手間賃相渡ス、

右ハ最初貳貫文ニ誂へ置候処、下地古杭拔取并川中土砂目障り搔退ケ、彼是手間込候趣相頼ニ任せ、増し五百文与都合如此差遣ス、

右此度川之縁り繕ひ被仰付候ハ、川上胴木此所寺門領朽木立会場也、是方

百艘立会場迄川丈ケ貳百貳間五尺六寸、川幅九尺五寸、右川幅を去ル戊午年十一月頃御役所より御仕法ニ而半川ニ被仰付、則川之東側上る下モ迄一円二簀を詰、それへ川中の土砂を搔上ケさせ、川幅狭り申候、然ル処当辛酉春以来若州蔵所普請并地場ケ有之候ニ付、吾妻川中土砂入用ニ付引取被成度旨当御役所へ御頼有之、依之川下モより平蔵町橋左右迄本川ニ土砂運取被仰聞、尤中間持場も一緒ニ取運ひニ相成候様、御懸りまで申上候所、蔵所へ御達し有之、依之一緒ニ引取ニ相成申候事、

但し半川ニ相成候発端繕ひ入用、何角ハ寛政十戊午年留メ帳ニ留記御座候、

七月廿七日

一、西御組 飯室助左衛門様 上ノ新八舟加子三人
酒井宗介様 上下六人

右者勢田橋御見分ニ御越被成、小舟入を乗舟被成候二付、孫右衛門
小舟入まで案内いたし候事、

当津御役所八朔御礼、左之通、

石原庄三郎様 金子貳百足、目録台
下ケ札附

御手附

石丸三五右衛門様

御元

福永久治右衛門様

同

内藤伍三右衛門様

同

七里左六郎様

町役

芝山泰蔵様

御勝手方

山田仲助様

御船方

内堀繁太様

右七軒へ金子百足宛

小頭

佐久間正蔵様

同

赤井平六様

御目附

高橋角左衛門様

同

船方下

北出雲平様

惣年寄

矢嶋真十郎様

惣年寄

小野又三郎様

町代

多胡甚助様

同

多賀喜曾太様

同

堀猪三郎様

右十軒銀壹両宛

駅所肝煎

御足輕

半七殿

吉本弥四郎殿

御小遣

梅八殿

同

山本俵五郎殿

御門吟助殿五百文

右式軒へ鳥目貳拾足宛

お袋へ貳百文

金貳両壹分

銀壹両 拾包

五百文 壹繫

貳百文 六繫

組屋敷不残

御門内御手代衆

平蔵町年寄

右ハ手札計を以相勤申候事、

太郎兵衛、忠助相勤ル、供廻り舟付小馬

乍恐口上書

一、去ル十七日、当浦勘三郎船ニ而江州能登川并常樂寺行荷物積込、字
金蔵堀へ相廻日和待仕罷有、漸同廿二日夜八時半時頃出船致し、堅
田沖前ニ而夜明ケ、水主共船中ニ而支度舟ニ這入候処、蔵橋町米
屋八兵衛出能登川問屋藤兵衛方着布荷物式箇、舟とも二積込置候
内、壹箇切解キ有之候を見請驚、船者堅田浜江着置、荷物出所八兵
衛并船持勘三郎方江為相知候付、早速人差遣シ荷物為見候処、壹箇
ハ別条無御座、壹箇切解キ白布五足、嶋布拾六反、残其余不足致し

有之候付、直様右布荷主能登川村田屋太郎次と申もの方へ、不足布数等尋二罷越候儀二御座候、尤右船水主吉次と申もの日々船中見廻り、夜分八船二泊り罷有、則廿一日迄ハ相替り候儀も無御座候処、廿二日出船迄之内、宵之内者水主共右最寄浜江気色等見請二罷出候儀も御座候二付、右間合を考何もの坎忍入、右荷物切解不足布之分盗出逃去候儀与奉存候旨、水主共申聞候付、猶又水主吉次儀相糺候処、外二存当り怪敷儀も無之段申聞候間、此段御訴奉申上候、尤不足布数之儀者右荷主方江遣し候もの承歸り候上、猶又可奉申上候、以上、

西七月廿四日

船頭町

船屋勘三郎

百艘年寄

次郎左衛門

蔵橋町

米屋八兵衛

荷問屋年寄

弥蔵

大津

御役所

右之通写相認御目附中へ届ヶ置、

右文言之奥書二、右之通町方御役所御訴申上候趣書添へ、船方内堀様へ届ヶ置候事、

(横書)「此一件之末奥二留有之、」

片田、八幡へ遣し候書面趣意有増、

野田市左衛門小船壹艘遣ひ申度段被申参、何分三ヶ浦相談之上返答可及旨、委細得心二而被歸候所、先月下旬御役所へ直訴被致候旨承之、御窺申上候所、御糺之上御免許被為成候趣被仰聞、右市左衛門

此方へ願上之前後共一応之無達し候二付、急々三ヶ浦致相談、市左衛門、庄や定八へも及面談、積方左法之儀得と取締置度候二付、片田、八幡へ右之趣意相認、乍御苦勞兩浦急々御上津可被成旨、尤各々大津着之翌日市左衛門、定八兩人共上津被致候様、御年寄、浦方御通達可被下候趣、書状遣し候事、

八月三日

一、七月廿二日、矢橋浦安左衛門船加子兩人、右浦方一船小口二而乗り合旅人五人計乗せ、矢橋浦より出船致候処、朝五つ時前松本浦石場先凡四、五町計沖二而、右乗り合之内京都白川橋東へ入町■辺之仁三人連レ之内、年比三才計之半七与申、のこ切目立渡世致居候もの、船中二而小便致候節すへりはまり候ヲ、小船入る見請候二付、早速居合加子追々小船并艀ふね二而差遣し、此段相知らせ申候二付、仲間る治郎左衛門、太郎兵衛、孫右衛門、忠助、喜三郎、右五人小船入会所へ参り、何角差図致し、矢橋浦へ右之段申遣し、乗り合旅人江ハにきり食、香のものと并茶等、則喜三郎付添為持遣し候、松本浦方も右同様世話致し、則松本浦地先二付、右浦方る当御役所へ御届ヶ罷出候二付、此方方も目先の事故其段年寄治郎左衛門、船方御掛り迄口上二而御届ヶ申上置候、然ル処、矢橋浦芝田清蔵子息小平太殿折節私用二付、右浦方より船二而被罷越候二付、湖中二而右之様子見聞被致候故、小船入へ着船之上会所へ参り、右挨拶被致候而夫方右場所へ船二而参り、何角取計致被居候内、矢橋浦方船役人中追々右場所へ被参候処、乗り合之内二芸州御家中乗合被居、則荷物等少々積メ有之候二付、右荷物之分者早速送り遣し呉候様、右之衆中段々被相頼、依之小平太殿取計二而、右荷物ハ別船二而小船入へ揚ヶ、夫方当津人馬会所へ小揚二而送り遣候内、矢橋浦船役人中追々

小船入へ参り、各々会所二而右挨拶被致、夫々手分ケ致し、膳所表へ相届ケ、則当津御役所へハ船年寄中御届ケ罷出被申上候ハ、右躰之義先年有之候二付矢橋浦へ引取、則膳所表より之御検使請候趣申立、此度之義も右同様致度旨被申上候得共御聞届無之、当御役所御検使可被遣旨被仰聞、則右場所ハ松本浦地先之事二候得ハ、死骸揚り次第松本、矢橋両浦の連印二而御届ケ申上候様被仰渡候二付右之段御請申上罷歸り被申候上、右之趣京都入水人町役人方へ飛脚ヲ以被申遣候処、無程飛脚之もの罷歸り申聞候ハ、追付何れ茂同道にて参り可被申趣申之候事、

一、死骸之義段々相尋候処、漸昼八つ時過二相揚り申候二付、此段松本、矢橋右両浦連印二而御届ケ罷出、何角此度之義ハ松本浦掛り二而引請世話被致候得共、右乗り合旅人之義ハ小船入へ着船致候二付、右乗り合衆中旅宿之義大津表二而世話二預り度旨、矢橋浦船年寄中段々被相頼候二付、則旅宿平蔵町いせ屋六兵衛与同町丁子屋林右衛門右両家相頼遣し申候、尤右乗り合之内二芸州御家中八、九人、其外二帯刀人有之、右之衆中被申聞候ハ、拙者共義ハ右船二乗り合候段、御役所表へ御達被下候様相成候而ハ甚以面動^⑧之義、拙者共も彼是日間取旁以難義迷惑致候間、何卒穩便二致し出立致させ呉候様分ケ被相頼候二付、無拠義候二付、此段内々御役所御掛り迄御伺被申上候処、右帯刀人之分ハ拔候様御内意被仰聞候二付、外乗り合衆中与熟魂致候処、乗り合之内二彼は申居候仁も有之候得共、色々利解申聞候二付、一同得心被致「依^⑨之帯刀人」都合拾四、五人乗り合高之内除、右衆中ハ勝手次第出立致させ、残り三拾六人表向乗り合高ニ致し置、右之内式人ハ入水人つれ二付、是ハ石場魚屋五兵衛方へ預ケ置、残り三拾四人ハ此方二而世話致し、右之内六人ハ則いせ屋甚兵衛方定宿二付右甚兵衛方へ遣し、残り廿八人之内廿壹人いせ屋六兵衛方へ遣

し、七人ハ丁子屋林右衛門方へ遣ス、右之通割合預ケ置、則矢橋浦方加子之もの壹兩人宛付置候事、

一、御検使松本浦へ御越二付、早速年寄太郎兵衛、供嘉兵衛、右場所へ御挨拶参候処、則正連へ御入被成候二付、右正連二而御挨拶申上、尚又松本浦船会所へ右挨拶致候上罷歸り候事、

一、京都入水人妻并町役、家主付添、暮六ツ時小船入へ向参り候二付、早速此段御検使様へ被申上候処、召連参候様被仰聞、依之何れ茂召連参候処、死骸御見分之上乗り合旅人、其外掛り合之もの不殘申口御書取被成候上、死骸之義ハ松本浦へ御預ケ被成、則右浦方預り一札御取被成候而、夜五ツ時二御引取被成候二付、死骸之義ハ古長持二人、右場所二而番致し候二付、上下惣代之もの并廻り之もの心得二而、上下并廻り加子之もの共右ノ番助ケ二遣し、則上下惣代并廻り之内嘉兵衛何角世話致し遣候事、

一、矢橋浦船役人中ハ小船入平六方ニ旅宿致し被居候二付、右為見舞与酒五升仲間より忠助付添持参致候事、

一、翌廿三日四ツ時、御役所二而右二件之もの共口書印形相済候上、京都へ御伺二相成候処、廿四日二京都御下知有之、同夜九ツ時二相済翌廿五日早朝方乗り合之衆中勝手ニ出立被致申候、尤京都掛り之衆中ハ相残り、右死骸取片付、何角引合相済候上引取被申候事、

但し死骸之義ハ廿四日夜八ツ時ニ、松本山へ野送り被致候事、

一、廿五日、松本浦船年寄長兵衛事済致候二付、当会所へ挨拶二被参候事、

右二付到来もの扣

一、酒式升 せた橋本村方

一、酒式升 北山田村方

右ハ両浦方仲間へ見舞与して役人中持参被致候二付、仲間方手紙ヲ以右挨拶致置候事、

一、酒三升
廻り之内嘉兵衛へ
するめ式把

一、酒三升
上下小船仲間へ
するめ式把

一、酒壺斗式升
水主中へ
するめ三把

右之通矢橋浦方挨拶与して到来ニ付受納致候段、仲間へ申出候事、

八朔京都御礼

東
森川越前守様
金子三百足、目録台
下ケ札付

御用人
御取次

小柴宗右衛門様
鈴木又兵衛様
中川億右衛門様
中村官兵衛様
志川藤左衛門様
石川千左衛門様
村田屋直右衛門様

御勝手御用人

村田忠兵衛様

右八軒へ銀壺兩つ、

西
曲渕和泉守様
金子三百足、目録台
下ケ札付

御用人
御取次

藤田一郎様
椎名市右衛門様
星野半右衛門様
佐藤太仲様
原田仙助様
矢沢龍右衛門様
鈴木順平様
芝幸平様
佐藤左一郎様

右九軒へ銀壺兩つ、

東御公事方

四方田重丞様
上田弥右衛門様
木村清左衛門様
本多金右衛門様

西御公事方

渡邊甚五右衛門様
深谷平左衛門様
不破伊左衛門様
定助ケ
本多新左衛門様
入江吉兵衛様

右九軒へ金子百足つ、

東御公事下

寺田官左衛門様
末吉新五郎様
喜多尾八郎右衛門様

西御公事下

千賀与三右衛門様
浅賀卯兵衛様
上田八蔵様

森義左衛門様
中川定右衛門様
中川奎左衛門様
櫛橋平蔵様
平尾安左衛門様

菊地次左衛門様
柏原次部右衛門様
芝嘉左衛門様
廣瀬左野右衛門様

右拾五軒へ銀壺兩つ、

筆工奥田九右衛門殿銀一兩
御番中へ三百文つ、

下町代藤沢傳六殿式百文

宿

同 藤村左市殿式百文
鍵屋佐助へ三百文
上町代中へ 五百文
同下女中へ式百文
下町代中へ 五百文
追分丸屋四郎兵衛へ百文
小番中へ 三百文
山科大津屋孫兵衛へ百文
東西御門番へ三百文つ、

✂

披露ふた式枚

下ケ札式枚、差出し式枚

右之通孫右衛門、喜三郎相勤ル、供与八、荷物紹介

荷問屋

年寄弥蔵

大津

御役所

紛失布数書

一、紺大立嶋 但かすり赤糸入 式疋

一、飛桔梗 但矢立嶋 壹疋

一、さつま嶋 但小立共 三拾八反

一、布袴地 三下

一、白晒 五疋

一、杉織嶋 四反

一、大格子嶋 壹疋

一、嶋布 但小立共 八反

疋物九疋

✂ 反物五十反

✂ 袴地三下

✂ 西八月二日

右之届相済候二付役方江挨拶、左之通、

御目附

高橋角左衛門様 白銀壹両

同 多胡甚助様 右同断

同 多賀喜三太様 右同断

✂ 三人

町代遠藤仁右衛門殿江白銀壹両

一、野洲郡安治村之登り俵物ハ野田浦問屋へ出来り、野田浦之三ヶ浦之廻船二積為登候寄之処、此度同郡古川浦問屋舟持伊左衛門、右安治村へ自分櫓を乗参、登り米十九俵居村へ引取、所持之丸舟二積替へ大津へ登し候支度いたし候を、野田浦問屋見付右櫓米共野田へ引付置、吉川伊左衛門へかけ合被致候得共、相済不申候間、三ヶ浦取計呉候様、野た問屋市左衛門被申参候二付、右櫓米共対談中預り置候旨、御役所へ御届申上置、夫右一件二取懸り候始末ハ、三ヶ浦対談留帳二委敷相記置候二付、爰二ハ略ス、

乍恐口上書

一、先月十七日船持勘三郎船二積込候私方出江州能登川着布荷式箇之内壹箇切解き布紛失仕、其段同月廿四日御訴奉申上置候儀二御座候、然ル処、不足布数相分不申候二付、荷主能登川村田屋太郎次方江尋二差遣候処、折節太郎次遠方江参候、留主中二而難相分り旨二而尋二参候もの罷歸り候処、此節右荷主罷歸り候由二而、彼地二而取調別紙品書之通紛失仕候由申越候二付、此段御訴奉申上候、尤先達而御訴申上候節切解候荷物之内、白布五疋、嶋布拾六反残有之段申上置候得共、是又相調候上、白晒六疋、嶋布拾七反残り有之旨申越候二付、此段も奉申上候、已上、

蔵橋町

西八月二日

米屋八兵衛

右町代ハ其節掛り故老人計遣ス、

筆工多七江銀五匁

銀×廿式匁式分

右之銀子半分拾壹匁分、問屋米屋八兵衛方出ス、残りハ仲間方出ス、

八月廿四日、舟持勘三郎、同人抱水主吉次二舟年寄付添罷出候様御役所方呼二参、右兩人并年寄次郎左衛門罷出候処、荷問屋八兵衛同年寄弥藏代子息弥太郎儀も一同二被召出、先達而訴出置候紛失布之盗人境表二而被捕、則布数六拾反計所持いたし居候旨二付、相尋度儀有之候間、右荷主差出し呉候様右奉行所方申参候、尤残布可被下事二候処、荷主ハ遠方之事二も候へハ、八兵衛引請荷二いたし可然旨、御町懸り芝山泰藏様被仰渡候得共、八兵衛儀ハ荷物固之まゝ取扱仕候迄二而、布見分無覺束奉存候間、私切之頼合二而只今方荷主ノト川太郎次方へ飛脚差遣、呼為登境表へも召連参、於彼地布見分被仰付候ハ、太郎次儀を私方下人二仕見分させ候様仕度段被申上候処、左様仕候様被仰付、八兵衛儀ハ引取、のと川へ飛脚差遣被申候、猶又水主吉次義、御札之上書付差上候様被仰渡候二付、左之通相認差上置申候、

船頭町

舟屋勘三郎抱水主

吉次

西三十五才

当浦勘三郎船二而江州能登川并常楽寺行湖上舟積荷物之内、藏橋町米屋八兵衛方出能登川問屋藤兵衛方着布荷物式箇之内壹箇切解、布品々紛失仕候付、右八兵衛并船持勘三郎方始末御訴奉申上候処、私儀ハ右舟乗り水主二付被召出、其節之様子御吟味御座候、

此段私儀右勘三郎抱水主之もの二而、去ル十七日主人勘三郎船二而、能登川并常楽寺行之荷物積合、右八兵衛方出能登川問屋藤兵衛方着布荷物式箇者鱸二積込置、折節出船可仕日和も無御座候故、字金藏堀二而日和待仕、不絶舟中二罷有、昼夜とも折々ハ最寄之浜辺江気色見、又者雇入相水主呼二罷出候儀も有之、漸同廿二日夜八時半時頃順風も出候故出船致し、夜明ケ方二至り堅田沖二而舟中へ支度拵二這入候処、右鱸二積有之候布荷物式箇之内壹箇切解キ有之候を見付驚、船ハ堅田浜へ差置、早速主人勘三郎并出所米屋八兵衛方江も為相知候二付、参合相調候処、不足布数ハ相分り不申候得共、残布之分右着所先キ藤兵衛方へ相届候義二御座候、右申上候通廿二日夜出帆已前、近所へ気色見二罷出候儀も御座候間、右間合を考、何もの歟舟へ忍入右荷物切解、布盗取逃去候儀二而も可有御座哉、外二存当り怪敷儀等無御座候、

右御吟味二付、少も相違不申上候、以上、

西七月廿五日

吉次印

右吉次奉申上候通承知仕候二付、奥書印形仕奉差上候、已上、

西七月廿五日

船頭町

舟屋勘三郎印

百艘年寄

次郎左衛門印

(横書)

「但シ八月廿四日差上候得とも、先達而御取置被成候趣を以、七月廿五日と相認有之候、

右盗賊境御奉行所へ被捕候二付、問屋八兵衛境へ被召出候一件、奥二留有之、

同廿六日、右布主罷登り候二付、八兵衛方方頼合二而境表へ罷出候積、

則八兵衛、荷問屋惣代木地屋忠兵衛御届二罷出被申候処、御返翰御渡被遊出立被仰渡、廿七日早天米屋八兵衛、木地や忠兵衛、布主太郎次出立被致、境御奉行所へ罷越被申候事、

覺

一、山駕籠 壹挺 此人足三人

一、人足 四人 内兩懸 貳荷

合羽籠 壹荷

步卒持 壹人

〆人足七人

右者御代官明後三日曉八ツ時大津御役所出立、矢橋迄乗船二而野洲郡北桜村為檢見御用被罷越日帰二候条、書面之人足往返共御定之賃錢請取之差支無之様可被差出候、此先触無遲滞継送、北桜村より可被相返候、以上、

西九月朔日

石原庄三郎手代

内堀保次郎印

福永久次右衛門印

百艘、矢橋、草津、守山、野洲郡北桜村

右宿村^{問屋中}庄屋中

(横書)

「右矢橋へ舟へやとひ和助辰中刻持せ遣ス、

雨天二付三日午ノ刻方御乗船二而御越被成候事、」

重陽御礼

石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元〆

福永久次右衛門様

〃

内藤伍三右衛門様

町役

芝山泰藏様

〃

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁太様

右六軒青銅五拾疋ツゝ

右之外御門内御手代衆、組屋敷不殘、北出氏へハ名札はかり二而相勤申候事、

治郎左衛門、九兵衛、供与八

九月十三日 太田直次郎様

一、西御組 眞壁安之丞様

大塚甚藏様 供壹人

右者石山為下見と御越被成、小船入方御乗船二而、孫右衛門小船入迄案内被致候事、

大津始御配符之写

追而本文運上銀、大津橋本町古望仁兵衛方二而懸改候間、得其意納人印形持參可致候、以上、

湖上船運上銀、来月三日方七日迄二持參可致候、遲滞致間敷候、此配符令請印早々順達、留り所方可相返候、以上、

九月十八日 大津 御役所

書面之趣貸船屋 大津、坂本、比叡辻、苗鹿、おこと、衣川、書面へも申聞候趣貸
船屋へも本堅田、同艀方、同西之切、書面趣貸船屋へも申聞候今堅田、同釣
漁師、同艀方、和迓南濱、同北濱、五ヶ浦、南比良、書面之趣貸船やへ
も可申北比良、打下、大溝、同艀方、永田、下小川、今在家、
藤江、横江、船木、南濱、同横江濱、北濱、南古賀、新庄、
太田、藁園、深溝、書面之趣貸船屋へも申聞候針江、森村、馬原、木津、今
津、新保、領家、北仰、貫川、桂村、深清水、大沼、中庄、
北新保、知内、西濱、海津、菅浦、大浦、月出兩組、岩熊、
塩津、石川、片山、書面之趣貸船屋へも申聞候東尾上、延勝寺、海老江、安
養寺、早崎、下八木、八木濱、大濱、書面之趣貸船やへも申聞候南濱、川道
右浦々庄屋
船年寄

右御配符坂本四つ屋繁八工渡ス、

右東浦へ壱通

文言同断、松本浦へ廻りと与八為持遣ス、

口演

一、船御運上銀、来月三日迄二無遅滞上納可被致候、此廻状早々
順達、留り所御返し可被成候、以上、

酉九月十八日

百艘印

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、太右衛門、源七、
五郎八、善兵衛、源六

覚

一、あをり駕籠 一挺

此人足 式人

一、分持 三荷

此人足 三人

右者我等儀江州野洲郡、浅井郡村々為検見、明後廿三日曉六ツ時大
津御役所出立罷越候条被得其意、於宿々二御定之賃銭受取之、書面
之人足無滞可被差出候、且渡船、川越等之場所者其前宿より通達い
たし、差支無之候様可被取計候、此先触早々継送、於北野村可被相
返候、以上、

酉九月廿一日

内堀保次郎印

三好伸右衛門印

福永久次右衛門印

百艘、矢橋、草津、守山人足用意二不及、廿三日泊り野洲郡北桜村
守山迄迎人足可差出事、武佐、愛知川、高宮、廿四日泊り鳥井本、
米原、長濱、廿五日泊り浅井郡北野村長濱迄迎人足可差出事、

右宿村

問屋中
庄屋中

(横書)「廿一日午ノ刻、即刻矢橋へ与八持せ遣ス、」

一、去ル七月、勘三郎舟積荷紛失布一件二付、八月廿七日、問屋八兵衛
付添として、惣代木地屋忠兵衛并荷主のと川太郎次義八、布見改用
として内々二而召連、境御奉行所へ罷出候処、御糺之上、左之通書
付差上、同廿九日帰津被致候事、

乍恐以書付奉申上候

江州大津蔵橋町

米屋八兵衛

一、私義、今日被召出先月廿二日比、私引請荷物舟積仕候処、右品々被盜取候義有之哉、委細可申上旨御尋二御座候、

此段先月十七日私引請荷持^物持勘三郎船へ積入出船可致と存候処、天氣悪敷候二付、同所金藏浦と申所二而日和待仕罷有、同月廿二日頃出船可致与存、右荷物相改候処紛失之品々、左之通、

一、紺立嶋近江布 四十五反

一、白晒 拾反

一、袴地 三反

一、晒紺かすり嶋 拾反

×六十八反

右之通紛失仕候、勿論右反物不殘篋二入置候処、ほととき候哉明キ有之候二付、相驚早速相改候処、前書之通紛失仕候、依之其段大津御代官所江も御断奉申上候、右奉申上候通金藏浦二而日和待仕候節、舟中へ盜賊這入候而被盜取候哉と奉存候、右御尋二付乍恐以書付奉申上候、已上、

享和元年酉八月廿八日

八兵衛印

右之通相違無御座候二付、奥印仕候、以上、

年寄病氣二付

仲ケ間惣代

木地屋忠兵衛印

御奉行様

御与力辻村二郎右衛門様

御懸り

同 戸田丈五郎様

御同心岸田市九郎様

右書付奉差上候処、追而御沙汰可有之間帰津可致と被仰渡、翌廿九日被帰^{同日}同晦日当津御役所へ歸り届被致候事、

右之通舟方之義ハ御召出無之候二付、右路用費不殘間屋方二而相賄被申候事、

此一件十月十一日相濟義ハ奥二留有之、

九月廿一日、例之通貴布祢御神酒無滞相勤、役人不殘相祝ヒ被申候事、

同廿二日、例之通石山より松茸甘本到来いたし、役人不殘配分致候事、

西御奉行

曲渚和泉守様御組之内

竹尾源太郎様

酒井亮藏様

久下直三郎様

外二両三人并御供廻り

右者獅々飛御下見与して御越二付、当駅方々案内有之、則小舟入二而小舟仕立、早速勢田迄相送り候事、下ノ七兵衛舟、加子三丁、

十月三日朝

御小頭佐久間正藏様御老母御死去二付、右香儀与して白銀壹両、十月七日御悔旁孫右衛門持参いたし候事、

十月九日、当御役所へ三ヶ浦連印ヲ以御願申上候趣意、左之通、

湖辺浦村之内、無株二而新規二丸船持立、又ハ株乍持伝年久敷中絶仕候ヲ引発シ、船遣ひ候分并丸船代之御書付願出候義、右等之分願出候節ハ百艘舟年寄被召出、御糺之上被仰付候様仕度段御願申上候、尤委細之義ハ三ヶ浦対談帳ニ記し有之候二付、爰ニ略ス、

前二留有之候勘三郎舟布荷紛失一件二付、当十月九日米屋八兵衛并荷問屋中間惣代当所御役所へ被召出、来ル十一日四つ時境御奉行所へ罷出候様被仰渡、則御返翰壹通御渡被遊、則八兵衛并荷問屋惣代本地屋忠兵衛名前二而同人印形を預り、右八兵衛弟大和屋彦四郎と申もの、八兵衛同道二而十日早朝大津発足いたし、境御奉行所へ罷出候処、右布盜取候無宿弥十郎と申者ハ、入墨たゝき御払二相成、紛失布高六十八反之内六反ハ弥十郎売払候旨二而、残布御下渡被成下、難有奉頂戴候段御請書差上、十二日昼前歸着被致、即刻其段当御役所へも御訴被申上候処、御聞濟被下一件相濟候事、依之役方謝礼、左之通、

一、南鐙壹片 御町役芝山御氏

代銀七匁八分

一、銀壹両 惣年寄小の氏

一、銀壹両 町代堀氏

一、銀三匁 筆工多七

×十九匁四分、此割九匁七分、中間を出入、

右之通翌十三日、勘三郎、八兵衛名前二而相勤候、

外二十一匁壹分先達而御礼銀割、中間を出候分、

合銀廿匁八分、中間費高也、

此外境行路用并万端諸費之儀ハ、八兵衛方賄二被致候事、尤八兵衛儀も布荷積出名前主計二而、元問屋ハ蔵橋町木屋作十郎方之分二付、作十郎并荷主方諸費相賄被申候由、依之舟方勘三郎へハ一切諸費之引合者無之相濟申候、

十月十五日

御老中牧野備前守様

右者御所司代御引付与して御登り二付、松本石場迄御出迎二罷出候事、
太郎兵衛、孫右衛門相勤申候、供嘉兵衛

十月廿八日、右

御同所様御歸符^符二付、追分江御出迎、次郎左衛門、勘三郎相勤ル、尤御見送りハ相勤不申候、

一、米会所役人は迄ハ相勤不被申候処、今度始而石場へ罷出御見送り被相勤候旨、時之頭取木屋久兵衛殿を承り被申候二付、心得のため爰二相記置もの也、

十月十七日

一、御所司代土井大炊頭様御登り、勤方之儀ハ別段奥二留書委敷相記有之事、

十月十九日、船頭共呼寄、已来帳付船者当会所へ相届ケ候上、出船致候様申渡候事、

一、出火之節者、居合船頭共不残当所へ早速相詰候様申渡候事、

同日、例之通日和定当役一統相祝ひ申候事、

同日、長三郎方を当五月堅田三右衛門船同人へ買被請中間方御世話

二預り候所、右挨拶として酒式升、鯛壹枚、鱧壹本到来致候事、

一、銀壹両遠藤仁右衛門死去二付、香典として差遣し候事、

十月廿七日、勢田神領へ御役所を御差紙壹通持せ遣入、飛脚賃百五拾文申遣入、

沢ノ中衆太吉

此度新右衛門親類中より近縁永原
屋与次兵衛へ譲り請、

坂本町組之内舟屋新右衛門持
一、船株三つ

此委細之儀ハ、新右衛門一家中より取置候別紙連印一札ニ相認有
之、爰ニ略ス、則右一札之本紙ハ封印いたし御箱へ入置、

当酉十二月二日、右舟株帳切之節、定之通鳥目壹貫五百文、但一株二付
五百文つゝ与次兵衛方より被差出、内六百文但一株二付貳百文つゝ中間
へ請取、残九百文但一株二付三百文つゝ坂本町組へ相渡ス、且又右舟株
之儀者、去ル宝曆年中以来中間并組内之厄介株ニ而、猶又此度与次
兵衛方へ譲り受被申候二付、格別世話ニ相成候、為挨拶与次兵衛方
別段ニ当役一同へ酒飯被差出候事、

十二月六日、当津寒氣御覧

石原庄三郎様 真鴨耆掛ケ、台ニ重くり、下ケ札

御元々

福永久治右衛門様

同

内藤伍左衛門様

同

七里左六郎様

御町役

芝山泰蔵様

御勝手方

山田仲助様

御舟方

内堀繁太様

右ハ南簾壹片宛、打へぎ、大半紙包

小頭 赤井平六様
佐久間正蔵様

高橋角左衛門様

御目附 多胡甚助様
多賀喜曾太様

右ハ金壹両宛、とちへぎ、右同断、

右之外御門内御手代衆、御組屋敷不残、并北出雲平殿、手札勤メ、

治郎左衛門、孫右衛門、供与八

覚

坂本町組之内

舟屋小兵衛名前

一、舟株壹つ

右ハ先小兵衛死後ハ後家みつ持二候処、此度当酉右みつハ悴由兵衛事小
兵衛へ譲り切二相成、当酉十二月七日帳切致遣ス、尤帳切祝儀錢五
百文被差出、中ケ間へ貳百文、組へ三百文請取、

但し右ニ付みつ并小兵衛、木地屋忠兵衛、塩屋佐右衛門より別紙
ニ一札取置之、御箱へ納置候、委細此一札ニ相認有之故、爰ニ略ス、

御所司代

土井大炊頭様

十月十七日、御登

石場へ御出迎、太郎兵衛、孫右衛門、供嘉兵衛

翌朝御見送り、

上関寺町ニ而

孫右衛門、九兵衛、供

右御登り被遊候二付、十月四日年寄一兩人町代部屋へ参り候様申来
り、太郎兵衛罷出候処、惣年寄矢嶋氏被申候ハ、前々御所司代様

御登り之節ハ、津内町々年寄并諸仲間石場迄御出迎被申、右引附披露方ハ拙者共両家方仕来り候義二付、先御所司代様御登り之節も御仲間衆へ石場表二而其旨得御意候処、其節之出役年寄中二ハ不覚悟之趣二付、彼是掛ケ合罷在候内、早御通行ニ差懸り候故、其砌ハ勝手ニ被相勤候得共、拙者共方二ハ前々之引付名前帳も所持有之、則御仲間年寄方時々出役之名前も相記御座候而、全新規之事二ハ無之旨被申聞、則右帳面見請候処、漸天明年中之帳面二而、是ハ仲間年寄石場へ参り居候を見請、先二而名前ヲ記し被置候義にて可有之、是迄惣年寄衆へ出役名前書差出し候義ハ無之事二而、勿論何方之御差図ヲ請相勤候と申訳二而ハ無之、只往古方仲間手切之勝手勤二仕来り候義二付、其旨太郎兵衛方相答候処、手切勝手ニ被勤候二ハ証拠之書物^二而も御座候事哉、無左候而ハ難取用段被申立候二付、太郎兵衛義引取仲間及相談候処、此度惣年寄中る被申聞候ハ、全新法之事二候得共、強而及論談ニ趣意立候も如何敷事二存、当仲間ハ津内町方并惣仲間方先へ別ニ罷出、名札ハ直ニ差出し、披露計惣年寄中る被致呉候様仕度旨ヲ以、尚又太郎兵衛方掛ケ合候処、其仲間計左様ニ相成候而ハ米会所始外仲間も見習、追々同様可致時二ハ其仲間之功も消へ、却而わかりも付申間敷、勿論世話敷御通りかけの披露ニ候故、門数多候而ハ手も不廻候間、最初宿場役人一切、其次ニ而百艘、米会所、魚問屋、兩替仲間、質屋仲間、此五株ヲ一切ニいたし、独礼五仲間年寄共と拙者共披露いたし、夫方町方年寄一切、諸仲間一切と順列相定可申、左候へハ津内二而の席頭ニ相成、見込よく急度規模相立候間、其旨ニ相心得候様と御申二付、太郎兵衛義ハ引取、猶又治郎左衛門参、津内町方并諸仲間之義ハ町並之御出迎二付、各々様御手先之事二候得共、百艘之義ハ宿役、町夫共御免許被成下置、船役一通りニ而相勤候、御出迎二付、御所司代

様ニかきらす御老中様方、大御順見様、京都町御奉行様、大坂御目附様等当津御通行之節ハ、其時々何方之御差図も請不申、勝手ニ罷出相勤来り候得共、此度各々様方被仰聞候義ヲ、違論仕候所存毛頭無之、乍併外仲間方とハ格別之由諸も御座候而、天正年中る以来無中施^絶御用向相勤罷在候得ハ、同様ニ被成下候而ハ難ケ敷奉存候間、何卒御熟合ヲ以規矩相立候様仕度候間、今一忖御勘弁被下度旨申入候処、矢嶋氏良々思案之上二而、人馬会所役人之様ニ別段五仲間、独礼之分ヲ一切ニ相揃、百艘船年寄其外四仲間年寄共と披露致候而ハ如何二候哉と被申聞候故、夫二而ハ少し分りも付候事故、一同へ申聞得心為致度由申置、猶又太郎兵衛、孫右衛門参り、治郎左衛門へ被仰越候趣具ニ承之申候、此上彼是申上候而ハ、思召如何ニ存候二付、其向一同承知可仕候得共、後々米会所外仲間る被申出、同様ニ相成り候而ハ、節角^節此度之御勘弁も不相分様相成、此段不安心ニ存候旨申入候処、其義ならハ重而何方申立候而も取用ひ申間敷と御申二付、得と義定^義致置候、則御当日御出迎順列并惣年寄方之披露方左之通、

附り

右御出迎ニ出候諸仲間年寄名前帳壹冊、今度始而待番之もの持参致、名前聞ニ参候二付、則太郎兵衛、孫右衛門相勤候旨申遣ス、且又以来共惣年寄中差配ヲ請候ハ、誠ニ御所司代様御登り之節計ニ限り候義にて、右御下り方并諸御役人中様御上下之分ハ、是迄之通当仲間勝手ニ相勤候筈ニ候間、後年心得違致間敷事、

北

正連	町家 壺軒	此所 はたけ也	此所 瓦の干場	此所 はたけ也	此所 此所浜へ下り道也
----	----------	------------	------------	------------	----------------

御座被遊候事、
御代官樣
此所当津

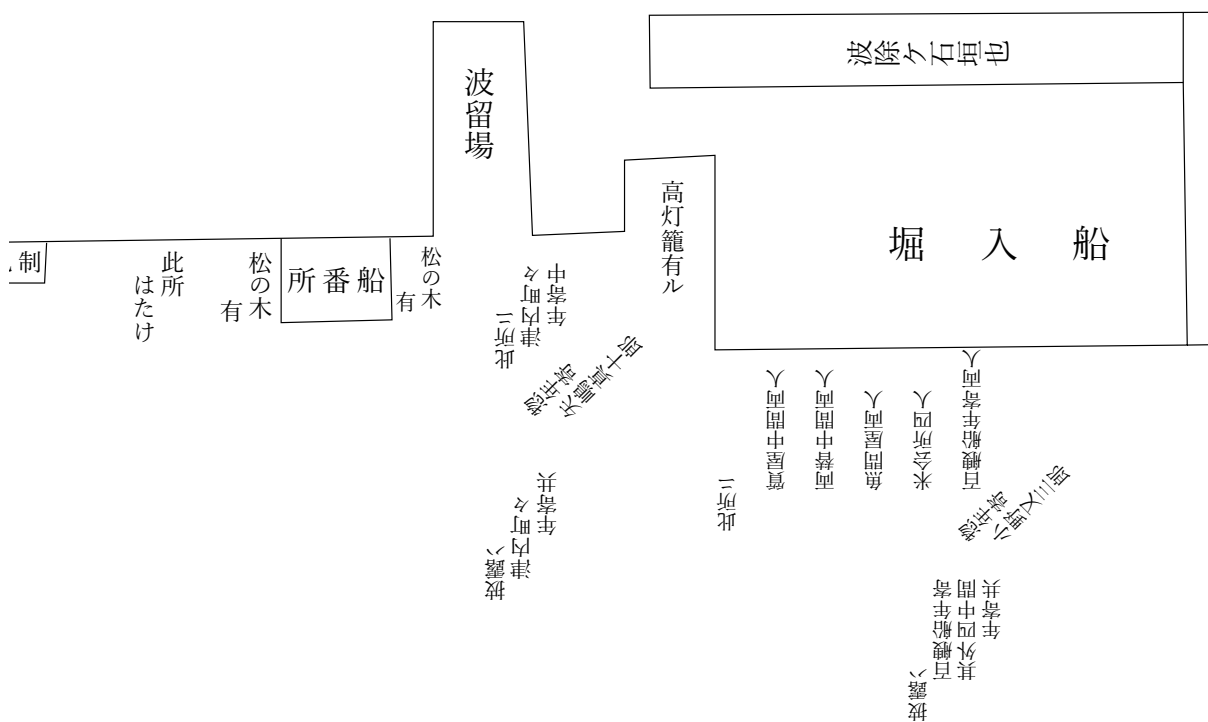
通筋

東

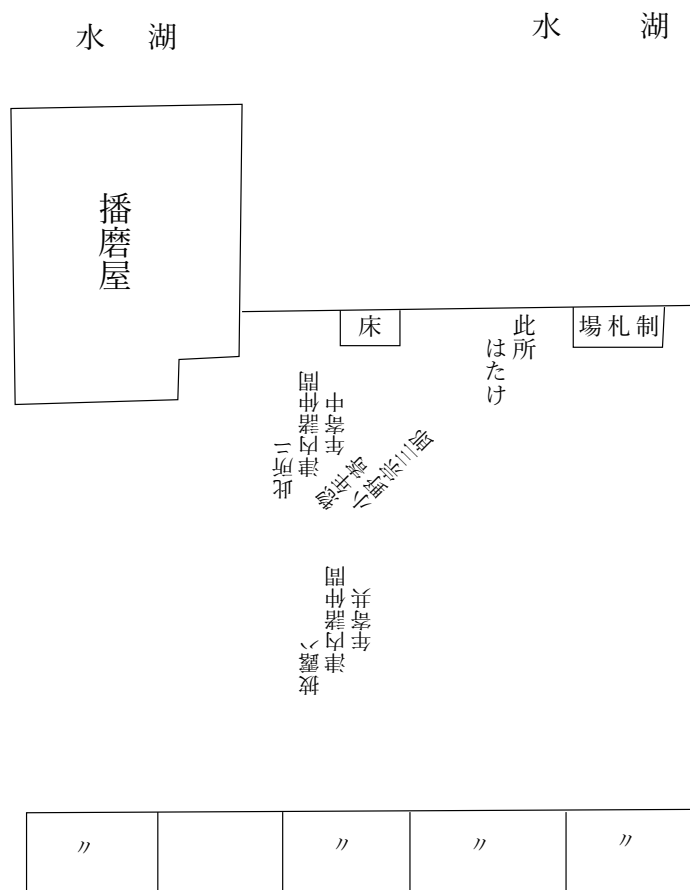
御出迎之順列并惣年寄よりの披露方左之通、

家町	”	”	”	”	家町	南
----	---	---	---	---	----	---

水湖



、	家町	”	”	”	”	”	”	家
---	----	---	---	---	---	---	---	---



右之通二候也、
但御当日貸船屋惣代、船大工仁右衛門、善兵衛義、当仲間を東ノ方へ罷出居候ヲ見請候二付、惣年寄衆へ申入候処、早速呼つけ諸仲間之内へ被追下ケ申候、尤湖上貸船惣代と申、町方ヲ放レ相勤候趣、仁右衛門相答候得共、不取用旨小野氏を御嚮二而承り申候、右貸船屋之もの共、是迄罷出候義不及見聞候処、全此度始而罷出候事二候間、是等も当仲間方二ハ心得可置事二付、爰二留メ置候もの也、

為肴料

惣年寄

小野又三郎殿

一、南鐐沓片宛

同

矢嶋真十郎殿

此度ハ如此遣し置候得共、重而ハ言葉ノ挨拶計歟、又ハ諸白式升宛切手二而遣し候位にて可然哉、其節の勘弁ヲ以何連共相究メ可申事、右十月廿六日治郎左衛門致持参、誠ニ仲間趣意御熟得被下、別段之御披露ニ預り、一同安心いたし候、猶以来之義も外仲間方と同様混雜不致様、私方得と御義定仕置呉候様一同申之二付、参上仕候と申入候処、小野氏被申候ハ、此度之義拙者共両家記録二留メ置、勿論悴へも得と申含置候事故、此後外仲間方如何躰申出候共取用ひ不申、いつまでも違ひ候義無之間、其仲間ニも其旨書留被置、安心可被致居と御申被成候、旦矢嶋氏ハ此間中御義定申置候通、後々相変候義者無之旨御申有之候事、

臘月九日

京都寒氣御伺

東西両

真鴨一掛宛

一、御奉行様江

二重くり白台

下ケ札附

右

一、御用人、御取次、不残手札計、

東御公事方

西同断

四方田重丞様

深谷平左衛門様

上田弥右衛門様

不破伊左衛門様

木村清左衛門様

入江吉兵衛様

本多金右衛門様

本多新左衛門様

右八軒へハ南鐐沓片つゝ、

一、右御下役御組同心中へハ手札計、

町代

一、田内彦助殿へ 銀三匁

一、若狭屋八兵衛殿へ ひとり一羽

ノ

右之通次郎左衛門、孫右衛門相勤ル、供加兵衛

覺

一、金子百疋

右ハ從当津御家中并御人足渡海為御挨拶、從御前被下置慥頂戴仕候、已上、

西十二月十五日

百艘印

西川五郎兵衛様

覺

一、御納豆五拾把

右ハ御旧例之通從御前不相替被下置、難有頂戴仕候、以上、

西十二月十五日

百艘印

西川五郎兵衛様

当十月船方下役北出雲平殿御頼被成候趣ハ、我等儀近來不勝手ニ候處、家内ニ無抛臨時之物入打続、追々借財相増、最早他借可致手便も無之、既ニ此節銀子壹貫五百匁無之候而ハ、必至の難渋ニ相成候儀御座候ニ付、町内并懇意の方へ嚮いたし候處、講儀取結被呉候積ニ而、如才なく世話致被呉候得共、時節柄之事故差支筋多候而相調不申、且ハ小給なからも役義相勤罷有候へハ、講元名前御役所向江相聞へ候義を恐入、甚心配いたし罷有候、何卒各々方初并八ヶ浦切

(貼紙)

二而穩便之御取計を以、右銀高御調「達被下候様仕度、幸此節八ヶ浦」舟運上納ニ被登候ハ、夫々相頼置申度候へ共、第一各々方

も御執成」不被下候而ハ、中々相調申間敷候間、其段御含被下、何分御調被下候様と無抛御頼ニ付、猶中間方ニ而も如才なく評儀可致候間、八ヶ浦へハ其御方より一応御頼置可被成と、返答いたし置候事、

一、十月六日九日迄常樂寺一件ニ付、当浦ニて堅田、八幡寄合之席ニ而、右北出氏御頼之義第二申出候處銀壹貫匁八ヶ浦方調達被致候ハ、残り五百匁ハ大津浦ニ而都合可致旨申談置候處、堅田、八幡被申候ニハ、近々堅田浦へ八ヶ浦を寄せ相談いたし候上取究メ、右御返事可致旨被申之、何分其節ハ宜敷披露被致遣候と申置候事、

一、同月下旬、舟木浦善六、次郎左衛門宅へ被參、北出氏方御頼一儀ニ付、此間中堅田浦へ八ヶ浦打寄評議仕候處、何れも時節柄之事故迷惑ニハ存候へ共、適々御頼被成、勿論委細承り候處、無抛御難義之事ニ候故難默止、氣之毒ニ奉存候間、銀高壹貫匁を浦割ニ可致と事ニ候得共、舟木浦、大溝浦者、就中小浦ニ而纔之舟数ニ候へハ、浦割之調達迎も出來不申候(貼紙)間、勢田橋懸り同様、此度之儀も櫓打ニ割申度旨申立候へ共、塩津被申候ハ、勢田橋御掛替之節御拝借」銀浦割ニ致仕來り有之候へハ、取方ハ浦割、出方ハ櫓割ニ相成候而ハ、勝手成申立ニ候、畢竟別而此度之義ハ内々の御頼筋ニ候へハ、猶以櫓打ニハ難相成候、乍併舟木、大溝御難渋ニ相成候義も氣之毒ニ存候間、何卒惣銀高相減シ候様、今一応北出氏へ歎キ出候様、可然「貼紙との一同評儀ニ付、則為惣代八幡、堅田被登、北出氏へ右かけ合ニ被參居候、大溝者在所表へ相談ニ歸村」被致候、然ル處、舟木浦之儀者段々困窮仕、連々舟数相減し候上、先頃彦三郎舟若州様御米積登り故障有之、中間方ニも臨時大物入出來、別而此一兩年水損ニ而田畑共皆無、極難之年柄ニ御座候間、格別之御勘弁を以、舟木浦并大溝浦之

分も別段ニ御減し被下候様御頼申上度、内々伺公^(候)いたし候と善六被
申候二付、次郎左衛門申候二ハ、此方二而取計方ハ無之候御頼筋二
候へ共、猶堅田、八幡^{被申候へ}も参り可申候間、様子承り、可成ル義ハ勘弁
いたし可遣旨申返し候、引続其跡へ八幡^{堅田}新左衛門、八幡舟木利右衛
門、次郎左衛門方へ被参、此間中堅田浦二而八ヶ浦相談之始末被申聞、
夫二付致上津、只今迄北出氏へ罷越居申、一躰減し方之儀かけ合候
処、何分都合いたし呉候様御頼被成候二付引取申候、如何候可致哉
と之儀二付、次郎左衛門申候ハ、先刻舟木善六^被被参委細承り申し候
処、舟木、大溝者浦割之出銀難出来段、道理ニも存候間、右両浦ハ
一浦^ハ銀貳枚位差為出、右不足之分残り六ヶ浦^ハ償ひ被遣候儀ハ相
成間敷哉と尋候処、銀高壹貫匁を八ヶ浦へ割候へハ、百廿五匁つゝ
二相成申候処、舟木、大溝八十六匁つゝ二致候時ハ、七十八匁不足
仕候、右之内五拾匁位ハ、六ヶ浦へ割加へ申度候、其余ハ出方無之
様存困り候と被申候二付、其分各々御身分ニ被引請、都合被致遣候
へハ、品能相調候義ニ存候、尤御内証費ニハ不為致、其訳合ハ此方
ハ北出氏へ委細ニ可申入候と申談候故、新左衛門利右衛門兩人共承
知被致候二付、其席へ舟木善六相招キ、右之次第申為聞、銀貳枚ハ
出銀被致候様申聞、善六義も承知被致候、尤大溝浦へも善六^被申被
達候様申聞置候、其後又々堅田浦二而一同評議相究り候旨を以、左
之通書付相認、八まん利右衛門持参被致置候事、

覚

一、百四十八匁三分三り 堅田浦
一、百四十八匁三分三り 八幡浦
一、百三十四匁三分三り 塩津浦
一、百三十四匁三分三り 海津浦
一、百三十四匁三分三り 今津浦

一、百貳十六匁 大浦
一、八十七匁 大溝

金六拾貳匁立
錢九匁式分

右者来ル十一月十日切二浦々^ハ登り申候、尤請取書御出し被成可被
下候、

此本紙ハ取片付有之、

右銀子持参被致候節遣し置候請取手形之案文

覚

一、銀何程

代金

錢

右之通受取申候、北出氏へ慥ニ相達可申候、以上、

酉月日 百艘印

何浦

舟年寄中

一、其後大溝浦源右衛門、次郎左衛門宅へ金子壹兩持参被致、段々困窮
□□^{二付}何分不調達二候間、右壹兩ニ而相濟候様取計呉候様被申候二付、
次郎左衛門^ハ段々利解申聞候処、然らハ今一応在所元ニ而相談いた
し、跡より右御返事可仕間、先づ壹兩受取置被呉候様被申、任其意
候二付、此差引銀廿五匁不参ニ御座候、

一、去ル子十二月北出氏^ハ御頼二付、御居宅家之沽券状并町役人連印之
証文取之、銀三百匁中間^ハ出銀いたし遣置候処、此度銀五百匁出銀
之内ニ而致差引相濟、尤利足不参凡百八拾匁計有之候へ共用捨致遣ス、

覚

一、銀貳百五拾匁

一、金十四兩三步 六十式匁五分かへ

此銀九百廿一匁八分七厘

一、銀三匁壹歩三り

✂ 壹貫百七拾五匁相渡ス、

外二銀三百匁、百艘方へ去ル子年取かへ之分、

銀廿五匁、大溝浦不参、

合銀高壹貫五百匁也、

此訳壹貫匁ハ八ヶ浦出銀之分

五百匁ハ百艘へ出銀之分

✂

右之通十二月十四日夕、三郎兵衛、次郎左衛門致持参相渡候二付、

左之通請取書取置申候、

請取一札之事

一、銀百四十八匁三分三り

一、銀百四十八匁三分三り

一、銀百三十四匁三分三り

一、銀百三十四匁三分三り

一、銀百三十四匁三分三り

一、銀百貳拾六匁

一、銀八拾七匁

一、銀八拾七匁

✂ 銀高壹貫目

銀高五百目

二口✂ 銀壹貫五百匁也、

右之銀子要用二付御頼申上候処、早速書面之通御調達被下置忝存候、

為念請取一札仍而如件、

享和元年酉十二月日

百艘御仲間参

北出雲平印

右請取一札壹通、外二八ヶ浦出銀高割書壹通并百艘へ浦々へ出し候
請取書案文壹通とも、取片付置申候事、

覚

一、酒五升

生鯛壹枚、赤貝五つ

右ハ肝煎役忠助義、此度養子被致名前相譲り、身分ハ七兵衛と相改、
実父跡相続被致候二付、養子右忠助顔見せ并先忠介事七兵衛と改名
之祝として被差出候事、

一、酒貳升

肴

右ハ肝煎役六兵衛事孫九郎、肝煎役倅^喜三郎事六兵衛と改名之祝と
して被差出候事、

右之通十二月十五日、中間講会之席二而披露有之候、

但

十月廿一日、六兵衛船八幡行積下り、田中江差船当津番二而則六兵
衛小口之事也、幸ひもどり船之節田中江様子聞合せ積登り候様、舟
付久兵衛へ得与申含メ被遣、尤中間へも出船前二舟主へ被届置、其
後十一月七日、田中江へ大津番二付早々船差下シ候様書面到来候
二付、爰元ニ存候二ハ出舟以来数日ニ相成候間、定而積のき候而
又々跡たて小口を被差越候義哉与推量り、小口勘三郎へ差付ケ翌朝
日和も無之不出候処、同夕又候田中江へ大津六兵衛舟江頭ニ参り合
候二付、久兵衛積歸り度被申候二付、彼舟へ積登し候様被申越候二

付、勘三郎へ差付置候へとも出舟止メさせ申也、仮令翌朝日和無之故差而混雜も不致候へとも、若し出舟いたし気色替り、中途二懸り居候へハ舟主迷惑ニおよび、又ハ早束^速乗り込候へハ差浦ニ而兩艘混雜いたし、儲引事故互ニ心不宣、帳^帳や^も二而不取計与存候二付、角兵衛被登候節相招き糺し候処、全元ハ久兵衛不心得ニ相究り、一統相談いたし、歸り舟之節呼付、久兵衛身分差留メ申付候、尤舟主ハ初前二届ヶ被置、且外浦へ不拘義二付、無別条久兵衛計之咎メニ相成候、右二付挨拶人押手之内新藏、藤八度々断ニ参り候二付、相談之上右久兵衛并挨拶人藤八呼寄せ、以来之儀申渡相済申候、

覚

一、金子百足

右者朽木兵庫助様々当酉年分例之通被下置、慥ニ請取申候、以上、

大津百艘

享和元年

舟年寄印

西十二月

御用達

升屋市郎右衛門殿

(印:「百艘」)

(裏表紙)

七拾六番

百艘

二、「万留帳」享和二年（一八〇二）

（表紙）

七拾七番

万留帳

壬戌 享和貳年

正月吉日

（表紙見返し）

（印：「百艘」）

（本文）

目録

- 一、貸船屋之者共貸船賃銀相滞候ニ付御廻状相願候事、
- 一、小濱小左衛門舟遣ハ相止メ替り同所文四郎舟遣候ニ付届ケニ参候之留書、
- 一、下組小舟忠兵衛儀困窮ニ付合力之事、
- 一、四ノ宮庚申堂地築付寄附之事、并四宮社修覆ニ付寄附之儀被頼候ヘ共断申候事、
- 一、御所司代土井大炊頭様御蔵御順見之事、
- 右ニ付橋本町八まん屋之段前掃除之儀被申越候事、
- 一、吾妻川見分之事、
- 一、新二郎、忠二郎、龍之助出勤候事、
- 一、京御組様勢田橋御見分ニ付小舟入ル御乗舟之事、
- 一、御役所浅井、高嶋、野洲村々水難ニ付御手当米舟積之事、
- 一、当所御手代内藤様江戸御下リ之事^{ニ付}矢橋ヘ先触出し候事、

一、風呂屋之関下ノ石垣際ニ水死人有之町内掛り之事、

一、常楽寺^来ノ登候米之儀ニ付書状并返翰之写、

一、上下小舟過人之事、

一、酒甚^方坂本ヘ法経搭船積、

一、海津与兵衛艦ニ而水死人之事、

一、坂本浦舟積之儀ニ付出願致候故当中間ヘ取喰被仰付候事、

正月三日、京都御礼

西御奉行

曲渕和泉守様

金子三百疋

目録台
下ケ札付

御用人

藤田一郎様

御取次

椎名一右衛門様

星野半右衛門様

佐藤太仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

右九軒江銀壱両宛

東御奉行

森川越前守様

御用人

小柴宗右衛門様

御取次

村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

中川源兵衛様

村田忠兵衛様

船曳泰助様

石川与左衛門様

杉野幸右衛門様

右九軒江銀壱両宛

芝田栄蔵様

西御公事方

深谷平左衛門様

不破伊左衛門様

入江吉兵衛様

本多新左衛門様

右八軒江金子百足宛

西御公事下

千賀与三右衛門様

浅賀卯兵衛様

上田八蔵様

菊地治左衛門様

柏原治部右衛門様

廣瀬左野右衛門様

酒井宗助様

東御公事方

四方田重丞様

上田弥右衛門様

木村清左衛門様

本田金右衛門様

東御公事下

寺田官左衛門様

中川奎左衛門様

末吉新五郎様

森儀左衛門様

中川定右衛門様

櫛橋平蔵様

喜多尾八郎右衛門様

平尾安左衛門様

右十五軒江白銀壹両宛

上町代田内与助殿

下町代藤沢傳六殿

同藤村佐市殿

上町代中江

下町代中江

東西御門番江

小番中江

東西仲番中江

筆工奥田九右衛門殿江

宿鍵屋左助江

宿鍵屋下女中江

貳百文

追分丸屋四郎兵衛江

百文

山科大津屋孫右衛門江

百文

✂

披露ふた貳枚、ケ札貳枚、差出し貳枚

右御礼孫九郎、勘三郎相勤ル、供嘉兵衛、荷持和助

二日、当所御礼

石原庄三郎様

金子貳百足

目録台、下ケ札付

御手付

石丸三五右衛門様

元✂

福永久次右衛門様

〃

内藤伍三右衛門様

町懸り

芝山泰蔵様

元✂加判

七里佐六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁多様

小頭

右七軒へ金百足つゝ

船方下

北出雲平様

赤井平六様

惣年寄

目付

矢嶋真十郎殿

高橋角左衛門様

〃

多胡甚助様

小野又三郎殿

〔船越多賀喜曾太様〕

町代

堀伊三郎殿

〃

遠藤十五郎殿

右十軒へ白銀壱両つゝ

肝煎

吉本弥四郎殿

御門吟助殿へ五百文

山本助九郎殿

御袋へ貳百文

右式軒へ鳥目貳拾疋つゝ

御足輕 半七殿

小遣 梅八殿

藤七殿、メ三人へ貳百文つゝ

メ金貳両壹歩 五百文壹つ

銀壱両拾ヶ 貳百文六つ

白崎久太夫様 御蔵番三人

組屋敷不残 御門内御手代衆

平蔵町年寄

右者手札計二而相勤申候、

太郎兵衛、九兵衛、供与八

正月四日、初寄合役人不残出勤、例年之通諸帳面勘定相済候、尤不相替中飯有之候事、

七日、惣番積

船頭共へ酒、とうふ

正月十一日、帳固メ式日、役人不残出勤相祝ひ候事、

諸白三升入 壺樽

尾花川町船方

源太郎

するめ

貳把

甚兵衛

諸白貳升入 壺樽

下組小舟中

甚兵衛

まんちう

百

上組小舟中

仁右衛門

酒貳升入

壺樽

せきふね

治兵衛

諸白貳升入

壺樽

さかもと

新兵衛

右之通持参、例年之通無滞相済、
兩人俱々人付添参る

但し尾花川町舟方、兩人俱々人付添参る勝手二おゐて酒給させ候上引取被申候、次座二

上下小舟四人二も右同断之事、

尤肴、組重并吸ものハ奥座敷へ遣ひ候、ひら之具を出す、

関舟治兵衛、坂本新兵衛ハ勝手方世話、奥座敷之給仕済候跡二而酒

飯祝ハせ候事、

正月十五日、芦浦御礼

一、観音寺様

扇子三本入壺箱献る、昆布熨斗包添、

但し扇箱くりあし也、台二乗せ、

右当年も矢張御在京二付御逢無之、然ルとも御酒御節子等不相替被下置候事、

御家中

片岡喜右衛門様

西川五郎兵衛様

下物

久松清右衛門様

右三軒へ扇子三本入壺箱ツ、配し候、

右之通川七兵衛、六兵衛無滞相勤ル、供廻り与八

上巳御礼

石原庄三郎様

青銅百疋ツ、竹札付

元々

福永久治右衛門様

〃

内藤伍左衛門様

町役

芝山泰蔵様

元々

七里佐六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右六軒へ青銅五拾疋ツ、

右之外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏手札計二而相勤申候事、

与治兵衛、孫九郎相勤、雇イセキ舟、供治助

一、湖辺貸船屋之もの共、貸船賃銀相滞有之難義之趣二付、此段御役所表へ御願申上候処、御役所方湖辺浦々江之御廻状頂戴仕候二付、二月三日当会所へ持参いたし候二付請印致遣し候、尤右御廻状之写并

委細之義ハ、別帋帳面二相記し、貸船屋一件箱二入置候二付爰二略ス、

小濱村小左衛門小舟遣ひ被来候処、当戌年より相止メラレ、右代りを同所文四郎与申仁二替り、則右文四郎三月十八日二当会所へ届ケ二被参候事、

但し其節舟積之義二付鹿略致され間敷旨申入置候事、

一、三月廿九日、せたる例年之通うぐぬ三十一、船年寄太兵衛持参、役人中配当、

四月朔日、例之通日吉御神事之船御配符式箱外^{之内}二、仲間江壺通、又船方御役人中より之御配符壺通、御役所より御配符式通、山田、矢橋江御配符壺通、片田浦方塩津迄之御配符壺通、又六通、

覚

一、船数五艘

但百五拾石積方式百石積迄

是者日吉御神事御名代船、奉行船、日吉惣政所船并供船

右之船来ル廿日、日吉御神事二付、如例年可差出候、尤服忌差合之もの相改可申候、以上、

戌四月朔日 石庄三郎御判

大津百艘

船持

一、船割賦壺通、山田浦

矢^{矢橋}浦浦江

四月朔日廻り嘉兵衛江相渡、

御文言例之通二候故略之、

一、船割賦壺箱^{片田}今津浦始

御文言左之通、

来ル廿日日吉御神事、神輿船割賦之事、

堅田浦

丸船貳艘 水主九人 船年寄
外楫取壹人

但百八拾石積方貳百石積迄

二宮方早船

今津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 甚助
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 十左衛門

丸船壹艘 右同断 八郎左衛門

丸船壹艘 右同断 市三郎

海津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 治左衛門
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 嘉助

丸船壹艘 右同断 甚兵衛

丸船壹艘 右同断 船年寄

但百九拾石以上之船可差出、

塩津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 又左衛門
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 八郎兵衛

丸船壹艘 右同断 弥助

丸船壹艘 右同断 惣右衛門

右之船例年之通致吟味、来ル廿日以前大津江着船可致候、尤服忌差合之もの相改可申候、此配符令請印、早々順達、留り所可相返もの也、

戊四月朔日 石庄三郎御印

堅田

今津

海津

塩津

右浦々

船年寄

外二船方御役人福永久次右衛門様、内堀繁太様を御添状を通有之、文言例之通候間略之、

右之式通、升屋町近江屋庄助方、片田飛脚柳屋宿二付遣入、

一、御廻文を通 坂本浦始 四月朔日、七本柳又四郎江相渡、

一、同 沓通 矢橋浦始 四月朔日、廻り嘉兵衛江相渡、

右式通御文言爰四五年迄之ことく二候間略之、

外二松本浦江之御配符、例年此方を取次遣し候所、^(貼紙)一兩年以前を御

役所二而直々御渡し有之、当年も其趣二而御役所を直々御渡し被成

候、

当戊三月下旬

一、下組小船持之内忠兵衛儀、極困窮之上当春以来永々病氣二罷有、別而幼少之子供多有之処、妻儀も流行之風邪二而久々伏居申、甚以難儀仕候趣申立、^(二付)合力願書差出候二付、仲ヶ間及相談候処、是迄上下を右躰之儀願申出候ものも無之、新規之事二候へハ難取用ひ、乍併右忠兵衛儀者正直成もの二而、常々当仲間方之儀都而大切二存込居

候ものゆへ、甚^{銘々}氣之毒ニ存候事ニ付、格外之勘弁ヲ以、当役人割出し二いたし、錢貳貫文遣^{四月十日廻り平兵衛ニ為持遣又}申候、然し者重而右牀願出候もの有之候共決^{中間の卿合方ケ間敷儀}而取上ケ間敷致間敷、勿論役人割出しの合力者、先の人柄ニ寄取計可致遣事、

一、当戊四月十五日^六十九日迄、四宮町庚申堂清岳院地築ニ付、右講中并花階寺檀中付添、四月八日まうちう百五拾被致持參頼ニ被參候ニ付、金子百足寄附仕候事、

一、四月、四宮社務志賀宮内少輔、宮本町代南保町年寄山田屋藤兵衛、此度神社拜殿屋根廻り及破損ニ候ニ付、当中間方も寄附致呉候様頼被參候ニ付、十三日右山田屋藤兵衛方へ及返答候者、当中間之義ハ是迄本社内ノ奥向金物一式寄附致有之候へハ、外御修覆之義ハ一切御断申候間、此段神主江可然御通達被下候様申置候、山藤承知之旨被申居候、

一、四月廿二日、御役所^呼ニ參、年寄次郎左衛門罷出候処、内堀繁太様被仰候ニハ、来ル廿五日近松寺、寺門、当所御蔵、御役所、夫^石山、御歸リニ四宮、関清水為御順見と、御所司代土井大炊頭様御越被遊候筈ニ付、例之通白砂あけさせ呉候様、尤御蔵江ハ其方^方あけ候例無之由、先達而之節被申立候処へ共、先役服部丈右衛門儀御蔵役兼勤居ゆへ哉、御蔵へも其方^方あけさせ候旨^趣留書有之旨被仰聞候ニ付、前々^々御蔵入用之砂別段被仰付候義ハ無御座候得共、御役所御入用ニ而被仰付候内を以、御蔵へもあけ候事^{様右砂}を舟揚之節運ひ候ものへ御差図有之候而、あけ候事ニも可有御座段御答申上候処、定而左様之事ニ而可有之、此度之儀も御役所御用と存あけさせ可申、尤此

度者砂多候而、近頃氣之毒ニハ存候得共、七艘あけ候様被仰付、則坂本新兵衛へ申付、廿三日、廿四日兩日ニあけさせ申し候、猶又其節被仰候ニハ、御役所裏ニ御茶屋繕ひ置、暫御小休可被遊儀も可有之候ニ付、其間ハ東西方之通船差留候様可致先格、肥し船差留觸差出候へ共、不及其儀候間、是又其方^方差留申達、御目障無様取計可仕、且金藏堀、扇や関御通行之節、舟方見苦儀無之様いたし置、加子不礼無之様可申付旨被仰渡候ニ付、坂本へハ廿三日書状を以肥し舟差留申遣ス、当所艀持中へハ廿四日人相廻し申達ス、金藏堀舟者堀西方ならへ、成丈ケ東ノ方明キ候様いたし、勿論梶石垣際方出張不申様いたし置ク、扇屋関舟ハ堀上ノ方江詰させ置候、川口堀舟共中保町見通シ方下へ引下ケ置、御当日ニハ御通行相濟候迄年寄、肝煎関々見廻り制度いたし申候、

一、同廿三日、町方御役所^呼ニ參、太郎兵衛罷出候処、金藏堀掃除御蔵町、蔵橋町へ申付置候間、例之通舟ハ其中間方差出し候様と被仰渡候ニ付、廿四日尾花川艀壹艘、人吉人付而差出ス、両町方ハ一町方人足式人被差出候処、明朝も御着前ニ浮もの取拾候様被仰付、前日同様御着前迄艀壹艘、人吉人付ケ遣ス、

一、同廿四日、御役所^呼ニ參、孫右衛門罷出候処、内堀様被仰候ニハ、御所司代様當御役所^呼御立被遊次第、直ニ御代官様正蓮坊まで早船ニ而御先キ江御出被成、御待受被遊候思召ニ候間、右小舟壹艘差出候様被仰渡候ニ付、孫右衛門申上候ハ、随分増加子差入、何卒御間ニ合候様出情可仕候へ共、陸地御ひろひ早く、舟路ハ遅きものニ而、別而風浪之程も難計義ニ候へハ、御請合者難仕段御断申上候処、随分尤なる申立ニ候得共、陸地ハ御差支之事有之候故、何分手当仕置

候様被仰付、^{上組新八舟二}王組小舟加子七人のせ、内五人櫓、残式人ハへ先二而

竿之積用意いたし、年寄次郎左衛門付添御役所東口の水門へ相廻し、
夫ハ御乗舟被遊候処、余程北風有之候二付、御近習御手廻り并次郎
左衛門「^{いづれも}銘々板二而水かき差急キ候二付、随分御間二合

無滞相勤候、尤御所司代様ニも御馬二被召候故陸地早く候得共、御
持屋敷平蔵町御いと蔵へ御寄被遊候二付、如此^{被仰付候ハ、}御間二合申候得共、
右之通御馬二而御持屋敷江之御立寄も不被成、御馬二而御座候へハ
甚以無覚束事二候間、重而^{被仰付候ハ、}其心得を以御答可申事、右二付加子

七人酒三升遣候処、猶又御役所も御酒三升被下置、中間へ頂戴仕
置候、留書奥二相記有之、

一、御役所裏通舟差留として、舟屋忠兵衛持田地養舟吉艘、風呂屋関会
所前江廻し置、東方の通船入舟共制度致ス、西八大濱崎二坂本新兵
衛江艀申付置、制度為致候事、

役人手配り

一、追分御出迎

御見送上関寺町二而

風呂屋関

一、舟会所詰

一、川口堀

金蔵堀

扇屋関

一、嶋ノ関

小舟入

孫九郎
六兵衛

孫右衛門 供廻り新八

与次兵衛

今七兵衛、廻り

六兵衛 嘉兵衛

新次郎 与八

次郎左衛門

勘三郎

忠次郎

川口

七兵衛

新次郎

御順見所々

一、山科十禅寺、高観音、巡礼観音、寺門坊中二而御昼、夫ハ御道筋大
門町、北保町、中保町、西川口、升屋町、御蔵町を御蔵へ御入、夫
ハ御役所へ御入、夫ハ扇屋関を浜通石山へ御越、御帰り二四ノ宮、
夫ハ八町御本陣二而御小休、夫ハ関清水御順見被遊、御帰京、

一、酒三升

右ハ御代官早船加子七人のものへ遣ス、尤加子賃之義ハ、^{盆前}外役
ふね加子賃同様盆前二払可致事、

一、式百文

右ハ小船入、嶋ノ関掃除人足式人半日雇賃錢、尤貸付置候地面ハ借
り主方より人足差出しそうし為致候事、

一、右御所司代様御通行二付、橋本町八まん屋の段前湖中掃除いたし候
様、此方廻り新八江町分ハ伝言被申越候二付、^左町内大文字屋新七
殿平生の任熟意ニ、内々ニ而招キ様子承合せ候処、一応承合可申旨
ニ而被帰、其後被參、先刻御道見分ニ御出被成候御役人中ハ申遣候
様被仰候故申遣候迄ニ而、町内ハ申遣候義ニ而ハ無之旨、年寄申居
候と之義二付、左様ニ而ハ町分ニも百艘ハ可致筈ニ御心得被成候旨
ニ相聞へ候へハ、此方ハ致置候儀も難致事二候へ共、差懸り御かけ
合ニ及候段も氣之毒ニ存、勿論此砌ハ満水ニ付、さし而手の込候掃
除ニハ無之故、夕方此方ハ取捨させ置可申候得共、御為方ニ意味違
之儀有之候而、重而差支等出来候而ハ御互ニ不能候間、近々御町分
御寄之序ニ、其元ハ御尊被成思召御申聞可被下と申談候処、其段承
知之旨申之被帰候事、

四月廿五日

一、鱒五本

貝半へ預り

沖ノ嶋に到来之分

一、御酒三升、但し切手二而

右ハ当廿五日御所司代様御越之節、当所御殿様正連坊迄早船二而、御越之御用向無滞相勤候二付、右殿様を被下置難有頂戴仕候、為御礼と、孫右衛門、袴羽織二而御玄關迄御礼二罷出候、

但し加子共へハ先達而中間を酒三升遣置候事二付、右被下置候酒者中間へ頂戴仕置候事、

五月五日、御礼

石原庄三郎様 青銅百足、木札付

元々

福永久次右衛門様

//

内藤伍三右衛門様

町懸

芝山泰蔵様

元々加判

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁多様

右六軒へ青銅五拾疋つゝ、

右之外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ名札計二而相勤申候、

治郎左衛門、九兵衛、供平兵衛

覚

一、御用長持壱棹 此人足四人

一、山駕籠壱挺 此人足三人

一、分持式荷 此人足式人

一、合羽駕籠 此人足壱人半

人足拾人半

右者当麦作并御普請所等見分為御用、明後九日大津出立、野洲郡北桜村マテ被相越候間、於宿々御定之賃錢請取之、書面之人足無遅滞可被差出候、且川越、船渡等之場所、前宿を為通達候、是又差支無之様可被取計候、尤雨天日送り之積可被相心得候、此先触早々継送り、留之村を旅宿へ可被相返候、已上、

戊五月七日

石原庄三郎手代

福永五作印

浅野政蔵印

大津

百艘 九日泊り 守山

矢橋 石部宿々

草津 問屋、年寄中

栗太郡

駒井沢村 追而上下九人止宿賄ひ候積可被相心得候、以上、

守山

野洲郡

北桜村 五月七日来、九ツ時写取即刻矢橋へ順達候也、

五月廿一日、例年之通神酒拝戴、役人不残相祝ひ候事、

但し坂本町組忠治郎殿、大津町組新治郎殿、北之町組瀧之助殿

右三人之衆中先達而中間相談之上、当正月廿一日を勤方目馴候様、無何角日毎相詰させ置、然ル処、当集席より改出勤之盃有之候二付、いまた席究メも無御座候間、前辺之形り振りを以一二三之鬨二任せ、勿論組役老人宛三町立会、則座列左之通御座候、

一 新治郎

二 忠治郎

三 瀧之助

右之通席究り、則三人之衆中席順より座敷二おゐて見習出勤之盃無滞相済、其節右三人之衆中組合、酒三升、大生鯛壹枚、栄螺、祝儀として差出され、不打置料^(マツ)らせ、其席二而一統目出度相祝ひ候事、

一、五月廿六日、園城寺より竹之子拾本例之通到来、

五月廿七日

一、大坂御目附代 進喜太郎様
夏目内膳様

石山筋御供^(マツ)瀬御順見二付、扇屋関御出迎、

治郎左衛門、孫右衛門、供与八

覚

一、艀船五艘 幅三尺八寸五四尺

但壺ヶ村より壺艘宛

右者御茶壺御下向、来月六日宇治御出立、同日守山宿御止宿、翌七日横関川渡船之御用二候間、丈夫成船致吟味、洗之柄搦^(サ)壺本宛船毎二入置、六日昼時迄二横関川渡場江船差出可相勤候、此配符令受印、昼夜不限早々順達、留り所る可相返候、以上、

大津

戊五月廿八日 御役所

野洲郡

野村

江頭

蒲生郡

長命寺門前

南津田

船木

右村々

庄屋

船年寄

覚

一、艀舟八艘 幅三尺八寸五四尺

但壺ヶ村を式艘宛

右者御茶壺御下向、来月六日宇治御出立、同日守山宿御止宿、翌七日野洲川渡船之御用二候間、丈夫成舟致吟味、洗之柄搦^(サ)壺本宛船毎二入置、六日昼時迄二野洲川渡場江舟差出可相勤候、此配符令請印、昼夜不限早々順達、留り所る可相返候、以上、

大津

戊五月廿八日 御役所

野洲郡

安治

幸津川

小濱

吉川

右村々

庄屋
船年寄

右式箱八幡之利右衛門被參頼遣ス、

安治村江三百五拾文、野むら江四百文

×七百五拾文飛脚賃申遣ス、廿八日八つ半時相渡、

一、六月九日、吾妻川浚之見分として、元×七里左六郎殿、同心川嶋文左衛門殿御越、百艘持場洲先波除いたし候様被申聞候二付、年寄与次兵衛罷出、其迄之振合申上、格別入用等相懸り候而ハ迷惑いたし候間御断申上候所、何分勘弁いたし入用相懸り不申候様取計、箒二而も少々いたし候様被申聞候二付、追而可申上旨申置候事、

一、六月十七日、從御役所御廻状式箱參ル、御文言左之通、
例年之通、湖上船増減入念相改帳面二記、来月朔日より十日迄二持參可致候、遲滞有之間敷候、此配符致請印、早々順達、留り所より可相返候、以上、

大津
御役所御印
戌六月十七日

川道留り
右浦々庄屋
船年寄

大津始り、即日坂本四ツや九兵衛へ渡、
書面之趣貸船屋江も可申聞候、
右同御文言老通、松本三ヶ所始り伊庭留り、
右浦々庄屋、船年寄、即刻廻り与八二相渡、
口上

一、貸船増減相改帳面二相記、来月朔日より十日迄上納可被致候、此廻状早々順達、留り所より百艘会所江御返し可被成候、以上、

六月十七日
百艘印

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、太右衛門、源七、
五郎八、善兵衛、源六

一、六月廿三日、三井寺より暑氣見舞与して、例年之通素麵廿把到来いたし候事、

六月廿七日、京都暑中御窺

西御奉行

一、曲渕和泉守様
金子貳百足
目録台
下ヶ札附

御用人
御取次

鈴木順平様
藤田一郎様
原田仙助様
星野半右衛門様
右ノ九軒手札計
矢沢龍右衛門様
柴忠五郎様
佐藤左一郎様

御勝手方

東御奉行

一、森川越前守様
金子貳百足
目録台
下ヶ札附

御用人

御取次

小柴宗右衛門様
鈴木又兵衛様
石川与左衛門様
御勝手御用人
村田直右衛門様
中川源兵衛様
松野小右衛門様
柴田栄蔵様

村田忠兵衛様

右八軒手札計

西御公事方

深谷平左衛門様

不破伊左衛門様

入江吉兵衛様

本多新左衛門様

右四軒へ白銀壹両宛

同御下

千賀与三右衛門様

浅賀卯兵衛様

上田八藏様

菊地治左衛門様

柏原治部右衛門様

廣瀬左野右衛門様

酒井宗助様

右七軒手札計

同御下

寺田官左衛門様

末吉新五郎様

喜多尾八郎右衛門様

森儀左衛門様

中川定右衛門様

同左左衛門様

櫛橋平藏様

平尾安左衛門様

右八軒手札計

上町代

田内与助殿

若狭や八兵衛殿

白銀三匁
刺鯖式さし

右之通治郎左衛門、孫右衛門相勤候、供和介連ル、

六月廿七日、当所暑中御伺

包熨斗

一、石原庄三郎様

素麵三拾把

白台二乗せ
下ケ札付

御元々

福永久治右衛門様

御組頭

佐久間正藏様

赤井平六様

同

内藤伍三右衛門様

同

七里左六郎様

御目附

高橋角左衛門様

御町役

同

芝山泰藏様

多胡甚助様

御勝手御用人

同

山田仲助様

多賀喜曾太様

舟方

右五軒へ同拾五把宛

内堀繁太様

右六軒へ素麵廿把宛

右之外御門内御手代衆、北出雲平殿へハ、手札計二而相勤ル、

右之通与次兵衛、九兵衛相勤候、供与八

覚

一、金五百足

一、銀子壹枚

右者從御本山被下置、慥ニ受取申候、以上、

百艘

享和二年

年寄印

戌七月七日

当津十日講

御肝煎中

但し当町川村や喜助殿持参二付、此通相認め差遣し候事、

七夕御礼

石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元々

福永久次右衛門様

〃

内藤伍三右衛門様

町懸り

芝山泰蔵様

元々加判

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右六軒へ青銅五拾疋つゝ、

右之外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ、名札計二而相勤申候、

治郎左衛門、九兵衛、供新八

七月廿六日

与力

東ノ下

一、西御組

真野盛之進様

七兵衛

組

加子三丁

浅賀傳右衛門様

与力

東 同

四方田多米助様

組

中川定右衛門様

右者勢多橋為御見分御越被成、小船入方御乗船被成候二付、則詰番
孫九郎案内方相勤候事、

当所八朔御礼

石原庄三郎様

金子貳百疋

目録台
下ヶ札附

御手附

石丸三五右衛門様

御元々

福永久治右衛門様

同

内藤伍三右衛門様

御町役

芝山泰蔵様

御元々

七里左六郎様

御勝手御用人

山田仲助様

御舟方

内堀繁太様

右七軒へ金百疋宛

小頭

佐久間正蔵様

同

赤井平六様

舟方下

北出雲平様

惣年寄

小野又三郎殿

御目附

同

高橋角左衛門様

矢嶋真十郎殿

同

多胡甚助様

町代

堀猪三郎殿

同

多賀喜曾太様

町代

遠藤重五郎殿

右之十軒へ白銀壹両宛

馬駅肝煎

吉本弥四郎殿

御門吟助殿五百文

同

山本俵五郎殿

御袋へ貳百文

右貳軒へ鳥目貳拾疋宛

御足輕 半七殿

御小遣 梅八殿
藤七殿

〆三人へ貳百文宛

白崎久太夫様

御蔵番三人

組屋敷不殘

御門内御手代衆

平蔵町年寄

右ハ手札勤メ、

右之通孫右衛門、川七相勤る、とも舟頭町小歩キ孫七を雇ひ連る、

礼物〆

金貳両壹歩 錢五百文 壹繫
銀壹両十ヲ 同貳百文 六繫

京都八朔御礼

西御奉行

一、曲淵和泉守様

金子三百疋 目録台
下ケ札附

御用人

御取次

鈴木順平様

椎名市右衛門様

藤田一市様

佐藤多仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

御勝手

星野半右衛門様

芝忠五郎様

右ノ九軒へ銀壹両宛

東御奉行

一、森川越前守様

金子三百疋 目録台
下ケ札附

御用人

小柴宗右衛門様

村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

中川源兵衛様

石川与左衛門様

松野小右衛門様

御勝手

村田忠兵衛様

柴田栄蔵様

右ノ八軒へ銀壹両宛

西御公事方

同公事下

深谷平左衛門様

千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様

浅賀卯兵衛様

入江吉兵衛様

上田八蔵様

本多新左衛門様

菊地治左衛門様

右ノ四軒へ金子百疋宛

柏原治部右衛門様

廣瀬左野右衛門様

酒井宗助様

右ノ七軒へ銀壹両宛

東御公事方

同公事下

四方田重丞様

寺田官左衛門様

上田弥右衛門様
末吉新五郎様
木村清右衛門様
喜多尾八郎右衛門様
本多金右衛門様
森儀左衛門様
右ノ四軒へ金子百疋宛
中川定右衛門様

同李左衛門様

櫛橋平藏様

平尾安左衛門様

右ノ八軒へ銀壹兩宛

上町代

筆工

田内与助殿 銀貳兩

奥田九右衛門殿銀壹兩

下町代

藤沢傳六殿 貳百文

東西御門番へ三百文宛

藤村佐市殿 貳百文

小番中へ 三百文

上町代中へ 五百文

東西中番中へ三百文宛

下町代中へ 五百文

宿鍵や佐介下女中へ貳百文

宿鍵や佐助へ三百文

山科大津屋孫兵衛へ百文

追分まるや四郎兵衛へ百文

✂ 金三兩貳歩

銀壹兩 三十貳包

銀貳兩 壹包

錢五百文 貳繫

錢三百文 六繫

同貳百文 三繫

同百文 貳繫

右之通治郎左衛門、孫九郎相勤メ申候、供廻りハ無人ニ付不連レ、雇人和介計連ル、

去ル廿四日御役所方呼二參、孫右衛門罷出候処、内堀様被仰候二ハ、浅井郡南濱村、高嶋郡太田村、野洲郡吉川村江、水難為御手当御米

被差遣度候処、運賃之儀ハ御定通り方聊も増難出候間、最寄之入船二積下し候様被仰聞、則左之通御書付御渡被成候二付、持歸り追々便舟二積下し候一件、左ニ記置、但別二一件袋有之、書付不殘入置、

覚

一、運賃米壹石二付壹升貳合

高嶋郡

太田村

一、運賃米右同断

浅井郡

南濱村

野洲郡

一、運賃米壹石二付六合

野村 之内
吉川村

一、米四俵

太田村

但五斗入

一、米拾六俵

南濱村

内十四俵五斗入

貳俵 四斗入

一、米五俵

野洲郡之内

内貳俵 五斗入

三俵 四斗入

✂ 貳拾五俵

此米拾貳石

内九石八斗

此賃米壹斗七合六勺 太田村 着之分
南濱村

〔付箋〕此運賃壹升違ひ有之候間、申上置則日相成り候上ニ而書直し可申候

事、八月晦日」

式石式斗

野洲郡着之分

此賃米壹升三合式勺

運賃米合壹斗式升八勺

但此運賃米ハ銀直ニ而相渡候事、

右之通ニ而船積可致事、

戌八月

(※の箇所に付箋)

「此舟賃米メ壹斗三升八勺、代壹貫式十一文、但し壹升二付七十五文がへ、

右之通九月廿三日御役所へ請取、則請取手形差上置候、尤此一件留帳ニ写置候ニ付爰ニハ略ス、」

然ル処八月廿六日、吉川舟、北舟木船入舟いたし候ニ付、太田村行、野洲郡行之分右舟二積下可申哉之段御伺申上候処、左様致呉候様被仰付、則左之通御米并御書付御渡被成候事、

覚

一、米五俵

野洲郡

内

吉川村行 ※

式俵 五斗入

三俵 四斗入

外御差紙壹通

右之通被成御渡奉請取、早速積送り候様可仕候、依之御請印形差上申候、以上、

戌八月廿六日

大津

百艘年寄

孫右衛門印

御役所

(※の箇所に横書き)

「此書付差上置候処、村々へ直ニ御役所江受取書納メ候ニ付不用故、十月八日内堀様へ戻ル、袋江入置、」

覚

一、米四俵

高島郡

但五斗入

太田村行

戌八月廿六日

百艘年寄

孫右衛門印

大津

御役所

※

右受取手形式通差上置候、

(※の箇所に横書き)

「此書付差上置候処、村々へ御役所江受取書直ニ相納メ候方書付不用ニ付、十月八日内堀様へ戻ル、袋江入置、」

覚

一、米四俵 五斗入

外ニ差紙壹通

右者水難為手当、書面之米高嶋郡太田村へ差遣候間、船便を以右村方へ積送り請書取之、追而可差出候、以上、

大津

御

割 戌八月廿六日

御役所御印

印

百艘

年寄

右之通御書付を以被仰渡候得共、此方へ御請書差上置候儀ニ付、先々方へ受取手形者私共中間へ取置申度段、御断申上候処、其段御聞濟

被下置候二付、何れも此方へ取置候事、

覚

一、米五俵

内 貳俵者 五斗入

三俵者 四斗入

外二差紙壹通

右者野洲郡水難村々江救米差遣し候間、書面之俵数同郡吉川村迄積送り、請取書取之、追而可差出候、已上、

大津

御割印 戊八月廿六日

御役所御判

百艘年寄

此分も吉川村へ之請取此方へ取置候事、

覚

一、御用米四俵 但五斗入 「此船賃米貳升四合、代百八十四文相渡、」

外二御差紙壹通

右者、此度大津從御役所高島郡太田村迄運送仕候様各々方へ被仰付候処、私舟登り合居候二付、積歸り呉候様御頼被成、書面之御米四俵与并船賃共慥二請取申候、早速右村方へ相渡請取手形取之、追而差上可申候得共、為念如此御座候、已上、

北舟木村

舟遣才次郎爪印

享和貳年戊八月廿六日

百艘年寄衆中

送り遣御米之事

一、御米四俵 但五斗入

外二御差紙壹通

右之御米、此度大津從御役所其御村方迄運送仕候様被仰渡候二付、早速積下し候間、御改御請取被成、左之案文之通手形御認御差越可被下候、以上、

大津百艘

戊八月廿六日

舟年寄印

高島郡太田村

御役人中

覚

大津御代官様

一、御用米四俵 但五斗入

外御差紙壹通

右之通慥二受取申候、以上、

高島郡太田村

享和貳年

庄屋誰印

戊何月幾日

大津百艘

舟年寄衆中

右之通御認被成御差越可被下候、

太田村役人中

百艘年寄

覚

一、御用米五俵 内貳俵 五斗入

外二 三俵 四斗入

御差紙壹通

右之御米、此度大津從御役所水難村々為御救米被差遣候二付、運送仕候様被仰渡、早速積下候間、御改御請取被成、左之案文之通手形御認御差越可被下候、以上、

戌八月廿六日

野洲郡吉川村

御役人中

覚

大津御代官様

一、御用米五俵 内 貳俵 五斗入

三俵 四斗入

外二御差紙壹通

右之通慥ニ受取申候、以上、

享和貳年

戊何月幾日

大津百艘

舟年寄衆中

右之通御認御差越可被下候、

戌八月廿六日

吉川村

御役人中

覚

一、御用米五俵 内 貳俵五斗入
三俵四斗入

〔此船賃壹升三合貳勺、代百三文相渡、〕

外二御差紙壹通

右ハ此度大津從御役所吉川村迄運送仕候様各々方江被仰付候所、私
船登り合居候二付、積歸吳候様御頼被成、書面之通御米五俵与并舟

大津百艘

舟年寄印

賃共慥受取申候、早速右村方江無間違相渡、受取書取之、追而差上
可申候得共、為念如此御座候、已上、

よし川浦

享和貳年戌八月廿六日

百艘年寄衆中

舟持伊左衛門印

一、八月晦日、安養寺伊左衛門船参り合居候二付、積下し可申越候段御
伺申上候所、積下し候様被仰付、左之書付御渡し被下候二付、留置、
覚

浅井郡

一、米拾六俵

南濱村行

内

拾四俵者 五斗入

貳俵者 四斗入

外二差紙壹通

右ハ浅井郡水難村々江救米差遣候間、書面之俵数同郡南濱村迄船便
りヲ以積送り可申候、尤右村方受取書取之、追而可差出候、以上、

割

大津

戌八月卅日 御役所御印

印

百艘

年寄

送り遣候御米之事

一、御米拾六俵 内 拾四俵五斗入
貳俵四斗入

外二御差紙壹通

右御米、此度從大津御役所其御村方迄運送仕候様被仰渡候二付、早

速安養寺村伊左衛門舟二積下し候間、右安養寺村江受取御出被成、御改御受取可被成候、尤左之案文之通手形御認め被成、急便二拙者共船会所迄御差越可被成候、以上、

戌八月晦日

浅井郡南濱村

御役人中

請取申御米之事

大津御代官様

一、御米拾六俵 内 拾四俵五斗入
貳俵四斗入

外御差紙壹通

右之通慥受取申候、以上、

享和二年戊何月幾日

大津百艘

舟年寄中

覚

一、御用米拾六俵 内 拾四俵五斗入
貳俵四斗入

〔付箋〕此船賃九升三合六勺、代六百七十九文相渡、

外二御差紙壹通

并各々方より南濱村役人江被遣候御添状壹通共

右ハ此度大津從御役所浅井郡南濱村迄運送仕候様、各々方江被仰渡候所、私船登り合居候二付、積歸り南濱村江相渡呉候様御頼被成、書面之米拾六俵与并船賃共、慥受取申候、早速右村方江相渡、手形

大津百艘

舟年寄印

被差登候様可申達候得共、為念如此御座候、以上、

享和二年戊八月晦日

百艘御年寄中

浅井郡安養寺村

船持伊左衛門印

南濱之分前文二有之候御役所江当仲間之受取書付出し置、此所ニ写置可申所、失念いたし候故、為念斷書いたし置、文言前段吉川、太田之通り、右書付差上置候処、村々御役所江直ニ差上候二付、此方之書付十月八日内堀様へ戻ル、

弥御安康ニ御勤役被成奉賀候、明十四日大津御役方内藤伍左衛門様江戸御下り付、其御浦方迄御乗舟被成候、依之草津宿迄人馬繼立御用意被成置被下度被仰越候、則左之通御座候、尤打揚駕籠壹挺、分持壹荷有之様承申候、

覚

一、当会処人足四人

但芝田清藏方ノ書状也、

右之通ニ御座候、尤問屋役人方ノ書状壹通為持遣申候、慥ニ御受取候、以上、

九月十三日

大津百艘

矢橋浦舟年寄衆中

重陽御礼

石原庄三郎様

青銅百足

木札付

御手付町掛り

石丸三五右衛門様

御元々

福永久治右衛門様

町掛り

柴山泰蔵様

元々加判町掛り

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁太様

右六軒へ青銅五拾疋宛

右之外御門内御手代衆、并御組屋敷不残、北出氏へ、名札計二而相勤申候、

太郎兵衛、孫右衛門、供雇和助

追而本文運上銀、大津橋本町古望仁兵衛方二而懸改候間、得其意納人印判持参可致候、以上、

湖上船運上銀、来月朔日^の五日迄二持参上納可致候、遲滞致間敷候、此配符令請印、早々順達、留り所^を可相返候、以上、

大津

九月十五日 御役所御印

書面之趣貸船^や大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、^{大津本へも可申聞候}同断本

堅田、同艀方、西之切釣漁師、^{大津同断}今堅田、同艀方、小野、わ

に南濱、同北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、^{大津同断}北小

松、打下、^{大津同断}大溝、同艀方、永田、下小川、今在家、藤江、

横江、舟木南濱、同横江濱、同北濱、南古賀、新庄、太田、

わらその、^{大津同断}深溝、針江、森村、馬原、木津、今津、新保、

領家、北仰、貫川、桂村、深清水、大沼、中庄、北新保、知内、

西濱、海津、大浦、菅浦、月出両組、岩熊、塩津、石川、片山、

^{大津同断}東尾上、延勝寺、海老江、安養寺、早崎、下八木、八木濱、

大濱、^{大津同断}南濱、同断川道

右浦々庄屋

船年寄

外下ヶ札二、本文罷出候節のふかる船路迄之浦々江者別段申達候儀有之間、印判持参御役所へ罷出、其段可相届候、

右坂本九兵衛艀へ廻り平兵衛持せ遣ス、

外二東浦へ尅通、文言同断、松本浦へ廻り平兵衛持せ遣ス、

口演

一、船御運上銀、来月朔日^の五日迄無遲滞上納可被致候、此廻状早々順達、留り所^を御返し可被成候、已上、

戌九月十五日

百艘印

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、六兵衛、源七、

五郎八、善兵衛、源六

一、九月廿日、石山より例之通松たけ甘本到来いたし候也、

九月廿二日

同心

下ノ

一、京御組 植村十左衛門様

繁治郎

〃 永田弥市様

〃 山田文平様

〃 山田文平様

右ハ勢田之橋為御見分御越被成、小船入より御乗船被成候二付、西
会所当番孫右衛門案内方相勤候事、

上書二

石原庄三郎手代

先触

柴山泰藏

岡田大八

福永五作

覚

一、分持

三荷

此人足三人

一、步卒持

壹人

ハ人足四人

右者我等儀当作毛為検見、明後三日大津出立、江州浅井郡村々江罷
越候間、於宿々御定之賃錢請取之、書面之人足無遲滯差出、尤渡船、
川越等之場所者、前宿々及通達ニ差支無之様可被取計候、此先触早々
継送、留村より我等共着之上可被相返候、以上、

戌十月朔日

石原庄三郎手代

福永五作印

岡田大八印

柴山泰藏印

大津、草津、守山、武佐、愛知川、高宮、鳥居本、米原、長濱、

谷口村、村々申合長濱迄迎ひ
人足四人可差出候

右宿々

村 問屋

年寄中

庄屋

十月五日、京都御所司代土井大炊頭様江戸御下り、

追分迄御出向、孫右衛門、九兵衛 供嘉兵衛

十月九日朝、風呂屋関下モノ石垣際北縁ニ、三拾才あまりの男死骸
浮有之、此儀町内懸り之儀二付、当仲間方ニハ一切掛り合不申候得
共、居町内之事故、肝煎孫九郎ヲ以相応之用向ニハ、(候脱力)無遠慮可被申
聞と、坂本町年寄沢藤方まで挨拶申入置候処、御検使立宿被相頼候
二付、当船会所ヲかし遣し候迄ニ而、諸事町切ニ而相済申候、尤御
検使

多胡甚助様

川嶋文左衛門様

右御越被成、并御歸り之節計御挨拶申上候事、

常樂寺浦々来状之留

一筆致啓上候、追日冷氣相増可申処、各様弥御壮健ニ可被成御座珍
重奉存候、誠ニ先達而ハ始而得御意、其節御相談申上候御地登シ米
掛目ニ而請取渡之儀、最寄御客方寄合之上掛合候処、潔白成取計方
奉存、餅（ぢ）多分百匁、式百目等之疑惑可致道理無之候得共、往々之儀
厳蜜ニ難行届様、且者掛目ニ而売買不致、迎も入用相掛り候事二候
ハ、上乘付御地米屋方ニ而鬪取立会相廻し之上ハ格別升廻し、齟
齬可致儀無之、右舁上乘付ニ致候上者、勿論船方衆之疑心無之、米
屋衆ニも立会候上ハ、自不正之儀無之ニ付、掛目之儀先相止メ、衆
評之上ハ先評定仕候、都而当浜より商人衆登シ米之向、上乘付鬪取
立会廻し之儀、御地米衆ニおゐて御差支之儀無之候哉、各様方々米
屋衆へ港々ニ御通達御引合被下候様仕度、自然御差支之儀も御座候

ハ、早々貴報可被仰下候相成候儀ニ御座候ハ、右之趣各様方御通達被下候ハ、簾立可然哉奉存候ニ付、此段御頼旁以書中如此御座候、以上、

九月廿七日

問屋

伊左衛門

〃

忠右衛門

〃

右馬次郎

大津百艘

船年寄中様尊下

返翰如左

先月廿七日之御紙面慥ニ相達致拝見候、如仰冷氣相増候処、各々様弥御堅榮可被成御座奉珍賀候、然ハ御地方登り米舟積方之儀、御客方参会之上如毎々上乗人被付、当津着之節右上乗并着先之米屋立会廻し儀竊取相廻し候様被成度旨御治定ニ付、拙者共方当所米屋方へ其段掛ケ合、右急答申上候様と御申越被成、右御細書之御趣意具ニ致承知候ニ付、早速米方役人中へ得御意候処、何分新規之事ニ候へハ、役人中心尽ニ難決、得と筋々へ被談合候上返事有之候筈ニ御座候、尤役方被申候ハ、着船之節直々仕切候分ハ不苦候へ共、上乘之立会相廻し預り置候米程、隔テ仕切候分前廻し置候、升目ニ而取引致候様相成候而ハ、迎も相調申間敷旨ニ被申居候故、此方方申し置候ハ、其儀而已ニ而難調事ニ候ハ、米元ニ勘弁も可有之義ニ被存候間、何分相調候様御取計ニ預り度と申入置候、其後返事承度催促仕候へ共、今以取極り不申旨ニ而、余り延引相成候条先ハ此段得御意度、猶返事有次第早速可申達候、右預り米程隔而仕切ニ相成候分、

御客方へも宜御通達被成置可然と奉存候、以上、

十月九日

百艘船年寄

常樂寺浦問屋

右馬次郎様

忠右衛門様

伊左衛門様 御報

常樂寺浦方再翰之写

去ル九日附御再答昨十四日相達拝見仕候、然者登米上乘付、鬪取立会廻し儀、御地米屋方江御掛合被下候処、荒増承知之趣ニ候へ共、新規之儀ニ付、其節々江得と御引合御熟談之上ならてハ御決着難被成、且預ケ米之分上乘立会廻し日当ニ致置候而ハ、程隔り仕切候儀も有之、旁難相調趣被仰下承知仕、此儀ハ年内送り込、翌春或ハ夏越仕切之儀も御座候事故、証拠ニ取用ひ候儀ニ無御座、誠船頭衆之疑心相省キ、且者上乘ニ参候者励ミ為廻立致置候而已ニ而、散升廻し証拠ニ仕切候と申ニも無之程隔り、仕切之節ニ至り候ハ、御客方相對之上再廻し等可然御取計之儀ニ御座候、且又売込注文直仕切之向者上乘廻し之升目を証拠ニ、何れも被仕切候積りニ御座候、右ニ而御差支無御座候ハ、上乘方決着仕度候間、早々御掛合貴報可被仰下候様仕度、先者御報御頼寄如此御座候、以上、

戌十月十五日

問屋 伊左衛門

〃 忠右衛門

〃 右馬次郎

百艘舟方

御年寄中様

十月十七日夕、上下惣代呼寄、是迄過人之分次舟不足致候ハ、遣し

候も有之、跡舟へ残し入遣し候も有之、区々相成有之候二付申付候
ハ、已来過人之分跡舟へ相廻し舟立不申候節ハ、前不足之船へ入不遣、
仲間入二可致、暮方^{ツル}二および無人数二而難舟立儀有之候故、如此且
ハ往々小船入繫榮之為、以勘弁如此申付有之事、

酒屋甚兵衛^ハ坂本へ法経搭船積之覚

一、下台石式枚 六尺四寸四方 壹枚 九月廿三日 積
厚サ壹尺式寸 壹枚 晦日 積

此才三倍増共、百四拾七才四部五^リ六毛

一、中台式枚 五尺三寸五部四方 壹枚 九月廿三日 積
厚サ八寸 壹枚 晦日 積

此才三倍増共、六拾八才六部九厘四毛

一、塔下石垣小石数百 内 三十 九月廿三日 積
三十三 晦日 //

十五 十月二日 //

廿式 十月六日 //

此才百五十式才 但し壹ツ二付壹才五部式^リツ、

一、経筒 十月二日 積

此才三倍増共、六十七才三部五^リ五も四

一、笠 十月六日 積

此才三倍増共、九拾四才八部四^リ〇五

一、蓮台 同断

此才倍増共、拾七才八部五^リ

一、経筒蓋 同断

此才三割増共、三才式部式^リ四も

一、擬法珠^金 同断

此才三割増共、四才五部五^リ

惣才数々五百五拾五才九部六厘九毛九

右者坂本行経搭石才積り、仕法其外委細之訳ハ別帳面二記、山門御
修覆之引出しへ入置候事、

十月十九日、海津与兵衛と申者、艀二而割木ヲ積、南濱へ参り候処、
尤右ノ仁老^ハ人便船致被居候処、沖中二而難舟致候哉、右艀計八坂浦^{サカ}
へ打寄有之、船頭式人、右乗手老^ハ人、都合三人水死致候哉、相知レ
不申候二付、当御役所へ被相届候所京窺二相成、海津舟年寄惣兵衛
其外数人滞留致被居候二付、為見舞諸白式升源右衛門持参被致候事、
十月廿八日

惣年寄矢嶋真十郎殿死去二付、銀一両為香典与次兵衛持参渡ス、

十一月四日

十月廿九日、御役所^ハ御召二付、年寄与次兵衛罷出候処、船方御懸
り役内堀繁太様被仰候者、此度坂本浦^ハ船積之義二付願出候処、畢
竟中間同士ノ事二候へハ、吟味請候上格別之事も有間敷候二付、百
艘方二而下調いたし取囑和談いたし候様、則願書御下^ケ被成二付、
追々中間二おゐて双方熟談為致、十一月^{九日}廿九二济状差上、已来取締
之義申上候処、元々役七里左六郎様、舟方内堀繁太様、舟方下北出
雲平殿、百艘年寄与次兵衛、坂本双方九人被召出、御聞濟之段被仰
渡候、

右中間内比叡辻喜兵衛と申もの、是迄内々取囑いたし候趣二付、尚
又此度済切之上訴訟方相手方^ハ可及通達二旨、一昨日七日申聞候処、
則右喜兵衛今九日当会所江挨拶御礼二被参候事、

右願書并二濟狀之写、別二袋二入有之候間不写、此所二候也、

一、是迄年寄与右衛門相勤居候処、此度之一件相濟候ハ、退役致度申被居候二付、長兵衛方者御役所へ御願申上御差図ヲ請候様申居候処、尚又喜兵衛申居候者、一先引取一統相談之上近々可申出候旨二而被罷歸候事、

常樂寺浦る来狀返翰、再翰共四、五枚前二留有之、右二付米会所役方へ再応及掛合候処、役方も無如才候得とも、諸方掛合先多候故隙取、何分難相調筋合二有之候故差下ス、書面左之通、

以書面得御意候、追日寒冷二御座候処、各々様弥御堅榮可被成御座奉珍賀候、然ハ兼而被仰越候上ハ乘立会廻し米之一件、先便二申上候通之儀二付、猶又其後当所米方役人中へかけ合候処、彼衆二も如才無之趣二候得共、諸方掛合先キ多分之儀二而、彼是隙取漸此節返事御座候処、何分手代り無之米屋方つとく、廻し立会難致旨二付、熟談相調不申趣之返答二御座候、節角思召付之儀二候へハ、於自分共も何卒相調候様致度奉存、精々掛合候へ共、右之趣二而御互二こまり入候御儀二御座候得共、致方無之此段申上候、委細ハ船木次郎兵衛殿へ申談置候間、御聞可被下候、尤重而思召之儀も候ハ、尚又可被仰聞候、右得御意度如此御座候、以上、

十二月晦日

百艘舟年寄

問屋

右馬次郎様

伊左衛門様

忠右衛門様

右不熟之訳ハ巨細二紙上二難述候二付、船木次郎兵衛殿へ委細申合

通達致被呉候筈、則右書狀も同人へ頼遣し候事、

臘月十六日、当所寒氣見舞

石原庄三郎殿 真鴨吉掛

元々

福永久次右衛門殿

町方

芝山泰藏殿

元々

七里左六郎殿

御勝手方

山田仲助殿

船方

内堀繁太殿

右南鐙一片宛

左久間正藏殿

赤井平六殿

高橋角左衛門殿

多胡甚助殿

多賀喜曾太殿

銀一両つゝ

右ノ外御門内不残、組屋敷不残、石丸三五右衛門殿、北出雲平殿、右手ふた二而相勤、勤役者与次兵衛、孫右衛門、とも新八

極月十八日、京都寒氣見舞、

尤此日御煤拂也、已来可得相心事、

東御奉行

森川越前守殿

真鴨吉掛

御用人

小柴宗右衛門殿

鈴木又兵衛殿

村田忠兵衛殿

石川与左衛門殿

御取次

村田直右衛門殿

松野小右衛門殿

柴田栄蔵殿

右八手札二而

御公事方

四方田重丞様

上田弥右衛門殿

木村清右衛門殿

本田金右衛門殿

右ハ南鐐一片つゝ

鈴木順平殿

御取次

椎名市右衛門殿

佐藤太仲殿

矢沢龍右衛門殿

芝忠五郎殿

佐藤左一郎殿

手札計

深谷平左衛門殿

不破伊左衛門殿

入江吉兵衛殿

本多新左衛門殿

右南鐐つゝ

千賀与三右衛門殿

浅賀卯兵衛殿

上田八蔵殿

菊地治左衛門殿

柏原治部右衛門殿

廣瀬左野右衛門殿

酒井宗助殿

手札計

右之外田内彦助殿

銀^{三匁}三兩

わかさや八兵衛殿、ひとり一羽

右之通孫右衛門、与次兵衛、とも嘉兵衛相勤ル、

西

曲渕和泉守殿

御用人

藤四郎藤田一郎殿

星野半右衛門殿

原田仙助殿

真鴨一掛

寺田官左衛門殿
末吉新五郎殿
喜多尾八郎右衛門殿
森儀左衛門殿
中川奎左衛門殿
櫛橋平蔵殿
平尾安左衛門殿
森善右衛門殿
右手ふた計^(××)

覚

一、納豆五拾把

例年之通被下置、難有頂戴仕候、以上、

享和貳年

戌十二月

百艘印

観音寺様御内

松岡市左衛門様

覚

一、金百足

右者当津より御家中并御人足渡海為御挨拶、御前（へ）に被下置慥頂戴仕候、以上、

戌十二月廿二日

百艘印

芦浦観音寺様御内

松岡市左衛門様

覚

一、金子百足

右者朽木兵庫助様を例年之通被下置、慥に受取申候、以上、

享和貳年

百艘船年寄印

戌十二月廿八日

御用達

升屋市左衛門殿

(印:「百艘」)

(裏表紙)

七十七番

百艘

三、「万留帳」享和三年（一八〇三）

（表紙）

癸 享和三歳

（異事）

「七拾八番」

万留帳

亥 正月吉日

（表紙見返し）

- 一、勢田橋請負人竹柴類運送自由致度段御役所へ申出候事、
- 一、下番新八舟ぜゝ新堀二而難儀之事、
- 一、江頭村傳助艀流失御廻状、
- 一、庄兵衛船常楽浦^{（寺殿）}二而難船之事、

（本文）

目録

- 一、御老中土井大炊頭様、御所司代青山山下野守様御登り、
- 一、北之町組忠助出勤之事、
- 一、御差紙野口常楽寺へ、
- 一、芦浦片岡喜右衛門殿死去之事、
- 一、貸船賃相滞候二付貸船屋方出願二付当仲間方廻状差出し候事、
- 一、早番荷乗合舟為積呉候様上組方頼出候事、
- 一、南笠肥シ人共乗前受取之事、
- 一、小舟入請地二加子共溜り小屋建候事、

（印：百艘）

- 一、尾州御役方御登り二付せたへ艀申遣し候事、
- 一、永田浦廻船一件、
- 一、片田三右衛門内室小兒死去香典、
- 一、善左衛門船八まん行鉄廿束紛失之事、
- 一、尾州大代官唐崎へ御乗船之事、
- 一、美濃屋庄兵衛裏石垣繕ひ之事、
- 一、五海道筋御分見之事、
- 一、京御池屋敷出火二付見舞之事、
- 一、小野宗三郎死去香典、
- 一、下坂本艀大風二而難儀之事、
- 一、山王祭神輿船加子と坂本之者と口論致御吟味之事、
- 一、御茶壺御廻状之写、
- 一、八幡忠兵衛小兒死去香典、
- 一、勢田橋及大破二渡船之事、
- 一、金蔵堀へ赤子死骸捨有之事、
- 一、御代官様御病氣二付御見舞申上候事、
- 一、勢田川さらへ之事、
- 一、庄兵衛船ノ加子喜八湊町木屋甚右衛門方米廿七俵隠積之事、
- 一、八郎兵衛船売払之事、
- 一、内堀様方新造造り替之節舟大工連印之儀被仰聞候事、
- 一、年寄三郎兵衛死去、北出氏母公死去香典、
- 一、内堀様御婚礼^{（有）}之事、
- 一、金蔵とも綱杭朽損候二付加子共二打替させ申候事、
- 一、芦浦観音寺様御死去被遊候事、
- 一、年寄三郎兵衛死去二付御届書之事、
- 一、別所村六兵衛艀之流出御廻状、

一、無極印之船流寄候事、
一、御城米運賃之事、

此次前二有、

正月二日、当所御礼

石原庄三郎様
金子貳百足
目録台下ケ札付

御手付

石丸三伍右衛門様

元々

福永久治右衛門様

町懸り

芝山泰蔵様

元々加判

七里佐六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁多様

右六軒へ金百足つゝ

小頭

佐久間正蔵様

々々

赤井平六様

目付

高橋角左衛門様

々々

多部甚助様

船方下

北出雲平様

惣年寄

矢嶋真十郎殿

々々

小野又三郎殿

町代

堀猪三郎殿

々々

多賀喜曾太様

右拾軒へ白銀壹両つゝ

吉本弥四郎殿

山本助九郎殿

右貳軒へ鳥目貳拾足つゝ

御足輕半七殿

小遣 梅八殿
藤七殿

三人へ鳥目貳百文つゝ

金貳両 五百文壹つ

銀壹兩拾ケ 貳百文六つ

白崎久太夫様 御蔵番三人

組屋敷不残 御門内御手代衆

平蔵町年寄

右八手札計二而相勤申候、

与治兵衛、太郎兵衛相勤ル、供平兵衛

三日、京都御礼

西御奉行

一、曲淵和泉守様

金子三百足

目録台
下ケ札付

御用人

御取次

鈴木順平様

椎名市右衛門様

藤田一郎様

佐藤太仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

星野半右衛門様

芝忠五郎様

右九軒へ銀壹兩つゝ

佐藤左一郎様

東御奉行

一、森川越前守様

金子三百足

目録台
下ケ札付

御用人

御取次

小柴宗右衛門様

林村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

松野小右衛門様

石川与左衛門様

柴田栄蔵様

村田忠兵衛様

右ノ七軒へ銀壹兩つゝ

西御公事方

同御公事下

深谷平左衛門様

千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様

浅賀卯兵衛様

入江吉兵衛様

上田八蔵様

本多新左衛門様

菊池治左衛門様

右ノ四軒へ金子百足つゝ

柏原治部右衛門様

廣瀬左野右衛門様

酒井宗助様

右ノ七軒へ銀壹兩つゝ

東御公事方

同御公事下

四方田重丞様

寺田官左衛門様

上田弥右衛門様

末吉新五郎様

木村清右衛門様

喜多尾八郎右衛門様

本田多金右衛門様

森儀左衛門様

右ノ四軒へ金子百足つゝ中川奎左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右八軒へ銀壹兩つゝ

上町代田内与助殿

銀貳兩

下町代藤沢傳六殿

貳百文

同藤村佐市殿

貳百文

上町代中へ

五百文

下町代中へ

五百文

筆工奥田九右衛門殿

銀壹兩

東西御門番へ

三百文つゝ

小番中へ

三百文

東西中番中へ

三百文つゝ

宿鍵屋佐助へ

三百文

同 下女中へ

貳百文

山科丸津屋孫兵衛へ

百文

追分丸屋四郎右衛門へ

百文

×金三兩貳歩

銀壹兩三十貳包

銀貳兩壹つ

五百文貳繫

三百文七繫貳百文

三

百文 貳繫

右之通孫右衛門、六兵衛相勤申候、供廻りと八、荷持雇人和助

正月四日、初寄合、役人不残出勤、例年之通諸帳面勘定相済候、尤不相替中飯有之候事、

七日、大雪二付 船頭共
八日、惣番積 酒たら福

正月十一日、帳固メ出座、与次兵衛、次郎左衛門、太郎兵衛今七兵衛、
孫九郎、孫右衛門、九兵衛、勘三郎、新二郎、忠次郎、瀧之助

×

諸白三升 尾花川町船方 諸白貳升 下組小船
するめ貳わ
まんちう百 上組小船 酒貳升 関治兵衛
諸白貳升 坂本新兵衛
右例之通持参、於勝手酒出し申候事、

同月十五日、芦浦御礼

一、観音寺様 扇子三本人壱箱、昆布、熨斗包添
但し扇箱くりあし台二乗せ、

右当年も御幼年二付皇都二御在住被遊御逢無之、御酒、御節子等ハ
例歳之通被下置候事、

御家中

片岡喜右衛門様

西川五郎兵衛様

扇子三本人壱箱つゝ持参相勤申候、

下物

久松清右衛門様

右之通九兵衛、勘三郎相勤申候、供ヤトヒ和介

正月廿一日

御老中土井大炊頭様

右者御所司代御引付与して御登り二付、松本石場迄御出迎二罷出候
事、

太郎兵衛、六兵衛相勤申候、供和助

同日、例年之通 貴布祢御神酒、役人不残相祝イ候事、

但右御出迎二差支、定刻限ハ朝飯二有之候へ共、未刻過ハ一統相
揃イ無滞相済申候事、

北野町組忠助殿見習出勤被致候事、

但 酒貳升

鯛壱尾 持参被致候、

系ひ三

此外養子顔見せ金百足被差出候、

正月廿四日

御所司代青山下野守様御登、

石場御出迎御目見へ、矢嶋氏先達之通披露被致候事、

出迎孫右衛門、九兵衛、供和助

廿五日朝同

御見送り八町へ、右兩人罷出候事、供同人、

正月廿五日

一、御役所ハ御差紙貳通

但し野田浦へ壱通 常楽寺浦へ壱通

右貳通御渡シ被成候二付添状いたし、常楽寺之方ハ地船市兵衛、船
頭新八ハ廿五日之夜相渡ス、野田之方ハ江頭飛脚小三郎へ相渡シ、
受取取置候事、但し宿いせ孫、常楽寺浦之方ハ市兵衛船、日和悪敷

出船不致候故、八まん飛脚紙屋六兵衛へ相渡し候、則是も受取取置候、但し宿いせ甚、

一、当正月十六、七日頃の事歟、^声浦御家老片岡^喜右衛門殿義、急変二而御果被成候由、尤いろく、悪せついたし候得共、表向無難二御披露相濟、葬式御座候旨二付、左之通書状并昆布一包遣入、但代式百文、一筆啓上仕候、然者御尊父様御儀御遠去被遊候由承知仕、奉驚入候、嘸御愁傷之段恐察仕候、随而鹿抹之品二御座候得とも、昆布一包、誠二書中御悔申上候驗迄二捧之候、右御悔奉申上度如此御座候、恐惶謹言、

正月廿九日

百艘舟年寄

片岡半内様

閏正月二日、下物半七便船二頼差下ス、

閏正月四日、御役所^{年寄}人參候様申来候二付、太郎兵衛罷出候処、内堀繁太様被仰聞候ハ、貸船賃相滞候而、貸船屋共難渋申立、願書差上候得共、村数多ク銘々呼出し候而ハ遠方之村々迷惑可仕儀二付、伊庭村、野田村計呼出申付候、其余村々ハハ百艘方^廻状を以通達仕候様被仰渡、則貸船屋^{差上}候式通之本紙御貸渡シ被成、依之村々へ廻状差出し候趣、委敷儀者貸船屋留と申別帳二相記置候事、

但し右廻状ハ七日朝木濱仁兵衛船へ今濱へ相達し被呉候様頼遣し候事、

去冬以来上組小船之もの共^{之義}申出候二ハ、早番荷^{之義}□□、少分之荷物二而も別舟二積送り可申筈之処、才領舟方共却而不勝手之儀も御座候へハ、何卒小舟入人舟二積合申度段申之候二付、下組二も差障無

之哉と相糺候処、両組共差支無之旨申出候故、問屋、才領得心之荷物二限り、危キ義無之様見計、人舟二積合候様、則別紙二一札取之置、差ゆるし候事、

一、南笠荷ひこへ人共、是迄小舟入^人ふね二積合候義も有之、亦ハ荷ひこへ計矢橋之い^{りか}にふね二為積、人計当津の舟二のせ候義も有之、尤当津のり合舟二積候節ハ、人壱人十式文、こへ吉荷拾文つゝ、加子共江取之、人の勿銭計中間へ差出、こへ之分ハ加子共酒手二相成有之候処、此度矢橋濱屋礮八と申もの、右南笠の宿いたし居候旨二付、以来矢橋之戻り舟二為積呉候様二相頼候二付、其段上下両組惣代へも申聞候処、是迄之通り二いたし置呉候様申之候得共、猶利解申聞候処、両組共承知仕候故、閏正月十日右濱屋礮八江年寄太郎兵衛かけ合、人壱人十式文、こへ一荷^式文宛ツ、二而、以来矢橋戻り舟二為積候筈相究、猶又当所宿小舟入平六方^右舟積之時之人何人、こへ何荷と相改候様、平六へも申渡有之候事、

但し右船賃取立溜置、追而相談之上、上下小舟持共へも右溜り銭之内見計遣候筈之事、

一、今度小船入請地之内二加子共溜り小屋^壱ヶ所建遣し度、此諸一件留別帳二有之故、爰二略ス、

一、閏正月廿八日、尾州表^{御役人}中御登り二付、当御役所^方迎二御出、右二付せた江艀申遣し候様被仰付候故、左之通書状遣入、

以手紙得貴意候、弥以御壯健被成御座、奉珍重候、然ハ尾州表^{御役方}御越二付、当津御役所^方御役人方、其御地迄御迎二御出被成候、依之其御地方石山迄日覆在之候艀式艘御用意被成置、右御役人御着

次第石山迄御送り可被成候、此段為可得貴意、如此御座候、以上、

大津

閏正月廿八日

百艘船年寄

勢田

船年寄御衆中

追而得貴意候、日和宜敷自然直様大津迄御乗船之御差図御座候ハ、其ま、御送り被下候様可然御取計可被下候、以上、

堅田三右衛門内室小兒死去二付、為香典南鐙沓片悔書状相添遣し申候、

閏正月晦日

尤片田浦へ永田一件之儀二付、八幡方へ通達被下、六日七日迄之内、御上津可被下趣、書状と二通共、同所三右衛門船二頼遣し申事、

一、永田浦廻船之義二付、大津、片田、八幡より当二月八日当津御役所江御訴訟申上候処、翌九日御裏判被下置、則永田浦江相渡置候事、尤一件始末ハ別紙帳面二留置候二付爰ニ略ス、

一、善左衛門船、閏正月十五日積八幡行鉄式束大坂屋六郎兵衛方ハ積入候分紛失二付、段々及鑿穿^{くさ}二候へとも、相知レ不申候、依之御役所江御届ケ申上候写左之通、尤書付差上候処、詰合町代部屋矢嶋藤五郎殿取次にて、当御番所江年寄与次兵衛、油屋作兵衛取出候処、御聞済被成、尚又手^懸口之義も有候ハ、可申出^出旨被仰渡候、

乍恐口上書

一、当津平蔵町油屋作兵衛持善左衛門船二而、当浦諸所問屋方ハ蒲生郡八幡行荷物先月十五日ハ十七日迄二積入、右日限中船ハ字風呂屋之関二差置、翌十八日字金蔵堀江相廻日和待仕、十九日朝出船、湖

西坂本迄参り、廿日夜中迄右坂本ニ懸り罷在、廿一日朝同所出船湖東津田村と申所まで罷越、廿三日夜中迄ハ右津田村ニ懸り居、廿四日八幡着、翌廿五日荷物船揚仕候処、当津坂本町大坂屋六郎兵衛方より積荷之内鉄式箇紛失仕候旨、一昨廿九日右舟帰津之上水主共申之候二付、早束荷問屋六郎兵衛方へも申達し候処、右鉄ハ式固限り之品二而、則八幡新町鉄屋卯兵衛行之由二付、尚又抱水主庄左衛門、雇水主喜八両人之者とも相糺候処、右鉄ハ船胴之間上積二仕置、勿論荷物積懸候日より庄左衛門義日々船中見廻り、夜分ハ船二泊り候処、怪敷義も見当り不申、八幡着仕候迄何之心付も無御座候処、船揚仕候節、右鉄式固相知へ不申候へ者、右日限長々船懸り之場所二而寝入候間合を考、鳥乱之もの忍入盗取候義二而も可有哉と申之、外ニ存当怪敷義等無御座候二付、此段御届ケ奉申上候、以上、

百艘中間之内

享和三年

善左衛門印

亥二月二日

//年寄

与治兵衛印

大津

御役所

右之通町方御役所二御届ケ申上候二付、尚又此段奉申上候、以上、

亥二月二日

百艘年寄

与治兵衛印

船方

御役所

右之通奥書仕候而、船方御役所へ与治兵衛持参、御届ケ相済申候也、

亥二月二日午刻

右書付御目付高橋角左衛門様へも上ケ置候、外多部甚助様、多賀喜

曾太様へ、右之段口上二而申置、

但船方内堀様ハ御上京二而御逗留故、御宅江持参上ル、

当亥二月三日、御役所方呼二参、孫右衛門罷出候処、御町役七里左太郎様被仰候者、此間舟方内堀繁太方噂被致置候御役所御客之儀、明四日三井寺へ御参詣有之、夫方直二舟二而唐崎へ御越之積二候間、家形大船壹艘、苦葺小船壹艘用意いたし、尤万端橋本町古望仁兵衛へ申談取計呉候様と被仰渡、則諸事古望へ申談し前書之船式艘差出、尤舟役壹人付添参候様、是又七里様方申参候二付、孫右衛門乗り参ル、右二付諸人用等ハ別紙役舟帳ニ委敷留置候二付爰ニ略ス、

但し右御客ハ尾州大代官真鍋茂太夫様と申御方二而、当所御手代右七里様先年濃州鈴木門三郎様ニ御勤被成御座候節、右真鍋様御内衆へ御心安被成候義二而も有之哉、且又古望仁兵衛殿ハ当時尾州御蔵元二而、当御役所かけ屋并都而の御用聞二も候故、七里様古望殿御両人之取持二而、当所御役所石原庄三郎様ニ茂右真鍋御氏様と御入魂之御結ニ御成り被遊候旨聞事、

右尾花河より御乗船二而、唐崎迄御出被成候処、雨天二而少々風もつよく候故、尾花川艀ニ加子八人乗引船いたし、無滞唐崎江着船有之候、右引船之義尾州二而ハ將軍家、御三家之外決而御用ひ無之候、此度之御饗応殊外御大慶之由、真鍋様方古望殿江御噂有之候旨、後日承り申候、右之振合二候へハ、已後迎も御役所御用船之外町方遊山船杯ニ引船用ひ候義ハ心得いたし、譬雨風之節二而も、容易ニ引舟相用ひ申間敷事、

右之段ハ乍預承候事候へ共、兼而心得之ため相記置候、

二月十四日、例之通沖ノ島方ます三本至来いたし、早速貝半へ預ケ

申候、使新八、

一、二月十一日夜、長命寺又左衛門、艀二而同村寺江歌を致候前早積歸り申度、前以村方断として清吉と申仁来候付、乗前了簡いたし、為積歸候事、

二月廿二日、美濃屋庄兵衛方去戌年大風二浦ノ石垣角損し有之、此節繕ひ申度趣、尤下地之姿二少シも相違無之旨二付、聞済置申候事、

一、二月廿九日道中筋御分之、

一、二月廿九日、五海道筋御分見御役人中様、小舟入矢橋渡乗舟場御見分相済候、

但し京町通り松本村より西江順々御分見有之、京町通小舟入より見通し、いきあたりにて、是方百艘船乗場道凡式丁計と、右御役人中様御手扣帳江御留メ置被遊候、

右惣牀之義ハ別二一件帳有之、記置候得共、後年為心得此所二書置もの也、

上巳御礼

石原庄三郎様 青銅百疋、木札付

元々

福永久治右衛門様

同

内藤伍三右衛門様

町役

石丸三伍右衛門様

元々

七里佐六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右六軒へ青銅五拾疋ツ、

右之外、御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ手札計二而相勤申候事、

与治兵衛、孫右衛門相勤ル、雇イ供和助

一、三月三日、^{夜八}朝八ツ時分、京都御地屋敷四方田重丞様御宅出火之由承

り候二付、為見舞孫右衛門中飯後、上京被致候、

公事方

四方田重丞様江金百疋

但表側ハ焼残候二付、テアヤマチニ相成候由承ル、小者部屋江

引移り被居候由、

与力公事

上田弥右衛門様江 南鐐一片 是ハ燐家至而近火故ミまい二遣ス、

与力

神沢与兵衛様 是ハ平役二候へ共、燐家之事故手札二而、

公事下

寺田官左衛門様 是ハ表裏ニ而殊外騒動之由承り候付、南鐐壹

片見舞遣ス、

右之外東西公事方、公事方下西東とも不残名札二而見舞ニ参ル、

西御奉行

東御奉行 是ハ翌四日朝継上下二而御窺ニ上ル、御玄関迄、

右之外ハ不相尋候、孫右衛門、とも和助

三月十八日、山田綱方、小鮒五枚至来致候事、

一、惣年寄小野亦三郎殿代役、同苗宗三郎殿死去二付、三月廿四日葬式有之候、

右為悔任先例白銀壹両持参致ス、年寄与次兵衛、

一、三月十八日、前夜、大雨大伊吹風ニ有之候処、十八日朝四ツ時、艀舟壹艘浜側裏江流寄候二付、扇屋ノ関、見付、塩佐抱加子甚助当会所江注進致候、早束四廻り新八、右甚助同道ニ而表町美濃屋庄兵衛裏迄見せ二遣候処、下坂本新町は、庄と申もの、艀、但船持源三隣家之由、新八と申もの柴十六丁、松小割四十七束、松大割四十八束、かな木八十六束船積致、今朝明六ツ時坂本出船いたし、途中ニ而風つよく相成、無是非行成ニ致居候段申候二付、右柴ハ浜側塩屋町下西ノ方川庄抱屋敷裏へほふり揚、甚助乗候而風呂屋之関江乗廻候、加子ニ怪我ハ無之趣申居候、右艀ふねハ新造ニ而、明日御印請候由申之候、

右当所ニ而難儀すくひ遣候段、罷歸り舟年寄江申達候様申遣候、尚又坂本ニ而祓ふね坏致候義ハ無之候哉、いつれ坂本舟方、沙汰被致候旨能々申聞候、

覚

一、船数五艘

但百五拾石積、式百石積迄

是者日吉御神事御名代船、奉行船、日吉惣政所船并供船

右之船来廿日、日吉御神事二付、如例年可差出候、尤服忌差合之もの相改可申候、以上、

亥四月朔日 石庄三郎御判

大津百艘
船持

一、船割賦壹通 山田浦、矢橋浦 山田茂左衛門ふね、忠次郎渡入、

四月朔日七つ時、

御文言例之通二候故、略之、

一、船割賦壹通 片田浦^(船)「今津浦」始、

御文言左之通、

来ル廿日、日吉御神事神輿船割賦之事、

大浦

丸船貳艘 水主九人 船年寄
外楫取壹人

但百八拾石積^〆貳百石積迄

二宮方早船

今津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 甚之丞
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 十左衛門

丸船壹艘 右同断 八郎右衛門

丸船壹艘 右同断 市三郎

海津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 治左衛門
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 嘉助

丸船壹艘 右同断 甚兵衛

丸船壹艘 右同断 船年寄

但百九拾石以上之船可差出候、

塩津浦

丸船壹艘 水主拾壹人 又左衛門
外楫取壹人

丸船壹艘 右同断 惣兵衛

丸船壹艘 右同断 弥助

丸船壹艘 右同断 角兵衛

右之船例年之通致吟味、来ル廿日以前大津江着船可致候、尤服忌差合之もの相改可申候、此配符令請印早々順達、留り所^〆可相返もの也、

亥四月朔日 石庄三郎御印

今津

海津

塩津

大浦

右浦々

船年寄

外二船方御役人福永久次右衛門様、内堀繁太様^〆御状壹通有之、

文言例之通候間略之、此二通今津四郎兵衛舟二四月朔日八つ時二渡入、

一、御廻文壹通 坂本浦始 四月朔日朝川口勘四郎宅二而坂本彦次郎

渡入、使新八

一、同 壹通 矢橋浦始 上ノ^(番船カ)ばん洗ヲ遣入、

一、同 壹通 矢橋浦 山田浦

右二通御文言爰五六年之如二候間、略之、

外二松本浦船之御配符例年此方を取次致候所、壹兩年前より御役所二而直々御渡有之、当年も御越二而直二御渡被成候事、

右ハ、四月朔日例年之通日吉御神事之船御配符式箱之内、壹通仲間江又船方御役人中の御配符壹通、御役所の御配符式通、山田、矢橋江御配符壹通、片田の塩津迄之御配符壹通、六通也、右浦々江添状遣し申候事、

四月八日

一、筭拾本

右者例年之通三井寺を至来いたし候事、則当役一統配り申候事、

三月廿八日、年寄次郎左衛門御役所へ被罷出候節、内堀様被仰聞候ハ、浅井、伊香、高嶋へ去戌年水難之村々へ御貸米被遣候二付、南濱、大溝小松へ船積仕候一件、別帳二記シ有之故、爰二略ス、

四月廿日、山王御神事神輿七本柳へ例之通付置候処、其辺之者共参り、右船北之方畑見通しへ寄せ候様申掛候二付及口論二、塩津船之舟頭兩人疵付ケ候故、当所御役船参候節、内堀様へ右之趣届ケ二罷出候処、右船頭疵口等御改二船へ御越被成、名前等御記被置、其日ハ其趣二被差置、翌日ハ右御吟味有之趣二相聞候、塩津并今津、海津、大浦ハ掛り合二付、逗留被致候故為見舞と、

塩津へ 酒三升

今津

海津 酒五升

大浦

連名にて

右之通わにや藤左衛門方へ孫右衛門持参、夫々遣し被呉候様頼置申候事、

即刻塩津船年寄半兵衛、右之礼二被参候事、

右一件京都東御役所へ御差出二相成候処、御吟味中坂本之者共兩人牢舎被仰付、段々御糺明之上、右牢舎之者村預ケ二相成、追而御沙汰可有之間、一同帰村可致様被仰渡候旨二付、五月十日大浦、塩津、海津、今津之舟年寄、当会所へ挨拶二被参、帰村被致候事、

覚

一、艀船五艘 幅三尺八寸の四尺

但壹ケ村壹艘つゝ、

右者御茶壺御下向、当月十七日宇治御立出、同日守山御止宿、翌十八日横関川渡船之御用二候間、丈夫成船致吟味、洗之柄杓壹本宛船毎二入置、十七日昼時迄二横関川渡場へ船差出可相勤候、此配符令受印、昼夜不限早々順達、留り所を可相返候、以上、

大津

亥五月九日

御役所

蒲生郡

田中江

加茂

大房

多賀

常楽寺

右村々

庄屋

船年寄

覚

一、艀船八艘 幅三尺八寸、四尺

但し壺ヶ村の式艘つゝ

右者御茶壺御下向、当月十七日宇治御出立、同日守山御止宿、翌十八日野洲川渡船之御用二候間、丈夫成船致吟味、洗之柄杓壺本宛船毎二入置、十七日昼時迄二野洲川渡場へ船差出可相勤候、此配符令請印、昼夜不限早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

亥五月九日 御役所

野洲郡

須原

比留田

矢嶋

木濱

右村々

庄屋

船年寄

右二筋共早速沢中衆藤八二持せ遣入、

尤飛脚賃須原へ三百七十式文

田中江四百文

午刻添状式通共渡入

八まん宿大津屋忠兵衛養子八九才二相成候小兒病死二付、平昆布一包代式百文分二悔状、五月十日相添遣入、

五月節句前

一、中鮎六拾計

勢田橋本を持参、即刻当役中へ配り申候、

勢多橋及大破候二付、渡船用意可致旨、京都町奉行所へ達有之候付申渡義有之間、能吞込候船年寄人宛、来ル廿五日罷出可相届候、此差紙令受印可相返候、以上、

大津

五月廿日

御役所

八幡浦

船年寄

右八八まん飛脚へ渡、使嘉兵衛、

勢多橋及大破候付、渡船用意可致旨、京都町奉行所へ達有之候付申渡義有之間、能吞込候船年寄人宛、来ル廿五日罷出可相届候、此廻状浦名下令受印、昼夜不限早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

五月廿日

御役所

堅田浦

大溝浦

舟木浦

今津浦

海津浦

大浦

塩津浦

右浦々

船年寄

新八 三丁

五兵衛 三丁

八ツ半時を和介二為持遣ス、
尤夜二入候間、賃錢四百文申遣ス、

勢多川渡船之義二付尋義有之間、来ル廿九日可罷出候、遲滞致間敷候、
此廻状村名下令受印早々相廻シ、留り可相返候、以上、

大津

五月廿六日 御役所

平津村 千町村

南郷村 関津村

太支村 黒津村

里村 大江村

大萱村

此廻状飛脚賃百七十四文、右遣ス、廻り嘉兵衛へ渡、小舟入歩荷物
遣し候様申事

右村々惣代太支村、里村ノ内村役人壹兩人、平津村之内外六ヶ
村村役人両三人、

五月廿八日

大坂御目付代 小笠原兵庫様

右石山筋御順見として、扇屋関を御乗船被遊候事、

御出迎治郎左衛門、孫右衛門、廻り嘉兵衛

外二孫九郎、九兵衛、六兵衛、新二郎、詰合ス、

当会所留主番与次兵衛、忠助

小船貳艘

五月晦日、夕方町代部屋を呼二参り、孫右衛門罷出候処、小野宗九
郎殿被申候者、御蔵町下東南之角石垣際を壹間余り堀中ニ、赤子死
骸薦包ニ致捨有之趣右町内を申出、尤堀中之儀故百艘立会連印ニ而
御届ケ可申上場所ニ有之趣申候、百艘方左様之先格有之候哉ニ被尋
ね候二付、孫右衛門答候ハ、右堀中ハ其町掛りニ而御座候、去ル寛
政十一未年御蔵町、蔵橋町地境見通し堀中ニ水死人有之候節も、此
儀町々掛りと申有之候へ共、御蔵掛り共難申候故、右町々掛りニ而
相済右之通申有之、実者御蔵掛りニ而諸入用者人馬会所を有之事、
申候趣申候処、右町内へ掛合有之、仲間方ニハ差構ひ無之相済申候、
尤惣年寄町代切二而取片付相済候様承り申候、右掛り町内へ孫右衛
門挨拶致し置申候事、

大津

一、差紙 御役所

八幡浦船持又右衛門

急キ

此差紙八ツ時を飛脚加助為持遣ス、駄賃八百文、

大津

一、差紙 御役所

片田浦船持又左衛門

急キ

片田権七へ渡ス、

六月六日

六月六日、当津暑氣窺

一、御代官

石原庄三郎様

素麵三拾把
式重繰台、下ヶ札付

元々

福永久治右衛門様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁太様

町方

石丸三伍右衛門様

例式無之候へ共、当年八町方二付、

元々

七里左六郎様

同

柴山泰蔵様

右六軒、素麵廿把宛

目付

高橋角左衛門様

同

多部甚助様

同

多賀喜曾太様

小かしら

佐久間正蔵様

同

赤井平六様

右八拾五把宛

右之外、御門内御手代衆、組やしき不残、新建御手代衆、北出雲

平殿

右八手札二而勤、

治郎左衛門、与次兵衛、とも嘉兵衛、与八

一、此節御代官流行之麻疹二而御悩之由承候二付、為御窺金子貳百足、為御菓子料、右暑氣窺之序二内玄関江罷出差上申候、尤船方内堀江御尋申上、御取次可被下候処、此節御登京二付、此段御宿元後室江申上置、御勝手方山田仲助様江申上、御取次有之候処、念之入候事、乍併甚迷惑二被存候義二付、御断二も可及候へ共、切角御持参候事故、此度之義ハ御受有之候、重而ヶ様之義ハ無用二可致被仰渡候、尚又追々御機嫌よく御目懸被成候旨、今日二而十二日目二相成候様御咄し有之候、

当所米会所るも、右之通相勤候様承候、

六月七日、京都署中御窺

西御奉行

一、曲渕和泉守様

金子貳百足
目録台
下ヶ札附

御用人

御取次

増田郷八様

椎名市右衛門様

星野半右衛門様

佐藤太仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

右九軒手札計

東御奉行

一、森川越前守様

金子貳百足
目録台
下ヶ札附

御用人

小柴宗右衛門様

鈴木又兵衛様

石川与左衛門様

御勝手御用人

村田忠兵衛様

右八軒手札計

西御公事方

深谷平左衛門様

不破伊左衛門様

入江吉兵衛様

本多新左衛門様

右四軒へ白銀壹両宛

東御公事方

四方田重丞様

上田弥右衛門様

木村清右衛門様

本多金右衛門様

右四軒江白銀壹両宛

御取次

村田直右衛門様

柴田栄蔵様

松野小右衛門様

伊藤右内様

同下

千賀与三右衛門様

浅賀卯兵衛様

上田八蔵様

菊池治左衛門様

柏原治部右衛門様

廣瀬左野右衛門様

酒井宗助様

右七軒手札計

同下

寺田官左衛門様

末吉新五郎様

喜多尾八郎右衛門様

森儀左衛門様

中川左左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右八軒手札計

上町代

田内与助殿

白銀三匁

若狭屋八兵衛殿

刺鯖貳さし

右之通、孫右衛門、六兵衛相勤事候、供新八

一、六月十四日、三井寺を暑氣見舞として、例之通素麵廿把至来致候事、

一、六月廿四日、巳刻半從矢橋書狀至来、内堀様を御書狀壹通、福永様、

七里様江御連名、直様治郎左衛門御役所江持参いたし候、

勢田川浚二付、江戸御普請役人様方、今廿四日下笠泊り、明廿五日

從矢橋大津迄御乗舟候由、右之段申参り候二付、則受書狀相認、至

明日二相違之義も有之候歟、又は懸り之義も有之候ハ、早舟相知

らせ被呉候様、尚亦大津着浜之義も相知レ候ハ、前方より為相知

呉れ候様頼二遣置候、

矢橋舟年寄中江

右之通午序二相頼遣置候処、今廿五日杉江御立、同夕勢田御泊之旨、

御先触至来候段、矢橋を書狀を以相知らせ被呉候二付、内堀繁太様

へ之為御見廻、肝煎勘三郎、供壺人相添、今夕方勢田御旅宿迄遣

候積申談置候、

覚

杉江村方

一、大津御役所行御狀壹通

右御狀已上刻矢橋至着、

同

一、同御追御狀壹通

已下刻至着、

右式通御達し申候、早々大津御役所江御届可被下候、請取御越可被下候、以上、

六月廿五日巳下刻

矢橋船年寄

百艘御年寄中様

覚

一、御用状式通

右ハ杉江村御用先、内堀繁太様大津御役所へ被遣候分、慥ニ受取申候、以上、

亥六月廿五日午中刻

百艘年寄印

矢橋浦

舟年寄御衆中

右御状式通共即刻御役所へ勘三郎持参仕、福永久次右衛門様へ差上ル、其序ニ内堀様御宅へ参、私義今夕方勢田表御旅宿江罷越候間、御用向も候ハ、御達し可申上候間後室様へ申上候処、御用向も無之趣被仰候、外ニ御役所御用状式通、御元々様内堀様江遣し呉候様会所江参り候故勘三郎持参、せた江暮時参り候所、いまた御着無之、暮半時山田方艀ニ而御着、御普請役御三方、内堀様御道同ニ而御着、内堀様せた浜方ニ御泊り二付、直ニ御伺ニ罷出候所、殊之外御飲ニ而御挨拶有之候、歸り之節はんでん壱御宿江せんたくニ御遣し之趣御頼二付、其夜四つ時罷歸り、直ニ御宿江参り、御後室様二掛御目、御道中海陸共無御恙せた江御着之趣御咄申上、右之はんでん差置罷歸り候、翌廿六日夕方、右之はんでん内堀様御宿方会所江序二届呉候様御頼二付、暮方故序無之、別段使ヲ遣ス、賃式百文せた御宿ニて賃銭御尋二付、使之者式百文之趣申上候所、直ニ彼方ニ而御渡し有之候、且又前文之御用状ハ内堀様御取込故、御返事無之、其趣福永様江翌朝勘三郎方申上候事、

例年之通湖上船増減入念相改帳面記、来月八日ハ廿日迄二持参可致候、遅滞有之間敷候、此配符致請印早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

亥六月廿七日

御役所

書面之趣貸船屋へも可申聞候
大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、本堅田、同艀方、西ノ切
右同断
釣漁師、今堅田、同艀方、小野、和邇南濱、和に北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、北小松、打下、大溝、大溝艀方、永田、下小川
書面之趣貸船屋へも可申聞候
今在家、藤江、横江、南濱、横江濱、北濱、南古賀、新庄、太田、藁園、深溝、針江、森村、馬原、木津、今津、新保、領家、北仰、貫川
書面之趣貸船屋へも可申聞候
桂村、深清水、大沼、中庄、北新保、知内、西濱、海津、大浦、菅浦
書面之趣貸船屋へも可申聞候
月出岡組、岩熊、塩津、石川、片山、東尾上、延勝寺、海老江、安養寺
書面之趣貸船屋へも可申聞候
早崎、下八木、八木濱、大濱、南濱、川道
右同断
船年寄

例年之通湖上船増減入念相改帳面二記、来月八日ハ廿日迄二持参可致候、遅滞有之間敷候、此配符請印いたし早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

亥六月廿七日

御役所

松本三ヶ所、石山、平津、千町、南郷、外畑、五ヶ浦、龍門、淀村、東、関津、太支、黒津、里村、橋本、神領、大江、大萱、新田、大萱、新濱、矢橋、南山田、山田、下笠、駒井庄大萱、穴村、書面之趣貸船屋へも可申聞候
志那、同吉田、中村、津田江、下寺、下物、山賀、森河原、杉江、赤ノ井、矢嶋、大曲、開発、書面之趣貸船屋へも

可申木濱、今濱、水保、戸田、五条、書面之趣貸船屋 幸津川、
へも可申聞候
小濱、吉川、提村、安治、書面之趣貸船屋 須原、野田、比留田、
へも可申聞候
野村、小田、書面之趣貸船屋 江頭、田中江、加茂、牧村、大房、
へも可申聞候
同断長命寺門前、南津田、同船木、同八幡船木、八幡町、多賀、
断
北ノ庄、浅小井、香ノ庄、同常楽寺丸船方、同艀方、豊浦、
断同
伊庭

右浦々

庄屋

船年寄

口上

一、貸船増減相改帳面ニ相記、来月八日方廿日迄上納可被致候、此廻状
早々順達、留り所より百艘会所へ御返し可被成候、以上、

癸亥六月廿七日

百艘印

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、太右衛門、源七、
五郎八、善兵衛、源六

覚

一、金五百疋

一、銀子壹枚

右者從御本山被下置、慥ニ受取申候、以上、

享和三年

百艘年寄印

亥七月五日

当津十日講

御肝煎中

但し当町川村屋喜助殿持参二付、此通相認メ差遣し申候事、

五月五日御礼

石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元々

福永久治右衛門様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

町方

石丸三伍右衛門様

元々町懸り

七里佐六郎様

御元々

柴山泰藏様

右六軒へ青銅五拾疋宛

右之外、御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ名札計ニて相勤申候、

治郎左衛門、九兵衛、供

七夕御礼

石原庄三郎様

青銅百疋木札付

元々

福永久治右衛門様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

町方

石丸三伍右衛門様

元々

七里佐六郎様

々

芝山泰蔵様

右六軒へ青銅五拾疋つ、

右之外、御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ名札計二て相勤申候、
治郎左衛門、孫右衛門相勤ル、供平兵衛

一、五月九日、当所庄兵衛船頭喜八、押手伊助、右船八幡行積入候後、
湊町木屋甚右衛門方より米廿七俵致隠積候訳書、隠積留帳二記有之故、
略之、

一、七月廿六日、從御役所御廻状、千丁、南郷、黒津、外畑、太支、大
萱迄八ヶ村庄屋、年寄、廿八日罷出候様被仰渡候、則閑ノ治兵衛江
申渡し、即刻幸便二而賃錢百文被相渡候様、四廻り平兵衛取計候、

一、坂本町組八郎兵衛義、十三年已前被致急死、存生中より被養置候養
子有之、一端中間へ出勤致居候処、不行跡故無間も不縁二相成、其
後年久敷相続人無之、乍後家は迄舟持伝へ被申候処、漸舟株式つ二
舟壹艘之家督二而、外二聊助成無之、殊二所持船ハ平帳舟二付儲方
も無數、全牀困窮之家を前養子不持二付、借財等も有之候二付、其
後之養子も相調不申、無抛後家暮シニ被致居候事故、次第二勝手向
惡敷、舟も古舟ニ相成候へ共、手入いたし候手便無之、極難之族ニ

而、迎も舟持立候かたく仕合二付、追而相続人相極メ候まで、暫之
処船稼相休舟株之義ハ相残し組内へ預ケ置、逼塞仕度旨申立被頼出

候二付、中間一統寄合相談いたし候処、舟稼相止メ、舟株計所持為
致置候義ハ甚差支差障り候儀二付、一向難相成事二候へ共、先年
坂本町組之内新右衛門方舟計売払、株三つ残り有之、其後同組内

小兵衛方同様二而、株壹つ残り有之、右何れも極難二而、舟持立相
続難出来段被及見聞二、実々相違無之、曾ハ新右衛門舟株ハ漸三
つ、小兵衛方ハ壹株之事故、其節ノ当役衆格別之了簡を以聞届ケ被
置候義二而可有之と存候、然レハ此度八郎兵衛方も前段之趣極難
二相違無之段ハ銘々及見聞二罷有候へハ、憐愍を以聞届遣候、依之
舟ハ当七月廿日塩津浦又左衛門江売払相成候二付、同廿七日御役所
へ御届相済、坂本町組舟株壹孫右衛門方へかり請、北ノ町組同壹忠
助方へかり請遣ひ被申候、右新右衛門、小兵衛、八郎兵衛等之儀
ハ、極々難渋二而実ニ相続難相成段、何れ茂及見聞二罷有、無抛族
二付如此聞届ケ遣し置候へ共、重而右牀被頼出候仁有之候共、株数
も纔二而実々難渋二而、相続舟持立相続出来不申分者格別事二候へ
共、自分勝手歟又ハ実々相続人無之分も株三つ以上ハ不相成可
申事、

一、七月廿七日、八郎兵衛船壳届二書付持参、御役所江罷出候所、右届
ハ相済申候、其序二御懸り内堀様被仰候者、先日此状箱八幡浦仁左
衛門持参致二付預り置候処、於御役所二見覺無之箱二付、若哉其中
間之所持二而も有之哉と御見せ被成候処、与次兵衛見受候へハ、春
慶塗之封箱二御用大津御役所と上書有之候箱故、成程はハ私共中間
二前方より有之候箱之由申上候処、如何之訳二而ケ様之書付致有候
哉与御尋二付、与次兵衛答候者、如何之訳と申義ハ無御座候へ共、

是迄御役所箱なし二御渡被成候御用状之分差入、いつ方江も御達候段申上候処、其方二而ケ様之書付いたし置候段不相濟候、しかし前方有之候義二候ハ、尚又此方二而今一応勘弁可致旨被仰渡候、同日中飯後源右衛門御役所江罷出候節、右箱御返し被成、尤御用と書付候所ハ残、大津御役所ノ所ハ削候而御渡し被成候、已来ハ御用百艘と書付持扱候様被仰渡候事、

勢田橋破損二付、近日船渡始候積二付、申渡儀有之間、庄屋、船年寄之内壱人宛印判持参明後廿九日未刻可罷出候、遲滞致間敷候、此廻状令請印早々順達、留り可相返候、以上、

大津

七月廿七日 御役所

大津、石山、草津、千町、南郷、五ヶ浦富川、淀川(村)、東村、中村、龍門、関津、太支、黒津、里村、橋本、神領、大江、大萱新萱、大萱新田、

右庄屋、舟年寄、右飛脚賃百四十文、午時飛脚永ノ惣兵衛、

一、八幡江御状箱壹つ

堅田江同壱箱

右石山、八幡、堅田三ヶ浦二も添状持遣ス、

弥御堅勝可被成御座奉賀候、然者大津御役所御廻状壱通入御箱壹つ為持遣候間、慥御入手被成、受取書御越可被下候、尤飛脚賃貳百四十文、此者へ御渡し可被成候、以上、

亥七月廿七日

大津百艘印

午刻

堅田浦

船年寄中

右同断、八幡ハ飛脚賃五百四十八文

右ハ桶屋町和助遣ス、尤堅田ハ八幡江廻ル、

右御召出二付、廿九日未ノ刻与次兵衛罷出候処、於御前二福永様、内堀様、北出殿、御立会二而 殿様直々被仰渡候趣ハ、此度勢田橋破損二付、近日船渡二申付候、右船渡中二格別之大通又ハ御大人數之大名方御通り之節、八ヶ浦方用意之渡船二而不足いたし候ハ、其浦々方早束⑤船差出、差支無之様船役人付添可取計候、勿論左様之節ハ前以可申渡候へ共、自然差懸急用之節ハ八ヶ浦方可申達候間、無異義船可差出候、尚又自分雇に有之候ハ、是又無遲滞可差出候、右申渡候趣可請印致被仰渡候事、

右次席二内堀様被仰聞候者、此方先達而船改二付廻村之中、留主中二浅井郡川道村舟大工方相願候長沢、川道之分共、船造新造造り替又ハかしかり之義共、彦根領方かり請候義も有之、迷惑之段申出、且ハ御役所被仰渡候意二も違ひ候付、留主中彼是評義有之候処、右川道二不限、以来湖水一鉢新造、造替之節ハ御届書二其所之船大工方も連印二而可差上、左候へハ、自然と造り立候大工も相知レ、旁手静二も宜候旨、此方帰り候後承候、しかし新規之義いつ方二差支にも有之哉、此義ハ百艘江相尋、百艘の方へ差支無之候ハ、諸浦右二集⑥シ可申旨百艘へ相尋、其上取計可申旨二候へ共、全鉢よろしからずと存候故、彼は延引致置候、此方中二而取計候も如何二候間、一寸此段及沙汰候、如何相心得候哉と御尋有之候付、与次兵衛答上候者、仰之通私共二おもても甚相好不申候、しかし差当り急度差支と申義ハ即答二難申上候へ共、全鉢舟大工之者共、是迄貸屋株之事二おもても心得違致居候事二候へハ、此後願書二大工連印杯為致候而ハ、末々心得違出来候而ハ甚難義二奉存候、只何となく此義ハ御取用無存候様御計被下度、こもく是迄之分別申上御断申上

候処、随分尤之趣、成程此方二も其心得二相有候へハ、随分相止二候様勘弁可致候、しかし此方限二差心得、取計候も如何二付、乍内分此段申聞置候間、尚其方二ハ差支二付、断申立候段相心得可申様被仰渡候、

京都八朔御礼

西御奉行

一、曲渕和泉守様

金子三百疋 目録台
下ケ札付

御用人

増田郷八様

御取次
椎名市右衛門様

星野半右衛門様

佐藤多仲様

原田仙助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

右九軒へ銀壹両つゝ、

東御奉行

一、森川越前守様

金子三百疋 目録台
下ケ札付

御用人

小柴宗右衛門様

御取次
村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

柴田栄蔵様

石川与左衛門様

松野小右衛門様

御勝手

村田忠兵衛様

伊藤右内様

右八軒へ銀壹両宛、

西御公事方

深谷平左衛門様

同公事下
千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様
入江吉兵衛様
本多新左衛門様
右四軒へ金子百疋つゝ、

浅賀卯兵衛様
上田八蔵様
菊池治左衛門様
柏原治部右衛門様
廣瀬左野右衛門様
酒井宗助様
右七軒へ銀壹両つゝ、

東御公事方

上田弥右衛門様

同公事下
寺田官左衛門様

木村清右衛門様

末吉新五郎様

本多金右衛門様

喜多尾八郎右衛門様

山田釵治郎様

森儀左衛門様

右四軒へ金子百疋つゝ、

中川奎左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右八軒へ銀壹両宛、

上町代

田内与助殿

銀貳両

奥田九右衛門殿

銀壹両

下町代

藤沢傳六殿

貳百文

東西中番中へ

三百文

藤村佐一殿

貳百文

宿鍵屋佐助下女中へ

貳百文

上町代中へ

五百文

山科大津屋孫兵衛へ

百文

下町代中へ

五百文

宿鍵屋佐助へ

三百文

追分丸屋四郎兵衛

百文

✂金三兩貳歩

銀壹兩三十貳包

銀貳兩壹包

錢五百文貳繫

錢三百文六繫

同貳百文三繫

同百文貳繫

右之通弥右衛門、六兵衛、相勤メル、供廻り嘉兵衛、荷持雇イ和介

当所八朔御礼

石原庄三郎様

金子貳百足

目録台
下ケ札付

元✂

福永久治右衛門様

御手付

石丸三伍右衛門様

町懸り

芝山泰蔵様

元✂

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右六軒へ金子百足つゝ

小頭

佐久間正蔵様

同

赤井平六様

御目付

高橋角左衛門様

舟方

下北出雲平様

惣年寄

小野宗九郎殿

同

矢嶋藤五郎殿

同

町代

多部甚助様

堀猪三郎殿

同

同

多賀喜曾太様

遠藤重五郎殿

右十軒へ白銀壹両つゝ

馬駅肝煎

吉本弥四郎殿

御門吟助殿五百文

同

山本俵五郎殿

御袋へ貳百文

右二軒へ鳥目貳拾足つゝ

御足輕半七殿

御小遣 梅八殿
藤七殿

右三人へ貳百文つゝ

白崎久大夫様

御蔵番三人

組屋敷不残

御門内御手代衆

平蔵町年寄

右者手札勤メ

✂金貳兩壹分

錢五百文壹繫

銀壹兩十計

同貳百文六繫

右之通与治兵衛、九兵衛相勤ル、供平六

勢多橋及破損候付、先格之通渡船勤之儀、八ヶ浦船年寄共江申渡、手当相調昨四日ゝ渡船相始り候間、此度も櫓打銀取集之儀、寛政之度渡船之節之通、御役所ゝ触出相願聞届候処、諸色雜用渡船造り立、代銀等渡方手支候付、櫓壹挺二錢五百文宛、当月十七日限取集度旨申出候間、右日限通無遅滞浦銀持参、大津川口町和迺屋角兵衛方江

相渡、請取書御役所江可差出候、

一、右渡船勤二付、取締方申渡儀有之間、壹ヶ浦^ノ船年寄老人宛印判持参、当月十五日午刻御役所江可罷出候、其節浦限船数、櫓数等委細書付可差出候、

一、八ヶ浦船年寄共之内、当時代人差出置候分者、右日限二船年寄可罷出候、

右之趣得其意、遅参致間敷候、此配符令請印、昼夜不限早々順達留り浦より可相返候、以上、

大津

八月五日 御役所

下笠、下物、山賀、森河原、杉江、赤の井、矢畠、木濱、幸津川、吉川、須原、長命寺門前、八幡船木、常樂寺、豊原^通

右浦々

庄屋

船年寄

此御配符入御箱^書

八月六日未中刻、下笠艦長右衛門と申者へ頼遣ス処、翌七日受取書参り有之、

一、御文言前之通、略之、

大津

八月五日 御役所

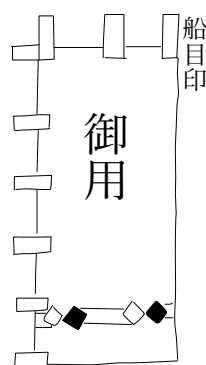
(横書)「此御箱同夕乗前舟卯兵衛へ渡ス、」

本堅田、同所貸船屋、西ノ切、釣獵師、今堅田貸船屋、わに南濱、同北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、北小松、大溝、永田、船木南濱、同横江濱、同北濱、藁園、深溝、同所貸船屋、針江、木津、今津、領家、知内、貫川、西濱、海津、菅浦、大浦、

月出兩組、塩津、片山、石川、東尾上、同所貸船屋、延勝寺、安粮寺^安、早崎、八木濱、南濱

右浦々庄屋

船年寄



右者勢多渡船場見廻り、其外御用二付候而も舟二て往返之節者、目印小幟相立候間、為心得遣置候、

亥八月

右之通八月十一日、福永様仰渡し被成候事、但し右之ひなかつ御箱へ入置候事、

一、八月十三日、年寄三郎兵衛死去二付、香典として金子百足遣ス、

一、北出雲平殿実母死去二付、香典銀壹両遣ス、但八月十六日、

一、八月十六日、従当御役所大浦江御差紙^書通、添状致海津飛脚遣ス、十七日午刻、宿高しま屋久右衛門、使新八、

尤海津船年寄より大浦届被申候筈、

大津

一、書付 御役所

江州野洲郡

野田浦

野田浦江之書付一両日中便船有之候ハ、可相届ケ、若右日限之内見

合二而茂便無之候ハ、為持可遣事、

八月廿二日

右御書付便り無之故致添状、和助雇遣ス、賃五百文申遣ス、八月廿四日朝六つ時出立、同夕歸、請取書、

石原庄三郎手代

先触

篠田牧太郎

福永五作

覺

一、山駕籠一挺 此人足三人

一、人足三人 内兩懸式荷
合羽籠壹荷

人足六人

右者、御代官明後廿九日曉八つ半時大津御役所出立、矢橋迄乗船二而野洲郡北桜村為檢見御用被相越日歸候条、得其意書面之人足往返共御定之賃錢請取之、無差支可被差出候、此先触無遲滯繼送、北桜村可被相返候、以上、

石原庄三郎手代

亥八月廿七日

福永五作印

篠田牧太郎印

百艘往之節計り手当、矢橋、草津、守山往之節人足用意ニ不及、返之節人足手当之事、
野洲郡北桜村

右宿村 問屋
中

庄屋

追而北桜村守山宿迄、例年之通迎ひ人足可差出候、且雨天日送之積二候間、其段可被相心得候、以上、

江州野洲郡

御用書付

北桜村

一、九月三日、年寄太郎兵衛忤龍之助死去二付、香奠南鐐壹片遣ス、但龍之助肝煎二付、

重陽之御礼

石原庄三郎様

鳥目百疋、木札付

御手付町掛り

石丸三五右衛門様

御元

福永久治右衛門様

町掛り

柴山泰藏様

元加判町掛り

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁太様

右六軒江鳥目五拾疋宛

右之外御門内御手代衆并御組屋敷不殘、北出氏名札計二而相勤申候、
治郎左衛門、勘三郎、雇供和助

石原庄三郎手代

先触

福永久治右衛門

牧野九郎兵衛

舟橋哲藏

廻状

右同断

江州伊香郡古橋村始

守山宿

大津御役所

問屋

福永久治右衛門

年寄中

御用

覚

一、垂駕籠 耄挺 此人足式人、但手前駕籠

一、分持 三荷 此人足三人

右者我等共儀当作毛為檢見、明後十五日明六時大津出立、江州浅井郡村々江罷越候間、於宿々御定之賃錢請取之、書面之人足無遲滯可被差出候、尤渡船川越等之場所者從前宿及通達、差支無之樣可被取計、此先触早々繼送り、留り村々我等共着之上可被相返候、以上、

亥九月十三日

石原庄三郎手代

舟橋哲藏印

牧野九郎兵衛印

福永久治右衛門印

百艘、矢橋、草津、

十五日江州北桜村泊、別段書付差遣し候ニ付除之
守山、武佐、愛知川、高宮、十六日泊鳥居本、上

下五人之積可被相心得候、米原、長濱、十七日泊り江州伊香

郡古橋村、十七日其村泊り之趣、浅井郡北野村へ通達可致候、

右村々問屋年寄中

十四日

一、例年之通石山々濕葺至來いたし候、

但し例年者松茸二御座候得共、当年者松茸無御座候二付、仕分宜御断申上被下候様申被置候、以上、

九月十六日、從御役所御配符御箱參ル、則左二留置、

追而先達而差出置候船帳之内改之上書損有之分ハ、此度直申付候間、本文日限之内浦々共御役所江罷出、書損有之浦方者直可受候、以上、

湖上船運上銀来月朔日ハ五日迄二持參上納可致候、遲滯致間敷候、尤運上銀大津橋本町古望仁兵衛方二而懸改候間、得其意納人印判持參可致候、此配符令受印、留り所ル可相返候、以上、

大津

九月十六日

御役所□

書面之趣貸舟屋 大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
江も申可聞候 本片田、同躰方、西ノ切、釣漁師、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
今片田、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
小野、和邇南濱、和邇北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
北小松、打下、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
大溝、同躰方、永田、下小川、今在家、藤江、横江、舟木南濱、同横江濱、同北濱、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
南古賀、新庄、太田、藁園、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
深溝、針江、森村、馬原、木津、今津、新保、領家、北仰、貫川、桂村、深清水、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
大沼、中庄、北新保、知内、西濱、海津、大浦、菅浦、月出、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
両組、岩熊、塩津、片山、石川、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
東尾上、延勝寺、海老江、安養寺、早崎、下八木、八木濱、大濱、書面之趣貸舟屋江も申可聞候
南濱、川道、書面之趣貸舟屋江も申可聞候

右浦々

庄屋

船年寄

東浦江も御配符老通、御文言西浦と同断、浦々名前左之通、

松本三ヶ所、鳥居川、石山、平津、千町、南郷、外畑、五ヶ

浦龍門、淀村、中、東村、富川、関津、太支、黒津、里村、橋本、神領、大萱

新田、大萱、新濱、矢橋、南山田、山田、下笠、駒井庄大萱、

穴村、書面之趣貸舟屋江可申聞候志那、書面之趣貸舟屋江可申聞候吉田、中村、津田江、下寺、

下物、山賀、森河原、杉江、赤之井、矢嶋、大曲、開発、書面之趣貸舟屋江可申聞候木濱、今濱、水保、戸田、五条、右同断幸津川、小濱、

吉川、提村、安治、右同断須原、野田、比留田、野村、小田、右

同断江頭、田中江、加茂、牧村、大房、右同断長命寺門前、南津

田、書面之趣貸舟屋江可申聞候舟木、書面之趣貸舟屋江可申聞候八幡舟木、八幡町、多賀、北

ノ庄、浅小井、香ノ庄、書面之趣貸舟屋江可申聞候常楽寺丸船方、同艀方、

豊浦、書面之趣貸舟屋江可申聞候伊庭

右浦々庄屋

船年寄

即日右之御返状四廻り嘉兵衛松本江持参、

口演

一、船御運上銀、来月朔日〆五日迄無遅滞上納可被致候、此廻状早々順達、留り所〆御返し可被成候、已上、

亥九月十六日

百艘印

仁左衛門、仁右衛門、喜兵衛、源助、清助、六兵衛、源七、五郎八、善兵衛、源六

艀持中江ハ当月廿九日切二廻状出入、

九月十八日

一、南山田江從御役所〆御差紙老通参ル、馬場左助舟相渡、使与ハ、

一、九月十八日、從御役所御配符参ル、則左之通

勢田川渡舟諸入用銀差支候二付、櫓老挺二錢五百文宛、当月廿九日限取集メ度旨申出、入用払方遂吟味候処、相違無之相見候間、右錢日限通無遅滞浦限持参、大津川口町和邇屋角兵衛方江相渡、受取書御役所江可差出候、尤先達而櫓打錢触出後、船数、櫓数増減有之浦々并貸舟屋共、其訳書付可差出候、此配符令請印早々順達、留り所〆可相返候、以上、

大津

（御印影写）
九月十八日 御役所 □（印影写）

下笠、下物、山賀、森河原、杉江、赤野井、矢嶋、木濱、幸津川、吉川、須原、野田、長命寺門前、八幡舟木、常楽寺、豊浦

右浦々庄屋

船年寄

即日右之御配符本山田平左衛門艀悴乙吉江相渡又、賃錢百文申遣又、宿豆市、

右之御文言同断、西浦江老箱、則浦々左二留置、

本片田、同所貸舟屋、西ノ切、釣漁師、今片田貸舟屋、和邇南濱、同北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、大溝、永田、舟木南濱、同横江濱、同北濱、藁園、深溝、深溝貸舟屋、針江、木津、今津、領家、知内、貫川、西濱、海津、菅浦、大浦、月出兩組、塩津、片山、東尾上、同所貸舟屋、延勝寺、安養寺、早崎、八木濱、南濱

右浦々

庄屋

覚

一、諸白五升 切手二而

御肴料

一、金子三百疋

年寄次郎左衛門 持参
供廻り平兵衛

但し鳥目廿疋半紙貳折、為御祝儀ため被下候、四廻り中へ寄

合入用ニ致候様申付遣ス、

右者舟方御手代内堀繁太様義、京都方御内室御迎被成、当廿四日御婚姻相済候二付、九月廿九日如此御悦申上候、尤御同人様義ハ常々御世話御苦勞ニ相成候節之音物御請無之候二付、其心をこめ如此二候間、後々舟懸り御手代様方ニ御婚礼等有之候共、格ニ致間敷候事、

一、白むし壺重

一、鯉ふし十ヲ

一、御酒三升

右三品為御返礼十一月二日被下候二付、使江錢百文、半し貳折遣ス、

八月廿九日

御所司代青山下野守様御組

永田五郎七様

岡田五一郎様

鳥居十五郎様

鵜飼小三次様

右者供御瀬御下見として瀬田迄御乗船被成候二付、小船入二而出向、六兵衛、忠次郎

覚

一、栗丸太 長貳間 拾本、代貳十八匁
末口三寸

舟木方直買、此舟ちん貳百四十八文渡ス、

右貳つ切二いたし用ひ候処、少々ながく候間、重而ハ壺丈もの貳つ切二而可然候、

内

金藏堀

入用

嶋ノ関

入用

右ハとも綱杭朽損候二付、今十月四日居合之加子共ニ申付、打替させ申候、其節蔵橋町年寄方へ相断置候事、

一、九月廿七日、芦浦観音寺様御隠居、^{ヲイテ}於京都御遷化、十月十日^{同刻}芦浦

二而御葬式、朝五ツ時之御積有之候処、山門より茂御出之処、^{当日}山門二御差支二而、同日八ツ時御葬式相済、右之節当仲間より御供

可仕候処、先例無之十二日別段御香奠金子百疋^{江持参いたし、}御玄関迄上下二而御悔罷出候、御役人片岡半内殿御取次有之、罷歸ル、

仲間代勘三郎供嘉兵衛、右金子百疋、目錄二重くり台下ケ札、但し川口弥蔵ハ右御葬式ニ罷出無之候事、

一、私共仲間年寄役之内三郎兵衛儀病死仕候二付、此段御届奉申上候、

一、^{ノミ}乍恐口上書

尤跡役之義ハ追而相極メ名前可奉差上候間、此段も御断奉申上候、以上、

享和三年

百艘年寄

与次兵衛印

亥十月十九日

大津

御役所

右書付之義ハ、残年寄役之もの暫三人二而相勤候義ニ候ハ、可差出
置事ニ候、尤来ル正月ニハ四人二揃候様ニ候ヘハ、右書付ニハ不及
候ヘ共、先此度ハ内堀御預リ被成候ニ付、上ケ置候、已来右之段、
為心得可申事、

覚

一、御酒式升入壹樽

右者堅田町組之内、三郎兵衛養子九兵衛儀、是迄出勤中ハ九兵衛名
前二而被勤居候処、当八月養父三郎兵衛病死被致候ニ付、此度九兵
衛儀三郎兵衛と改名被致、十月廿一日日和定、祝ひ之席ニおゐて組
役人方披露有之候事、

覚

一、小艀船壹艘

大津浦艀方之内

別所村住居

六兵衛

右者大津町之内中保町浜先ニ繫置候処、当月三日南風強、右船吹流
不相知候ニ付、近浦々吟味いたし候得共不見当由二而、浦々触流之
儀百艘年寄共申出候間、浦限致吟味、右船見当候ハ、及通達可相渡候、
此廻状令請印早々順達、留り所方可相返候、以上、

大津

十月廿一日 御役所御印

右御廻状式通共箱入、内一通即刻堂ノ前次郎兵衛江渡ス、坂本始長
沢迄六十八ヶ浦庄屋、船年寄中、又一通松本三ヶ所伊庭迄六十九
浦庄屋、舟年寄中、
右外ニせた川下五ヶ浦、東西艀方之浦も有之候、
右之通与次兵衛罷出候処、内堀様御渡し候付、早束浦々迄順達候事、
右流失願之義ハ、大つ山田五兵衛頼ニ此方江参候事、

十月廿五日

矢嶋村

差紙大津御役所

庄屋

舟年寄

右之御差紙御渡し被成候ニ付、則添状致、向積武兵衛、船頭八右衛
門へ遣ス、尤賃錢三拾文先取ニ申遣候事、

覚

一、十月晦日、從御役所御廻状并御受書帳参り、則左ニ写置、

一、小艀船壹艘

但無極印

右之船当月十八日大津浦江流レ寄候処、同所船大工仁右衛門見付引
上ケ置候旨届出候ニ付、右艀無印之船所持いたし、相流シ候もの有
之候哉、浦限艀持并貸船屋とも令吟味、無印之船相流シ候もの有之
候ハ、庄屋、船年寄之内右船主召連御役所江可申出候、尤右艀之
義無之浦々ハ其段別紙帳面江相記、庄屋、船年寄受印可致候、若無
印之船所持いたし、相流候もの有之候ヘ共、不申出段相知候ハ、
当人ハ勿論其浦方庄屋、船年寄迄可為越度間、可得其意候、此廻状早々

順達、留り所を可相返候、已上、

大津

(割印影写)

亥十月晦日

御役所御印

大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、本片田、同體方、西ノ切、釣漁師、今片田、小野、和邇南濱、々北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、北小松、打下、大溝、同體方、永田、下小川、今在家、藤江、横江、舟木南濱、々横江濱、々北濱、南古賀、新庄、太田、藁園、深溝、針江、森村、馬原、木津、今津、新保、領家、北仰、貫川、桂村、深清水、大沼、中庄、北新保、知内、西濱、海津、大浦、菅浦、月戸^(出)兩組、岩熊、塩津、片山、石川、東尾上、延勝寺、海老江、安養寺、早崎、下八木、八木濱、大濱、南濱、川道、下坂濱、長沢

右浦々庄屋

船年寄

御請書之写

御請書

御別紙御廻状之趣奉承知、浦限吟味仕候へ共、御極印無之船相流シ候もの、当浦方ニ無御座候、依之印形差上申候、已上、

亥何月幾日

何浦

何村歟

庄屋

誰印

船年寄

誰印

右之御廻状十一月朔日、坂本四つ屋源蔵江相渡、

右同断、壹箱松本浦始、東浦江廻ル、即日七ツ時廻り与八へ相渡、右二付、当浦貸舟屋、艀持中江左之通申遣シ、印形取置、

覚

一、小艀舟壹艘、但し無極印

右之舟去月十八日舟大工仁右衛門ひろい被置、其段同人より御役所江被申上、依之拙者共被召出、当浦之内ニ流し候もの無之哉、艀持并貸舟屋相調否可申上様、御廻状ヲ以被仰渡候間、若流し候衆^{ナカシ}も有之候ハ、不包置早速舟会所迄可被申出候、万一流シ候義を押隠し置、後日及露顯ニ候へハ、如何様之御咎ニ可被仰付段も難計事ニ候間、見聞ニ被及候義も有之候ハ、此段も可被申出候、且右舩之義覚無之方ハ、左之名前ニ被成印形、此廻状不限昼夜早々順達有之、留り所を舟会所江御戻し可有候、已上、

百艘

享和三亥年十一月朔日

船年寄長場印

貸船屋名前不殘

艀持中右同断

霜月六日未下

一、差紙大津御役所

志那村

太郎右衛門

弥右衛門

右添状付志那船吉三郎渡入、

庄屋

船年寄

霜月九日申刻

一、御配符壹通

下笠浦始

右者瀬田橋御入用御取立之御配符也、

添状致十日八ツ後九郎右衛門渡入、

一、同 壹通

堅田浦始

右同断二付也、

添状致十日朝藤七江渡入、

霜月十一

勢田詰

一、差紙 大津御役所

八ヶ浦

急キ

右同日持せ遣入、則賃百五拾文、添状二而先取二致申遣入事、

十一月廿日

一、御差紙 大津御役所

勢多詰

八ヶ浦江

急キ

右為持遣入、則賃錢百五拾文、添状二而先取二致申遣入候事、与八、

十一月十四日、芦浦西川五郎兵衛様へ

同村観音寺故僧正様、但常德院権僧正慈観大和尚様、当十六日昼七
つ正当二付、香物料として方金貳百足被下置候二付、孫右衛門、供
平兵衛、右御礼二同月廿四日罷下り被申候事、

一、十月廿六日、別所六兵衛持體流之御廻状、願之通浦々御差出被下候
処、品村三右衛門と申ものひらひ置候由申越候二付、十一月廿四日
右六兵衛見届二参候処、弥相違無之候段申来り、依之十一月廿七日

与次兵衛御役所罷出、内堀様へ此段御届申上、御礼申上候事、御廻
状箱ハ先達而歸候由被仰聞候、

諸浦へ御城米船積運賃貳割増之儀、宝永五年堅田、大津、八幡三ヶ
浦年寄共願出、吟味之上聞届ケ、其後年々右同直段ヲ以請負候段申出、
其時々吟味之上承届ケ候、右直段ヲ以當時諸浦へ御城米運送いたし
候間、いつ頃へ請負之書付も年々不差出、定直段二相極候哉之事、
但右定直段之上、少々つゝ間米受取船積いたし候浦方も有之哉、

亥十一月

右廿六日呼二参り、孫右衛門罷出候所、右書付御渡し被成候事、

勢田橋御普請請負人

蛸薬師東洞院東へ入

馬淵屋吉兵衛

大津問屋

扇屋関

和邇屋藤左衛門

嶋之関

石屋嘉七

覚

一、田地養船

志那浦

船主新七

但シ艫板之内、丸二

新ノ字ノ印有之

右之船書面新七浜先二繋置候処流失候哉、当十月廿一日夜ハ不見候
二付、近浦々相尋候得共、不見当由二而、浦々触流之儀申出候間、
浦限吟味いたし、右舟見当候ハ、船主へ及通達、可相渡候、此廻状

浦名下江令請印早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

十一月廿七日

御役所

松本村方伊庭迄

使与八

右同文言書通

坂本浦方長沢迄

同村小四郎江渡ス、

差紙 大津

御役所

下笠村

右添書いたし、廿七日七つ時下笠村忠治郎江相渡し、受取持参いたし候様申置候、

勢多詰

御封書書通

八ヶ浦年寄

右十一月廿八日^{申上刻}御使御持参被成、今日中二相達候様との義二付、

即刻勢田へ為持遣ス、飛脚高見町茂兵衛、尤賃錢百五拾文先取二申遣ス、

同月十一月廿六日、御役所呼二参孫右衛門罷出候処、舟方御手代内堀繁太様被仰聞候ハ、此度勢田橋御掛替請負人京都馬淵屋吉兵衛と申もの、竹材木其外共当津^{和邇屋藤左衛門、石屋部七郎左内へ差出、大分せた迄の}勢田まで舟積自由二致度旨京都御役所へ申出候趣、右御役所被仰越候、左様二相成候而ハ其中間差支二而可有之と被仰候二付、御意之通当所舟積之義を外方自由二為致候儀ハ難為致段申上候処、左候ハ、一応馬淵屋へ引合候而可然旨被仰聞候故、即刻和邇屋藤左衛門へ逢、前々仕来り浦法之趣申達、其段急々馬淵屋へ引合被呉否哉之義早速御返事被下度旨相頼候

処、藤左衛門被申候ハ、私義も随分馬淵屋ハ存居申候仁二候へ共、直々のかけ合二而ハ、自然取引滞候節迷惑仕候二付、直引受ハ断申所存二御座候処、今嵐町木屋小兵衛儀、馬淵屋へ米商ひ被致、右小兵衛方私へ被頼候二付、此度之荷品引受候義二付、只今被仰聞候義、具二小兵衛へ御演いたし吉兵衛へ被引合、急々返事有之候様可仕との義故、何分早々御両所之内御引合被成、否御返事可被下と申聞置候、一、翌廿七日、八つ時過馬淵屋吉兵衛使として手伝方之者舟会所へ参、此間京都御役所御状参可有之、明日地渡^{三御役人様方御見分付}二付入用之品積取申度存、則艀舟乗参候旨被申候二付、次郎左衛門かけ合候趣ハ、京都御役所方此方共へ御状ハ参り不申候へ共、当所御役所へ被仰越候趣ハ承知罷有候二付、則今日和邇屋藤左衛門、木屋小兵衛兩人之内より吉兵衛殿へかけ合被申寄二候、定而各々方と入違二相成候義と存候申聞候処、何分今日中二入用之品故、積取申度段被申候二付、其義ハ此方舟二而差送り可申候へ共、急入用之品二而、是悲積越度思召候ハ、浦法被相立候様申聞候処、定法通差出可申間、積とらせ呉候様被申候二付、是以各々と直相对ハ難致候間、藤左衛門方へ可被申聞と申聞候二付、引取被申、無程藤左衛門舟会所へ被参、彼是荷数廿駄余り、今晚中二勢田着之積二而積送り呉候様被申参、夜分之運送者近頃迷惑二付、断申度候へ共、無抛急入用二相違も無之、殊二初手合之義故、昨夜分積送り可申候得共、いっとてもケ様之義無之様、又ハ聊之荷品を積送り候儀も難致候間、此段請負方へ達し置可被下と申聞置候、依之廿六駄計、四廻り舟加子四人二而積届ケ申候、

一、其後馬淵屋の返事も無之処、又候廿九日舟積致置、晦日早朝差送り呉候様藤左衛門被申参候二付、則四廻り小舟二、廿九日夕方積置、晦日二届ケ申候二付、年寄次郎左衛門御役所へ参、内堀様へ其段申上候処、京都御役所へ可被仰遣候間、書付差出候様と被仰付候二付、

左之通書付相認差上置申候、

乍恐口上書

去ル廿六日、私共被召出、此度勢多橋御掛替請負人京都馬淵屋吉兵衛と申もの、竹材木其外共当津の勢田迄舟積運送之儀自由致度段、京都御役所へ申上候趣、則右御役所の申参候間、差障之有無可申上様被仰渡候、

此義前々勢田橋御掛替之度每当浦の舟積運送之儀ハ私共仕来り罷有候義二而、私共之外勝手二運送ハ難為致段奉申上候、尤当所荷問屋和邇屋藤左衛門も兼而私共へ沙汰被致候義も御座候へハ、右藤左衛門も今一応馬淵屋吉兵衛へかけ合為致、万一熟談調不申候ハ、御訴訟も奉申上度段御断申上候処、御聞濟被成下候二付、即刻藤左衛門の吉兵衛へ引合被呉候様相頼置候儀二御座候、然ル処翌廿七日八つ時過、馬淵屋吉兵衛為使と手伝方之もの舟会所へ参被申聞候ハ、此間京都御役所も御状参可有之、明日地渡し二付、御役人中様勢田へ御越被遊候二付、入用之品艀舟二而積越度存、則艀ふね乗参候旨被申候故、私共の答候二ハ、京都御役所此方共への御状ハ参不申候得共、当所御役所へ被仰越候旨ハ、承知罷有候二付、猶今日荷問屋藤左衛門の吉兵衛殿へかけ合二被及候筈二御座候、折角各々方艀舟乗被参候而も勝手二舟積ハ難為致候二付、此方共舟二而積送り可申候得共、急入用之品故、達而積取被申度候ハ、浦法被相立候様申聞候処、然らハ定法通差出可申間、為積取呉候様被申候二付、猶又私共の答候二ハ、当所ハ荷問屋之外舟積之手合難致候間、各々方へ直取引致兼候間、藤左衛門の被申出候様可然と申聞候二付、無程藤左衛門舟会所へ被参、今晚中二勢田着之積二而、舟積致呉候様被申聞候二付、立会荷品相改、私共の積送り申候、依之手伝方之ものハ空艀舟を連歸り被申候、猶又今晦日材木其外共積送り呉候様藤

左衛門の被申聞候二付、積送り候義二御座候、弥此後之運送も前段之振合二取計被呉候得ハ、子細無御座候へ共、私共を離レ自由被致度義二御座候へハ、不得止事、何方迄も御願申上度所存二而御座候二付、此段奉申上候、以上、

亥十一月晦日

百艘舟年寄

次郎左衛門印

大津

御役所

右書付内堀様へ差上置候事、

十二月二日、朝の大雨風、下ばん新八、但し船者北野町組也、右下ばん未下刻小舟入出船候所、膳所新堀奥二而帆下し難義致し候艀相見へ候故、下組五兵衛船ヲ仕立遣し申候、

加子 小岩、源兵衛、

重右衛門、平吉、

市兵衛、千吉、

新「一」

ズ七人

其外廻り加子不残

右加子共矢橋二而酒飯代老貫貳百九十文会所の遣入、外二酒貳升上へ遣入、

右船翌朝卯刻帰津仕候、様子相尋候所、西風強浪高く、梶打おれ船へ少々水取込候趣二而、人荷物共別条無御座由申之候、尤右二付矢橋も船頭罷出、彼は世話いたし呉候故、左之通書面遣し申候事、

以手紙貴意候、甚寒之節御座候処、弥御揃御安康可被成御勤役奉賀候、然者昨日ハ此方小舟西風強、湖中二而楫打おれ難義致候所、於其御

地彼は御心配御世話被下候段、右船頭共罷歸り申聞承知仕、不殘千萬忝奉存候、早束以參御礼可申上筈、乍自由以書中右御挨拶御礼申上度、尚万面上御礼申上度、如此二御座候、已上、

十二月三日

百艘

矢橋浦

船年寄御衆中

十二月四日、当所寒氣御伺

石原庄三郎様

真鴨耆掛

町掛り

石丸三五右衛門様

元々

福永久次右衛門様

々々

芝山泰藏様

々々

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁多様

右南鐐壱片つゝ

小頭

左久間正藏様

々々

赤井平六様

目付

高橋角左衛門様

々々

多胡甚助様

々々

多賀喜曾太様

銀壱両つゝ

右之外、御門内不殘、組屋敷不殘、北出雲平殿、手札二而相勤申候事、与次兵衛、三郎兵衛、供新八

貸船屋仁右衛門

右今日罷出候様可申達事、

十二月七日

右書付参り候二付、即刻四廻り加子吉兵衛申遣ス、但内堀様方

極月五日、京都寒氣御伺

西御奉行

一、曲渕和泉守様

真鴨耆掛

御用人

御取次

増田郷八様

椎名市右衛門様

星野半右衛門様

佐藤多仲様

鈴木順平様

矢沢龍右衛門様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

右手札計二而

西御公事方

同下

深谷平左衛門様

千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様

浅野賀卯兵衛様

入江吉兵衛様

上田八蔵様

本多新左衛門様

菊池治左衛門様

熊倉恵助様

柏原治部右衛門様

右八南鐐一片つゝ

廣瀬佐野右衛門様

酒井宗助様

右手札計

東御奉行

森川越前守様

真鴨老掛

御用人

御取次

小柴宗右衛門様

村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

柴田栄蔵様

石川与左衛門様

松野小右衛門様

御勝手
村田忠兵衛様

伊藤右内様

右手札計

東御公事方

御公事下

上田弥「右衛門様」

寺田官左衛門様

木村清右衛門様

末吉新五郎様

本田金右衛門様

喜多尾八郎右衛門様

山田鋤次郎様

森儀左衛門様

右八南鐐老片つゝ

中川奎左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右手札計

外二

田内与助殿 銀三匁

若狭屋八兵衛殿 干鳥一羽

外二金百疋

右八熊倉恵助様公事方被蒙仰候為御悦と相勤候事、

治郎左衛門、孫右衛門、供嶋関ノものやとひ嘉兵衛

覚

一、納豆 五拾抱

右八例年之通被下置、難有頂戴仕候、以上、

享和三年

百艘印

亥十二月

観音寺様

松岡市左衛門様

覚

一、金百疋

右八從当津御家中并人足衆渡海為御挨拶被下置、難有頂戴仕候、以上、

享和三年

百艘印

亥十二月

観音寺様

松岡市左衛門様

覚

一、田地養船老艘

但八幡町貸船屋作治郎を借り船

野洲郡江頭村
船主傳助

右之船書面江頭村浜先二繫置候処、流失候哉当十一月八日不相見

候付、段々相尋候へ共不見当由二而、浦々吟味之義願出候間、浦限相糺右船有之候ハ、船主へ及返達可相渡候、此廻状浦名下令請印早々順達、留り所より可相返候、以上、

大津御役所

亥十二月廿一日 大津^方長沢迄

同壱通 松本^方伊庭迄

川崎善七江渡ス、

覚

一、金子百疋

右者朽木兵庫助様^方被下置、慥ニ受取申候、以上、

享和三年

百艘舟年寄印

亥十二月廿六日

御用達

舛屋市左衛門殿

(貼紙)

「一、当津庄兵衛船常楽寺、能登川行荷物積入、十二月九日朝出船いたし、同日常楽寺江着候処、ふしぬけ出来、荷物相沈候二付、夜通し飛脚并地舟船頭式人同道二而当津十日曉七つ時着、夫^方会所寄合積入之間屋分江も案内いたし、相談之上役人三郎兵衛、勘三郎、船主」庄兵衛忤新治郎、供廻り嘉兵衛、問屋代和邇屋藤左衛門内久五郎、大坂屋六郎兵衛、塩屋七兵衛^方手代壱人昼前出立、八幡町翌十一日朝常楽寺江着之上、双方問屋立合之上濡荷戻相改、浦手形取為替相済、三郎兵衛、船主新治郎、供壱人、同日暮半時^方八幡町二而出会、勘三郎供嘉兵衛ハ翌日十二日常楽寺出立并問屋惣代久五郎同道二而客廻り、尤客廻り之義ハ問屋^方相頼候故相廻ル、元来船賃^{チン}受取候積り故相廻り申候、此義以後之格合ニ成り不申事、右ニ付礼物何角別帳ニ有、仍これを略スもの也、

(裏表紙)

七拾八番

百艘

(印：百艘)

四、「万留帳」享和四年（一八〇四）

（表紙）

甲 享和四年

〔後筆力〕
「文化」改ル

万留帳

〔後筆力〕
「七十九」

子 正月吉日

（表紙見返し）

（印：百艘）

- 一、知内弥四郎参、四十物荷出候二付片田小舟二為積度趣被申来候事、
- 一、石原庄三郎様布衣被仰蒙候事、
- 一、大濱極印場其外諸入用取集御廻状、
- 一、登り舟俄風二而難儀致し候事、
- 一、矢橋より山田行炭積登り、当所へ着致候故、矢橋へ書状遣し候留、
- 一、大溝浦二而海津小舟難舟之事、

（本文）

目録

- 一、所司代青山下野守様御下向、
- 一、京御奉行曲渕様并中井様せた橋御見分度々、
- 一、北之町組忠助本役成、同市兵衛出勤、
- 一、大津町組市松死去、親伊兵衛市松と改名并清治郎養子之事、
- 一、有栖川樂姫様関東へ御輿入二付、石原様御賄為御用と御供被仰蒙候

事、

- 一、せた橋櫓打御廻文度々、
- 一、永田浦廻船一件、
- 一、坂本町組佐右衛門養子顔見せ、
- 一、矢嶋村金右衛門艀大かや浜二而難船水死人之事、
- 一、長命寺御開帳二付、宿清兵衛が仏供袋頼越候事、
- 一、忠助船内海木綿荷紛失之事、
- 一、入江吉兵衛様御老母死去香典、
- 一、当所御手代衆伊香郡へ御越御先触之写、
- 一、石山大黒天開帳二付幟差出し候儀二付、和泉町の小舟入与掛合之事、
- 一、大津町組新八舟せた橋へ舟当テ候事、
- 一、往還筋道造り御役人嶋之関へ御越被成、土砂御取寄被成候趣二付、御断願之事、
- 一、御老中青山様、御所司代稲葉丹後守様御登、
- 一、膳所城先棒杭之内人乗通船之儀二付、百艘、松本、石山御呼出し候事、
- 一、芦浦西川五郎兵衛様御老母御死去香典、
- 一、矢橋出火二付見舞遣し候事、
- 一、御役所へ、京極宰相様御籠城之節之書物差上候様被仰付、写差上候事、
- 一、大坂御目附代御順見二付、御召船差出候事、
- 一、嶋之関喜兵衛が借り請之艀流失之事、
- 一、嶋之関葭苅取候二付、若狭蔵へ掛合候事、
- 一、享保十六比宮様御下向之節之写書差上候事、
- 一、下寺村新蔵艀二米、青物等積登り難船之事、
- 一、御役所へ矢橋、八幡、のと川が御城米舟賃御尋二付、書付差上候事、
- 一、大濱御印場之先二溺死人有之候事、

一、下組七兵衛相果、跡相続人も無之、尤借財等有之、組内へ引受候事、
一、樂宮様御下向二付、御賄御用として石原様御下り被成候二付諸勤方、
一、御手代篠田牧太郎様を金藏舟ノ楫出張有之間、制度いたし候様被仰
渡候事、

一、殿様御留主故恩田半助様北桜村へ検見二御越被成候事、

正月二日当所御礼

石原庄三郎様

金子貳百足
目録台下ケ札付

元々

福永久次右衛門様

々町懸り兼帶

芝山泰藏様

元々町懸り

石丸三伍右衛門様

々々

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁多様

右六軒へ金百足つゝ、

小頭

佐久間正藏様

々々

赤井平六様

目附

高橋角左衛門様

々々

多胡甚助様

町代

堀伊三郎殿

々々

多賀喜曾太様

々々

遠藤十五郎殿

右拾軒へ白銀壺両つゝ、

吉本弥四郎殿

御門吟助殿五百文

山本兵五郎殿

御袋へ貳百文

右貳軒へ鳥目貳拾足つゝ、

御足輕半七殿

小遣梅八殿

藤七殿

元々三人へ鳥目貳百文つゝ、

元々金貳両 五百文壺つゝ、

銀壺兩拾つ 貳百文六つ、

白崎久太夫様 御藏番三人

組屋敷不残 御門内御手代衆

平藏町年寄

右者手札計二而相勤申候、

治郎左衛門、三郎兵衛、供与八

三日京都御礼

西御奉行

一、曲渚和泉守様

金子三百足

目録台
下ケ札付

御用人

御取次

増田郷八様

椎名一右衛門様

星野半右衛門様

佐藤多仲様

々々
小野又三郎殿
宗九郎

原田仙助様
鈴木順平様

右九軒へ銀壹両つゝ、

矢沢龍右衛門様
芝忠五郎様
佐藤左一郎様

東御奉行

一、森川越前守様

金子三百疋
目錄台
下ケ札付

御用人

御取次

小柴宗右衛門様
鈴木又兵衛様
石川与左衛門様
御勝手

村田直右衛門様
柴田栄蔵様
松野小右衛門様
伊藤右内様

村田忠兵衛様

右八軒へ銀壹両つゝ、

西御公事方

同公事下

深谷平左衛門様
不破伊左衛門様
入江吉兵衛様
本多新左衛門様
熊倉恵助様

多賀与三右衛門様
浅賀卯兵衛様
上田八蔵様
菊地治左衛門様
柏原治部右衛門様
廣瀬左野右衛門様
酒井宗助様

右四軒へ金子百疋つゝ、

右七軒へ銀壹両つゝ、

東御公事方

同公事下

上田弥右衛門様
木村清右衛門様
本多金右衛門様

寺田官左衛門様
末吉新五郎様
喜多尾八郎右衛門様

山田劔治郎様

右四軒へ金子百疋つゝ、

森儀左衛門様

中川李左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右八軒へ銀壹両つゝ、

上町代

田内与助殿

銀貳両

奥田九右衛門殿 銀壹両

下町代

藤沢傳六殿

貳百文

小番中へ三百文

藤村佐一殿

貳百文

東西中番中へ三百文つゝ、

上町代中へ

五百文

宿鍵屋佐助下女中へ貳百文

下町代中へ

五百文

山科大津屋孫兵衛へ百文

宿鍵屋佐助へ 三百文

追分丸屋四郎兵衛 百文

✂金三兩貳步 銀一兩三拾貳包

銀貳両壹包

錢五百文貳繫

錢三百文六繫

同貳百文三繫

同百文二繫

右之通孫右衛門、勘三郎相勤ル、供与八、荷物雇イ和助

正月六日、御役所方印形持参可致御書付参り候処、弥右衛門罷出候処、

一、御差紙壹通

大津浦舟年寄

同壹通

片田浦 同断

同壹通

八まん浦同断

右之通御渡し被成、則請印御取被成候、

但し片田へ七日二飛脚和助為持遣入、賃錢三百文、

八まんへ者せた迄源蔵為持遣入、同百五十文、

一、御所司代青山下野守様江戸表江御下り、正月九日京都御発駕、追分迄御出迎申上ル、孫右衛門、勘三郎、供四廻り嘉兵衛、

正月廿日、京都西御奉行曲淵和泉守様、中井藤三郎様、せた橋御見分として御下り被遊候二付、八町迄

御出迎孫右衛門、三郎兵衛、供平兵衛

石場迄御見送り、右同断

正月十五日、芦浦御礼

一、観音寺様 扇子三本人沓箱、昆布のし包添
但し扇箱くりあし台

右当年も御幼年二付、御在住被遊御逢無之、御酒御節子等者例年之通被下置候事、

御家中

西川五郎兵衛様

下物

久松清右衛門様 扇子三本人沓箱つゝ、

片岡喜右衛門様

右之通三郎兵衛、忠治郎相勤申候、供嘉兵衛、

正月廿一日、例年之通 貴布祢御神酒、役人不残相祝イ候事、

北野町組忠助、是迄見習之處、今日本役二相成候事、但し持参ものハなし、

大津町組市松去秋死去二付、当春親伊兵衛市松と改名被致、町内ハ子息猪之助名跡何兵衛二改名被致候付、組方引付右及披露候、市松顔見せ被致候、

但し追而振舞被致度段組江申出／有之故、今日持参ものハなし、

大津町組清次郎方江養子被致儀兵衛と申仁、行末半兵衛名跡二致度趣、組内江被相頼候而大津町組江書付被差出候付、此段中間江及披露儀兵衛顔見せ為致候、則酒式升持参、清次郎付添被参候、

一、北野町組市兵衛義、出勤被致度頼二付、一統相談之上当分手伝として今日方被出候事、依之持参もの等ハ一切無之、勿論勝手二付一飯為給候、猶出勤之義ハ追而相極メ候積り、其節ハ養子祝義金并酒肴等為差出可申候事、

一、正月廿一日、恐悦として与治兵衛、治郎左衛門、金五百足御役所江差上ル、

此訳当十八日石原庄三郎様御賄御用江戸御供被蒙仰付候、有栖川御姫樂姫様と奉申、此度関東大納言様江御輿入二付、但御下向ハ当秋二も可相成哉之由承り申候、
右上ケ物ハ延享年中^{寛延三年之}之任先例二取計ひ候事、

一、正月廿一日、勢多橋御普請二付、諸浦^る櫓打御廻文御渡し被成候二付、但し四百文つゝ、

堅田始り壱通、飛脚賃三百文先取り、和助遣入、
下笠始り壱通、下笠村藤蔵へ渡、

正月廿二日七つ時

勢田御用先

飯室助左衛門様へ 七里左六郎様を

御状を通

嘉兵衛二為持遣ス

右添状致即刻源太百五拾文先取二而遣又候処、尤賃錢百五拾文ハ諸浦かし二致置候事、

一、永田浦廻船出入之義、去亥二月八日御訴訟申上置候処、当正月十六日双方被召出洛方被仰渡候事、尤一件始末ハ別紙帳面ニ留置候二付、爰二略ス、

覚

一、銘酒春風式升

五種組

一、八寸 玉子、長ろき

海老、九年甫

もろこ

✕

右者坂本町組之内佐右衛門養子喜九郎顔見世として、二月二日夕定式寄合之席江親子とも被罷出、其段披露有之候事、尤鹿酒式升計持参被致候様前以内意申聞置候得共、右之通念入持参被致候儀二付、以来之例ニハ仕間敷候事、

覚

一、炭式俵

右者朽木兵庫之助様を被下置、慥ニ請取申候、以上、

享和四年子二月七日

百艘船年寄印

御用達

升屋市左衛門殿

一、二月十八日、京都御奉行曲渚和泉守様、中井藤三郎様、せた橋御見分として被遊御下り候二付、八町迄御出迎、

御出迎治郎左衛門、孫右衛門、供平兵衛

御歸り之節ハ石場迄御見送りニ出ル、

孫右衛門、六兵衛、供平兵衛

二月廿二日

一、從御役所勢多詰八ヶ浦年寄方へ御差紙を通、仕立飛脚ヲ以為持遣し申候、但し賃錢百五拾文先取、

一、当月廿六日矢嶋村金右衛門外二壱人、艀ニ乗組当月廿六日登り候処、大荒西風つよく吹難儀ニ逢、右艀ハせたの大がや浜江より、うつむけニ相成有之、死躰壱人なわニ而艀ニくゝり添居候趣、翌廿八日矢嶋村役人ハ当津石原庄三郎様御役所へ訴出候処、大萱村ハ不訴出候二付、百艘年寄被呼出、則太郎兵衛罷出候処、右大萱村ハ何事も不申^申参候哉と御尋^{舟方御子代内堀繁太様御尋被成候へ共}被成候得共、いまた申参候もの無之段申上候、何れ檢使ニ罷越候間、舟壱艘申付置候様被仰渡候二付、上組小舟新八舟、加子三丁并茶、たばこ、火、薄縁等差入、小舟入ニ用意致置候処、同日八つ時内堀繁太様、御下役北出雲平殿、御供壱人右舟ニ而御越被成、同日七つ半過小舟入江御歸舟、夫ハ御役所へハ陸り御歸り被成候、

一、大萱村役人不訴出段嚴敷御叱被成候由、

一、膳所役人衆御立会ニ御出有之処、湖水之儀故不及其儀旨、内堀様を

御かけ合有之、無其儀膳所役人衆ハ御引取被成候由、

一、大溝役人衆ハ為御挨拶、右場所へ御話有之候由、
但し右矢嶋村の御領主故如此、

一、^{加子}金右衛門死骸ハ相知レ不申由、

右四ヶ条之趣、上組新八舟加子のもの□承り歸り、当役孫右衛門へ
尊仕候旨二付、為心得之爰ニ書置候事、

一、当三月八日ハ四月十八日迄長命寺觀世音御開帳之旨ニ候処、舟
宿清兵衛ハ仏供袋五十枚差越、中間内ニ而詰呉候様頼参候、但袋
壺ツ凡米壺升も入り可申、依之尤是迄も開帳有之節ハ、左様之
^{例ハ}物も無之、此度始而の頼ニハ候へ共、平生当浦之舟参りかゝり場
^{三而、格別之事ニ存}所之事故、金子百疋寄附いたし、袋ハ其儘戻し候寄ニ相談相究メ置
候処、当二月廿九日則長命寺宿清兵衛為登合居候ニ付、舟会所へ呼
此度御開帳ニ付袋之儀頼越被置候処、時節柄故都而ケ様之儀外々ハ
頼参候分ハ一切請不申事ニ候へ共、^{節角}頼被越候儀格別ニ取計、乍聊
金百疋寄附いたし^間遣候尤、坊中村方へも可然申給様と申聞、袋ハ不
殘其儘差戻し候処、清兵衛儀相悦、一札申引取候、尤当浦舟頭中間
へも袋五十別段頼越趣ニ付候ニ付、是又舟頭并おして中少々宛相集
メ遣し候趣ニ御座候事、

一、二月廿六日、町触、文化と改元有之、尤六十一年廻り甲子之御改也、

乍恐口上書

一、先月十八日当浦忠助船ニ而江州能登川并常楽寺行荷物積込、字嶋ノ
関堀ニ而日和待仕罷在、漸同廿日夜八つ時出船致、廿二日常楽寺へ
着船仕、同所揚之荷物不殘船揚仕、夫ハ能登川へ相廻し、翌廿三日

荷物船揚仕候処、当津荷問屋之内坂本町大坂屋六郎兵衛出能登川問
屋藤兵衛方着之木綿荷式箇之内壺箇不足仕候ニ付、若哉取紛、常楽
寺へ揚違候義も可有之と、早速水主共常楽寺へ罷越穿鑿仕候処、無
其義候故、自然大津表問屋方ニ積殘し可有之儀も難計様存、則水
主佐七義歸津仕、右六郎兵衛方へ其段申聞候処、船積仕候義無相
違、依之右六郎兵衛并船主、水主同道ニ而又々常楽寺、能登川へ罷越、
再応吟味仕候得共相知レ不申、尤其節之船揚荷物諸方へ附送り候得
ハ、紛込候義も可有之与存、其先々へも罷越相尋候得共相知レ不申候、
尤水主佐七義日々船中見廻り、夜分ハ船ニ泊り候処、荷物船揚仕候
迄も何之氣附も無御座候得共、全積入置候日数内ニ何方ニ而歟問合
哉考、鳥乱もの船中へ這入盜取候義ニ而も可有御座旨、水主共申
之、猶又水主共相糺候処、外ニ存当り怪敷義も無之段申聞候、然ル処
右紛失木綿反別品訳等相知レ不申故、荷主愛知郡大沢村定治方へ仕
立人ヲ以尋ニ遣し候処、白木綿八拾反与白糸壺丸ヲ壺箇ニ致有之候
段承り、漸昨夜罷歸り候ニ付、此段御訴奉申上候、右諸向懸ケ合ニ
日数相懸り罷在、御訴延引仕奉恐入候、依之此段も奉申上候、以上、

文化元年

子三月十日

船主平藏町上組

船屋忠助印

百艘船年寄

治郎左衛門印

荷問屋

大坂屋六郎兵衛印

同年寄

陸助印

大津

御役所

右文言之奥書ニ右之通町方御役所へ御訴申上候趣書添へ、船方内堀

様へ御届ケ置候事、

一、三月十二日八つ時、櫓打御廻文御渡し被成候、

但し片田始リ壱通、下笠始リ壱通、

十三日朝、飛脚同所柳屋嘉兵衛へ遣ス、同□七へ渡ス

一、慶安四年二月廿二日、観音寺様江上候書付壱通、

一、正徳元卯九月、船賃増之義雨宮源治郎様、雨宮庄九郎様へ御勘定所
江御伺之書付并御下ケ札、

右之写共帳面壱冊、三月廿三日内堀繁太様江差上ル、

一、三月廿三日、沖之嶋より鱒三本至来、即刻貝半江預ケ置、

一、三月廿四日、京都西御奉行

曲渕和泉守様

中井藤三郎様

右者勢多橋御見分与して御越被遊候二付、

八町迄出迎、治郎左衛門、勘三郎、供新蔵

御歸り之節石場へ見送り出ル、太郎兵衛、六兵衛、供新蔵

一、西公事方入江吉兵衛様御老母、四月十六日御死去二付、為香典式朱

壱片孫右衛門持参ス、

四月廿四日

石原庄三郎手代

先触

篠田逸作

福永五作

大津百艘始

覚

一、分持 貳荷 此人足貳人

右者我等共儀、就御用明朔日明六つ時大津御役所出立、江州浅井、
伊香兩郡村々江罷越候条、於宿々御定之賃錢受取之、書面之人足無
遅滞可被差出候、尤渡舟、川越等之場所者自前宿及通達、差支無之
様可被取計候、此先触早々順達、留宿る我等共着之上可被相返候、
以上、

(割印影等)
印) 三月晦日

石原庄三郎手代

福永五作印

篠田逸作印

百艘、矢橋、草津、守山、武佐、愛知川、高宮、鳥居本、米原、
長浜

右宿々問屋年寄中

一、当年甲子廻り年故、三月十日石山大黒天為拜有之前二、同所観音
開帳之節差出候通石山渡舟場目印之木綿幟、京町通者和泉町之内小
船入筋東角二壱本、中町通ハ材木町之内小船入筋西角二壱本、濱通
ハ下組平蔵町内猿ケ関ノ東角二壱本、以上三本差出候事、

但先格之通目付衆計へ口上届ケいたし置、其外御役所へも御届二
不及候、勿論先格之通御目付高橋角左衛門様、多部甚助様、多賀
喜曾太様、右三軒へハ銀壱両宛遣ス、

右幟差出候儀外々二ハ何之障も無之処、和泉町^(さか)□いせん石山観音
開帳之節ハ格別、大黒天開帳二幟出候義ハ是迄覺不申、町内差障り
二相成故、難為建旨被申候二付、上下小舟持惣代再応かけ合二参候

処、町内毎度寄合相談之上、京町通ニ為建候而ハ何分目障リニ相成候間、横町へ引込建候様被申候、此上いかゞ可仕候哉と小舟入持の申聞候二付、前々の甲子年并拾三年已前子年ニも右大黒天開帳有之、其節之留帳悉御吟味致候へ共何之様子も留書無之、勿論仲間の表向ニてかけ合候共聞入有之間敷、日数相かゝり居候内ニ、右開帳も仕廻リニ相成候而ハ無全事ニ候間、先つ此度之義者小舟持切ニ如何様ニもかけ合候様ニ申渡候、依之小舟入筋東側和泉町の北へ壱軒計引込候而建置申候、然ル上ハ此後観音開帳ハ不及申、石山渡舟場之幟差出し度義有之候ハ、其以前二町内へ及熟談、其上ニも我儘申候、対談調不申候ハ、御願可申上事、但し此節重達かけ合候人数、名前ハ町宿ひし屋又兵衛と申、木造り渡世居候もの壱人、近江屋喜八事異名丸棒と申もの一人、紙屋清兵衛事しかの忠次郎と申もの一人、小舟持ハ下組の鍵屋五兵衛、上組の鯨市兵衛、柳屋治兵衛也、尤鹿ノ忠次郎義少々当仲間へ含合有之、最初差障り申立居由ニ候へ共、小舟持の段々応談之上解合、其外町内ニ何之差障り申もの無之、就中九右衛門義者右町内付年寄、当時人下ケ致罷有、丸棒喜八右兩人義者取持被呉候趣ニ候へ共、木造りひし屋又兵衛と申もの石場はりま屋と近親之もの故、右又兵衛壱人不承知申立候而熟談調不申旨承之候故、為心得爰ニ記置候、右大黒天開帳日数、最初者三月十日の三十日ニ候へ共、日延可有之段も難計事、右御開帳三十日ニ候処十五日日延有之、四月廿四日迄為拜有之候事、

一、三井寺如意谷大黒天も順礼観音堂内ニおいて三月十八日の三十日之間為拜有之候事、

三月晦日

一、内堀繁多様のせた詰八ヶ浦船年寄中へ御書付壱通、せた新左衛門舟

へ遣入、

四月十三日、例年之通日吉御神事之船御配符三箱、外ニ御配符式通、御役所ニ而受取、夫々へ相達し候趣、左ニ記、

覚

一、船数 五艘

但百五拾石積の式百石積迄

是者、日吉御神事御名代舟、奉行船、日吉惣政所、并供船

右之船来ル十三日、日吉御神事二付如例年可差出候、尤服忌差合之もの相改可申候、以上、

申四月朔日 石庄三郎御印

大津百艘

船持中

一、船割賦壱通 山田浦 江 矢橋浦

御文言例年之通候故略ス、

一、同 壱箱 堅田浦始

御文言左之通、

来ル十三日

日吉御神事

神輿船割賦之事

堅田浦

丸船式艘

水主九人 外楫取壱人宛

舟年寄

但百八拾石積の式百石積迄

二宮方早船

今津浦

丸船壹艘 水主拾壹人
外楫取壹人

甚(乗力) 丞

同 壹艘 右同断

十左衛門

同 壹艘 右同断
同 壹艘 右同断

八郎左衛門
船年寄

海津浦

丸船壹艘 水主十壹人
外楫取壹人

治左衛門

同 壹艘 右同断

嘉助

同 壹艘 右同断
同 壹艘 右同断

甚兵衛
船年寄

塩津浦

丸船壹艘 水主拾壹人
外楫取壹人

八郎兵衛

同 壹艘 右同断

左近右衛門

同 壹艘 右同断

又六

同 壹艘 右同断

源六

右之船例年之通致吟味、来ル十三日已前大津江着船可致候、尤服忌
差合之者相改可申候、此配符令請印早々順達、留り所可相返もの也、

子四月朔日

石庄三郎御印

堅田浦

今津浦

海津浦

塩津浦

右浦々

船年寄

外二舟方御手代内堀繁太様、福永久治右衛門様御添書壹通、右之
文言例年之通候間略ス、

一、御廻状 壹箱 坂本始 使四つ家九兵衛へ渡ス、

一、同 壹箱 矢橋始

右二箱御文言、爰五六年之如二候間略ス、

外二松本浦へ之御割賦、例年此方より取次遣し候へ共、二三年前
より御役所にて直々御渡被成候、当年も其趣二候事、

一、四月六日、せたろ鯉式本至来、但し例歳之通うくぬも至来之事有、

但し本冬例歳之うくぬと認置候へ共、是ハ石山大黒天御開帳二付、
小舟入二而参詣之人乗せ候挨拶之由、四廻り嘉兵衛申居候故、為
念留置候、

一、四月八日、大津町組小船新八下ノ番小口二而石山行加子伊八、長五
郎、乙吉、三人乗二而勢田小橋下通舟致候処、橋上二而艫乗廻し候
積二尻ノ内渡し而折節渡ししの馬舟式艘横渡り二行懸り、除候内るか
たはつれ、其内橋近ク流か、り候故、無是非行成二舟下ケ致候所、
橋杭ニすれ少響候二付、早束伊八大工棟梁ニ断申候処、穩便二聞濟
候様子ニ而安心致罷歸り候処、御懸り与力内堀様へ御書面来り、
此度之義ハ格別いたミも無之候へバ、此度之義ハ京都奉行所へも不
申遣候へ共、已来迎も相心得候様、是迄のせ通り之義を今更橋下往
来差止候而ハ船稼候もの差支可申義二付候間、無急度取締可申段御
申越二付、内堀様方此方とも二御沙汰有之候間、則上下小船廻り加子、
已来三丁乗ノ外加子不足候ハ、遣し申間敷、乗人も随分内ばにのせ、
橋上二而艫のり廻し、万一棹等失念之義も有之候ハ、声をかけ、せた、

鳥川^(居脱カ)ノ内へ人出し被呉候様ニいたし、重而ケ様之不調法無之候様申渡し、上組、下組并四廻りとも、其組々ニ而右之段銘々不残書付二印形いたし候様、急度申渡置候、上組^{仁右衛門}、下組^{甚兵衛}、右之もの共呼寄、与治兵衛、孫右衛門、勘三郎^{市兵衛}申渡入、

但加子^{伊八}遠慮申付置候、
長五郎

一、神出村新宮神事、例年五月五日二候処、当子年^ノ四月五日二相成候事、

一、四月二日三月廿八日、往還筋道造り為御見分と御普請役田中又蔵、木村甚十郎、当御役所^ノ本庄治郎右衛門様、町代堀猪三郎殿、年番年寄九兵衛付添、嶋之関浜先砂取候趣二而、見分有之候、年寄与治兵衛罷出其後左之書付、当御役所江差出、則石丸三平様御聞置被下候、乍恐口上書

一、此度往還筋道造為御見分、江戸表^ノ御役人中様被成御越、宿内往還筋御見分之上、清水町辺^ノ髭茶屋町迄之場所道造御普請御目論見御座候由、勿論右町々并宿役人^ノも御普請被仰付度奉願候趣承知仕候、私共迎茂津内住居之者共二御座候得者、御仁恵之段難有奉存候、右二付土砂取場所之儀者嶋之関浜先^ノ御取寄之積り之由二て、御役人中様場所御見分被成御越、私共義茂其節罷出候儀二御座候、然ル処、右嶋之関之儀者不用堀埋立空地并湖中築地之場所二而、惣坪数七百五拾五坪三合、私共仲間へ引請、右之内四百五拾五坪三合八建家并荷物揚場二仕、残三百坪者御役船場御除地二仕度、安永式巳年奉願御聞濟被成下候儀御座候、勿論右三百坪之場所波打際二て、湖水高低二寄り坪数時々増減御座候儀二付、吾妻川浚之節者出砂を以右場所江引均し候儀も御座候へ共、近来吾妻川浚之出砂者最寄町々街道繕等二引取、右浜先二持越不申儀二御座候処、此度堀取被仰付候而

者船勝手患敷罷成、難渋奉存候、尤吾妻川筋之内右浜先二而私共仲間請之場所川中通り之土砂堀取被仰付候儀者差支無御座候へ共、浜先之儀者前書申上候訳二御座候へ者、土砂堀取被仰付候様罷成候而者難渋奉存候付、乍恐此段奉申上置候、以上、

文化元年子四月

百艘仲間年寄
与治兵衛

治郎左衛門

太郎兵衛

大津御役所

右書付四月二日上ル、

「霜月廿八日、御召二付年寄治郎左衛門罷出候処、川掛り町々惣代三人共御用場へ被召出、石丸三五右衛門様被仰渡候二ハ、此節往還筋道造り御取掛り二付、吾妻川筋土砂追々取二可参候間、差支無之様相心得可申、尤百艘^ノ先達而書付ヲ以申立候趣ハ聞届ケ候得共、川中之土砂取候義者不苦旨二候得共、其段相心得候様被仰渡、難有旨御請申上候事、」

勢田橋御普請出来、昨十四日^ノ渡船相止メ候処、当三月中櫓打錢相触候後之入用并跡諸払、其外掛屋取替錢等此度皆濟勘定致候付、櫓壹挺二錢三百文ツ、当月廿五日限取集度旨、八ヶ浦申出、申立候通無相違相聞候間、右日限通り無遲滯浦銀持参、大津川口町和邇屋角兵衛方江相渡、受取書御役所江持参可致候、尤前書三月中櫓打触出後船數櫓數増減有之浦々并貸船屋共其訳書付可差出候、勿論右錢過不足等之儀者清勘定之上可申達候間、可得其意候、且右出錢及遲滯候而者払方差支、夫丈八ヶ浦夫丈逗留失費も相掛り候間、呉々日

限延引致間敷候、此廻状昼夜刻付ヲ以早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

子四月十五日 御役所

下笠、下物、山賀、森河原、杉江、赤野井、矢鳶、木濱、幸津川、吉川、須原、野田、長命寺門前、八まん、船木、常樂寺、豊浦、

右浦々

庄屋

船年寄

未刻下り申刻下笠船忠兵衛へ相渡ス、

一、御文書前之通略之、

大津

子四月十五日 御役所

本堅田、同所貸船屋、西ノ切、釣獵師、今堅田貸船屋、わに南濱、同北浜、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、北小松、大溝、永田、舟木南濱、同横江濱、同北濱、藁藁、深溝、深溝貸船屋、針江、木津、今津、領家、知内、貫川、西濱、海津、菅浦大浦月出、両組、塩津、片山、東尾上、同所貸船屋、延勝寺、安養寺、早崎、八木濱、南濱、

右浦々

庄屋

船年寄

未刻下り幸便無之付、御窮申上仕立飛脚ヲ以差遣し候也、申下刻出立、和助尤賃錢五百文申遣候、

四月十五日

御老中青山下野守様

右者御所司代御引渡与して御登り二付、松本村石場迄御出迎ニ罷出候事、

太郎兵衛、六兵衛相勤申候、供与八

四月十五日

一、内堀繁太様を勢田詰八ヶ浦船年寄中江御書付老通、せた舟宗八へ渡ス、

一、四月十四日、西町御奉行曲渕甲斐守様、勢田橋出来御見分として御

下向二付石場迄、御登り之節出迎、与次兵衛 孫右衛門御下りノ節八丁立聞迄

三郎兵衛、六兵衛

一、四月十七日

御所司代稲葉丹後守様

右御登り二付、為御出迎松本村石場まで罷出候処、惣年寄矢嶋氏先達而之通引付披露被致候、則御取次へ手札差出候事、尤翌十八日朝御見送りハ相勤不申候、

太郎兵衛、孫右衛門相勤候事、供雇和助

一、四月廿日、從御役所御廻文参ル、則右ニ留置、

申渡義有之間、明廿一日八つ時船年寄壹人つゝ可罷出候、此廻状早々順達、留り所可相返候、以上、

大津

〔割印影等〕 四月廿日

御役所 〔印影等〕 □

大津

松本

石山

右浦々船年寄

右御廻状未之刻松本浦江遣入、四廻り嘉兵衛、

一、廿一日八つ時、船方御役所罷出候処、百艘与次兵衛、松本浦七右衛門、石山年寄、内堀様被仰候者、此度膳所へ申来り候、城先棒杭之内百間通人乗せ候舟通行不致候処、近来猥二相成、折二触人乗候舟棒杭内通船致候及見候間、向後右牀之義有之候へハ、右船止置、及穿鑿二候旨申越候、兼而此段船方之者江申聞置候様申越及掛合二候、百艘之舟者是迄此方共も見聞致候二、決而棒杭内ハ通行不致候事二候へ共、外式ケ浦之義も右之段相心得、於膳所彼是故障無之様加子共江精々申聞置候様可致候、尤風波強節無抛通行致候義ハ格別、平日ハ随分棒杭外通り可申候様被仰渡、則右之趣三ヶ所とも請書御取被成候、依之即様上組、下組、四廻り并加子共江此段申渡し、印形取置之候、但小船加子印形帳二有之候事、右之義ハ此度石山大黒天開帳二付、参詣之者船中二而かさつ二さわき候義も有之候二付、右之段申来り候由、松本、石山も被申之候、尤せた并川下之村々江も右之段膳所へ申参り候段、承り申候、百艘、松本、石山ハ領分外之事二候へハ、当御役所へ申来り候、右之通り風波強節ハ格別、平日ハ右之段相心得可申事、しかし此義も人舟二限り候事二而、荷舟ハ先年も断二およひ通行いたし候義も有之候へハ、此段相考可申、勿論膳所領分之船ハ、平日とも荷、木、八木つミ候艀棒杭内通行いたし候事候へ共、右領分之事二候へハ、当御役所二此義ハ御構ひ無之候、万一右故障出来此方共ノ船被止候義も有之候ハ、当御役所へ相届

可申段被仰渡候、

一、四月廿五日、山田浦を二年物位之鯉式本至来、直二貝屋半六方江預ケ置候、

四月廿五日頃芦浦西川五郎兵衛殿御老母御死去有之、廿六日葬式有之候趣承候故、為香典とこんふ一包、但し代三百文、左之通書状付ケ遣入、

一筆啓上仕候、然者御老母様御儀、御遠去被遊候由承知仕、奉驚入候、嘸御愁傷之段恐察仕候、随而龜抹之品二御座候得共、昆布一包誠二書中二御悔申上候驗迄二捧之候、右御悔奉申上度、如斯御座候、恐々謹言、

四月廿七日

百艘舟年寄

西川五郎兵衛様

大津

一、書付 御役所

江州野洲郡須原浦

右者五月一日御渡し被成候、木ノ濱仁兵衛へ遣入、

端午御礼

石原庄三郎様

青銅百疋、木札付

元々

福永久二右衛門様

々

芝山泰蔵様

町懸り元々

石丸三五右衛門様

々

七里左六郎様

勝手方

山田仲助様

船手

内堀繁太様

右六軒へ青銅五拾疋つゝ、

右之外、御門内御手代衆、組屋敷不残、北手氏へ手札二而相勤候事、

与次兵衛、三郎兵衛、供新八

表 大津

配符 御役所 本片田始

追而本文諸入用銀、櫓壹挺二付錢三百文つゝ、当四月十五日触出取立候処、勘定之上櫓壹挺二付錢三拾貳文つゝ取立過二相成候間、其節之櫓高二而割戻、大津船頭町堅田屋庄兵衛方へ差歸之旨、八ヶ浦之もの申立候間、勝手次第庄兵衛方へ罷越、右錢受取可申候、以上、勢田川渡船諸入用勘定帳、八ヶ浦へ差出候間、出津之序御役所へ罷出請払勘定可見届候、此配符早々相廻し、留り所へ可相返候、以上、

大津

五月七日 御役所印

本片田始 南濱迄

右浦々

庄屋

舟年寄

即刻当山積ノ舟片田ノ源助遣入、

覚

一、子四月十五日触出 切手壹枚 幸津川

一、亥十一月九日触出 切手壹枚 須原

一、子四月十五日触出 切手壹枚 常楽寺

一、子正月廿一日触出

同三月十二日 切手壹枚 豊浦

右之分櫓打錢請取、切手不差出、改押し切無之間、序之節無間違右切手差出押切可請事、

子五月

同東浦へ壹通、

御文言右同断

下笠始 豊浦迄

右浦々

庄屋

船年寄

右八日夕方下笠清左衛門二遣入、

覚

一、亥十一月九日 触出切手壹枚

本片田

貸船屋

五兵衛

亥十一月九日

一、子正月廿一日 触出 切手貳枚

わに

同三月十二日

北濱

同四月十五日

一、子正月廿一日

同三月十二日 触出 切手貳枚 北小松

一、子正月廿一日

同三月十二日 触出 切手貳枚 大浦

一、亥十一月九日

子正月廿一日 触出 切手貳枚 月出両組

一、子三月十二日

同四月十五日 触出 切手貳枚 早崎

右之分櫓打銭請取切手不差出、改押切無之間、序之節無間違右切手
差出押切可請事、

子五月

八日夕方下笠清右衛門へ渡ス、

一、五月朔日、御老中青山下野守様御下り、当駅御泊り、御出迎

孫右衛門、勘三郎、供新八、八丁大津屋迄出ル、

一、同七日、片田あみ方ろ小鯉五本、小鮒壹枚至来、

一、同十三日、西中刻從御役所松本行之御差紙参ル、明十四日五つ時、
下地舟年寄茂兵衛、当時舟年寄式人罷出候様申参ル、即刻四廻り平
兵衛二松本はり長江為持遣ス、受取参ル、

五月十七日

一、笋拾本

右者例年之通り寺門ヨリ至来候二付、則即刻当役中へ配り申候、使
嘉兵衛、

一、五月十七日、御役所ろ御茶壺御下向御配符式通、左之村方へ差遣し
候様被仰渡候二付、則別飛脚仕立為持遣し候事、

今濱村へ壹通 賃銭三百五拾文 先取

小田村へ壹通 賃銭四百文 先取

右之通添状二飛脚賃書込、翌十八日朝出立、飛脚和助遣ス、

五月十八日

京都

西御町奉行

曲渕和泉守様

大坂

御目附式頭

中井藤三郎様

右瀬田橋出来御見分として御下り被遊候二付、

八町迄御出迎、太郎兵衛、六兵衛、供平兵衛

御通り石場迄見送り、孫右衛門、三郎兵衛、供与八

五月十七日、夜九つ時矢橋出火二付、八軒計類火有之候、依之翌十
八日四廻り嘉兵衛を以見舞二遣ス、

芝田清蔵殿 舟年寄勘三郎 金勝屋彦蔵

宿彦助 長七 中村茂兵衛

塩屋治郎介 利兵衛 柏屋次郎兵衛

右之外船方八年寄衆ろ可然伝言有之候様申遣候事、
但出火場所ハ矢橋ろせたへぬけ候ずしノ裏屋

一、五月廿一日、貴布祢御神酒北之町組市兵衛当春ろ手伝二被出居候

処、当五月より已来見習として四組年寄盃相済申候、依之右為祝儀と酒貳升、鯉貳本、外二養子為顔見として金百疋、右之通り二為被差出、金八仲間へ入、酒さかなハ即座二銘々相祝候事、

一、六月十三日、七つ時御役所へ呼二参り候処、孫右衛門罷出候処、柴山泰蔵様被仰候者、京極宰相様御籠城之節之書物差上候様被仰渡候二付、則右写左之通、翌十四日持参仕候、

濃州関ヶ原御陣之砌、大津百艘舟加子共御籠城之節相詰、御書面之通船三拾艘差出、依之京極宰相様御意として、左御感状被下之候、

以上

今度宰相殿加州表へ御引取被成候刻、船三拾艘相詰御用二立申、并御籠城之砌も加子共相詰候儀、一段御満足被成候、尤其地二御座候者、一廉御扶持可被成と思召候得共、御国替之儀二候条、無其儀候、然者是式二候へ共、銀子三枚被下候、加子共へ御酒一ツ宛給させ候へとの御意二候之条、如此候、恐々謹言、

十月八日

内藤八右衛門判

弓削斎 同

嶋忠右衛門 同

村山彦兵衛 同

大津百艘

船方中

御役所へ御配符之写

例年之通湖上船増減入念相改帳面記、来月朔日より十日迄二持参可致候、遅滞有之間敷候、此配符致請印早々順達、留り所へ可相返候、以上、

大津

子六月十五日 御役所

同御文言同断

大津浦始長沢迄

但し坂本へ十六日朝新兵衛へ遣入、

松本浦始伊庭迄

小船入迄三郎兵衛殿持参

右浦々

庄屋

船年寄

口上

一、貸船増減相改帳面二相記、来月朔日より十日迄二上納可被致候、此廻状早々順達、留り所へ百艘会所へ御返し可被成候、以上、

子六月十五日

百艘印

仁左衛門、仁右衛門、庄兵衛、源助、清助、太右衛門、源七、

五郎八、善兵衛、源六

一、六月十七日、三井寺より例年之通素麴拾五把^{廿把}到来、

六月十七日、当所暑氣御窺

石原庄三郎様

素麴三拾把

白台
包のし

御町役

芝山泰蔵様

佐久間正蔵様

々

七里左六郎様

赤井平六様

御勝手方

山田仲助様

高橋角左衛門様

舟方

※ 内堀繁太様

多部甚助様

元々

石丸三伍右衛門様

多賀喜曾太様

舟方

此五軒へ拾五わつゝ、

篠田牧太郎様※

此六軒へ式拾把つゝ、

右之外、御門内御手代衆、北出雲平殿へハ手札計にて相勤ル、

与次兵衛、三郎兵衛、供雇和助、廻りと八

(※の箇所に書き入れ)

「当秋の内堀様江戸下り、同かゝり二付、此節折々御登京故、御留主
中篠田様二舟方御かゝりの儀被仰渡候間、此度右御見舞相勤申候
事、」

一、六月十八日、大坂御目附代 小菅猪右衛門様、一色源治郎様、右御
双々方石山筋供御之瀬御順見御越被成候、此節膳所御座船御修覆中
二付、例之通当所江為御馳走御迎二被差越候義、御断之旨二付、去
安永三年十一月之例ヲ以、此度も百艘差出候様、当從御役所被仰渡、
依之御召大屋形大船壹艘但三郎兵衛持吉三郎船、供舟小ふね五艘用意艀壹艘、右
之通差出ス、尤先格ハ小船九艘差出有之候得とも、近来減少致し例
年御双方之節ハ三艘、御一方之節ハ式艘差出候格合を以右之通取計、
尤膳所舟不参候故松本船も不来候、右御召船二差入候、只今ハ御上
御乗船帳二記有之候、十八日朝五つ時半、当所御着〇、勢田御着船
ハ正九つ時二相成候事、

一、当所御乗船之節ハ、諸事先規之通二候へ共、勢田御着船之義者先年

之旧記ニしかと相分り不申、尤橋下二而御乗替之由記有之、当御役
所二も御留書二橋下と記有之段被仰聞候へとも、橋下江下ケ之義ハ
何とも無覚束、勿論膳所と当御役所此節少々振レ合ノ義も有之候由
二而、御上り場所之義前以御尋合有之候へとも、しかといたし候返
事も不被申越、只先規之通と計申来り候由、御大切之御用自然御上
り場二而混雜いたし候而ハ如何二候間、已前ハ御召付添北出雲八様、
百艘年寄老人罷越候へ共、此度者若先方二而懸合之義も可有之哉難
計候間、已来之例ニハ不致、今老人老分之もの中間ハ参候様別段被
仰渡、依之北出雲平殿、中間ハ年寄与次兵衛、孫右衛門、右兩人罷
越候、しかし已来ハ右之通三人二而可然被仰渡候、

一、勢田御着船五六町前より雲平殿与治兵衛兩人用意艀二乗移、御召ハ先江せた江
罷越場所見受候処、橋上二川端二膳所河御座舟着ケ有之、又少し上
之方二布白砂を敷、板二而少掛出し御上り場しつらひ、其前二膳所
役人人鎧、挟箱道員為持下々役老人但加子頭袴羽織ニて代官老人上下着御使番敷、上下
着、右三方待受被居候、此方ハ挨拶致候者、此度其方様方御座舟此
節御普請中二付、大津江御迎舟被差遣候之義御断之趣二付、此方共
ハ御船差出候様懸り役所ハ被申付候、依之頓而是江御着船御座候間、
何事も可然御頼申上候段挨拶いたし候処、先方ハ被申聞候者、仰之
通此方船此節普請中二付、差出之義及御断二候付、何角其許様二も
御世話之段、尚又御着有之候へハ、船ハ船江直二御乗替被成候哉、
又ハ供江御上り被成候哉、左候ハ、橋本二御休足所しつらハセ有之
候間、夫江御越被下度、いつれの覚召候哉と被相尋候間、此方ハ善
兵衛何分御着之上御伺、御下知次第可仕、しかし見請候処此方之御
船者かり高ク、此川御座ハ低候へハ、直二御乗移者如何二被存候、
何分一先供江御上り被下候様二可申上候段、御答申上候処、膳所役

人被申候者、御尤之御事ニ御座候、弥左様相成候ハ、御上り被成次第其許様御舟者直ニ上江御除ケ被下度、其跡江此方舟よせ候而御乗り被下候積りニ仕度、何分宜頼入候段、挨拶有之、無程御着船ニ而右之段御用人迄申上候、其段早束御目付江御伺有之候所、彼是隙入候間、休足ハ致不被遊、直ニ御乗かえ之段被仰聞候、左様御座候ハ、暫供江御上り被遊被下度、船着かえ仕度御願申上候処、御用人ハ直様膳所役人江御挨拶有之、御目付様も供江御上り被成、此方舟ハ引取申候、跡江川御座乗廻され、御機嫌よく御乗替被遊故、私共義ハ御用相済候間引取可申段、御用人江御届申上、首尾能船とも不残帰津いたし候事、

一、せた御着船前ニ御用人ハ此方共江御挨拶有之、此度膳所御座舟御普請中ニ付、石原庄三郎様ハ各方江御頼ニ付、御舟被差出候段御太義ニ御座候、依之御酒ニ而も遣度候へとも、聊ながら差遣候段被仰聞南鐐一片御代として被下置候、達而御断申上候へとも強而被仰下ニ付、難有頂戴いたし候、尤^{与治兵衛}孫右衛門^両人の名前御帳面ニ御記被成候事、一、前段之振合ニ而ハせた御乗替場之義、橋より下もと旧記ニ有之候へ共、書損と被存候、橋本村橋ハ拾四五間計上ニ而御乗替被成候、供ふね之分ハ湖中ニ於ゐて不残舟ハ船江乗移り候、已来迎も右之通相心得可申事、

一、安永年中之御召屋形と当時之大屋形とハ余程ちがひ候間、前日ニ屋形山王神事之通りニ組立、御役所江及御案内ニ、則篠田牧太郎様北出雲平殿下夕見として当会所前江御こし、御一覽之上臨時之御用ニ而何角骨折之段、御挨拶有之候、此節船方御懸り内堀様御事ハ江戸下り御用ニ付、京都江御詰、代役として篠田様御こし被成候、

一、御役所ハ被差入候覚

一、白張^墨小屏風片シ、くじら幕式張、

もえキノしぼり紐 毛せん式枚

八すじ

御刀掛壺 たはこ盆

茶碗十ヲ

茶盆 茶壺山吹 茶こし 炭取火はし

水こほし

手水桶 手ぬくい 加子ノかんはん八つ 中メ

しやく 片二のせ 笠八つ 帯とも 草履壹足

小便所へ入

右之通^{ツマ}○出船之節御用人江御願申上候、

此節湿氣之時節ニ御座候へハ、加子ニも着笠御免被下度申上候処、御伺有之、不苦候間勝手ニ着せ可申段御免有之候、右之外モレ候事ハ御乗船帳ニ記有之候、

六月廿日、京都暑中御覧

西御奉行

一、曲渚和泉守様 金子貳百足 目録台 下ケ札附

御用人

御取次

鈴木順平様 椎名市右衛門様

増田郷八様 佐藤多仲様

星野半右衛門様 矢沢龍右衛門様

御勝手御用人 芝忠五郎様

原田仙助様 佐藤左一郎様

右九軒手札ニ而

東御奉行

一、森川越前守様

金子貳百疋、右同断

御用人

御取次

小柴宗右衛門様

村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

松野小右衛門様

石川与左衛門様

柴田栄蔵様

御勝手御用人

伊藤右内様

村田忠兵衛様

榑原十兵衛様

右九軒手札計

西御公事方

同下

深谷平左衛門様

千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様

浅賀卯兵衛様

本多新左衛門様

上田八蔵様

熊倉恵助様

菊地治左衛門様

入江吉兵衛様

柏原治部右衛門様

右白銀壹両宛

廣瀬左野右衛門様

右手札計

東御公事方

同下

山田劔次郎様

中川奎左衛門様

上田弥右衛門様

末吉新五郎様

木村清右衛門様※

喜多尾八郎右衛門様

本多金右衛門様

森儀左衛門様

右白銀壹両

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

中川定右衛門様

右七軒へ手札計

〔此三軒ハ引籠被成候故差扣申候〕
(貼紙)

上町代

田内与助殿

白銀三匁

若狭屋八兵衛殿

刺鯖貳さし

右之通、孫右衛門、六兵衛相勤申候、供雇和助

一、小體船壹艘、嶋関船屋喜兵衛方日借り二借り請、大六前二繋置候処、六月十三日夜流失致候二付、近浦吟味いたし候得共相見へ不申候二付、廿六日諸浦へ御廻状御願申上候、則左之通、

覚

一、體船壹艘

但シ大津嶋関貸船屋喜兵衛余り船

右之船書面百艘浜先二繋置候処、流失候哉当月十八日方不相見候二付、段々相尋候得共不見当由二而、浦々吟味之儀願出候間、浦限相糺、右船有之候ハ、百艘江及通達可相渡候、此廻状浦名下令請印早々順達、留所方可相返候、以上、

大津

子六月廿九日

御役所御印

松本、馬場、膳所船町、鳥川、石山、平津、千町、南郷、外畑、龍門、淀村、中村、東村、富川、関津、太支、黒津、里村、橋本、神領、大萱新濱、大萱新田、穴村、大江、矢橋、山田、南山田、下笠、駒井庄大萱、志那、吉田、中村、津田江、下寺、下物、山賀、森河原、杉江、赤ノ井、矢嶋、大曲、開発、木濱、今濱、水保、戸田、五條、幸津川、小濱、吉川、堤村、安治、須原、野田、比留田、野村、小田、江頭、田中江、加茂、牧村、大房、長命寺門前、南津田、船木、八幡船木、八幡町、多賀、北ノ庄、浅小井、香ノ庄、豊浦、常楽寺、同體方、伊庭

右浦々庄屋

船年寄

右同御文言老通、西浦

大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、本堅田、同體方、西ノ切、釣漁舟、今堅田、小野、和邇南濱、和邇北濱、五ヶ浦、南比良、北比良、南小松、北小松、打下、大溝、同體方、永田、下小川、今在家、藤江、横江、舟木南濱、同横江濱、同北濱、南古賀、新庄、太田、藁園、深溝、針江、森むら、馬原、木津、今津、新保、領家、北仰、貫川、桂村、深清水、大沼、中庄、北新保、知内、西濱、海津、大浦、菅浦、月出兩組、岩熊、塩津、片山、石川、東尾上、延勝寺、海老江、安養寺、早崎、下八木、八木濱、大濱、南濱、川道、下坂濱、長沢

右浦々庄屋

船年寄

子六月廿九日

一、六月廿七日、嶋之関葭刈取候二付、此段同所新兵衛ゝ相知らせ候二付、早速与次兵衛、太郎兵衛、右場所へ罷越し見受候所、若狭蔵見通し不残并舟入東ノ七手先余程かり取有之、則右場所二平蔵町下組之内品屋新助与申者、右場所へよし取片付致居候二付、右新助相招如何之訳二而右よしかり候哉与察当申聞候所、新助相答候者、是者若州御蔵所ゝ仲仕之者共へ申付かり被捨候義二付、此段右仲衆之内ゝ私へ相知らせ被呉候二付、何ノ無心付よし捨候義二而、全私かり取候義二而者無御座趣申立候二付、其方義者は迄二も舟方之様子も乍存當時者船稼相込メ居候へ者として、右躰之義有之候ハ、早速相しらせ呉候義を無其義、譬かり被捨候へ者而此方へ届もなく

ひろひ候義、甚不行届段候、急度呵置候而、兩人引取、相談之上翌廿八日中飯後、右蔵所御役頭武久重治郎殿方へ太郎兵衛掛合参り候所、折節右蔵所二客来有之候二付、甚取込候段御断二付、罷歸り候所、廿九日朝五つ時頃、右蔵所ゝ多郎兵衛方へ只今被参呉候様案内有之候二付、早速参り御役頭重次郎殿へ得御意申上候者、一昨日御蔵所浦よし御かり取被成候義二付、仲間市右衛門申候者、右よしかり取候義者は迄二も御願申入置、御蔵所石垣際并掛出し仮橋際之舟着之障り二相成候所ハ格別、嶋之関舟入七手際之所ハ御刈被下間敷旨每度申入置候而御承知之義二御座候所、此度者右七手先キ余程かり取被成候義二而、甚以舟かこひ風除之差支二も相成、何共迷惑二存候段、仲間一統申立候、此度かり取被成候義者、今更致方も無之候間、以来者右場所御刈被下間敷様致度候二付、此段御願旁々参上仕候趣申入候所、重次郎殿申被聞候者、成程是迄二も渋川屋六兵衛殿ゝ其段仰被聞、兼而承知致罷あり候所、折節拙者義一昨日用向二付上京致候而罷歸見受候所、余程かり過有之候様二存候へ共、何分留主中故無其心得不行届取計方にて何共氣之毒二そんし候、以来者仰被聞候通り、下役之者共へも得ト申付置候趣、断被申聞候二付、呉々も此段申入置候間、以来為心得之書印置候事、

覚

一、金五百疋 但し当町河村屋喜助殿持参二付、此通相認メ差遣し申候事、

一、銀子壹枚

右者從御本山被下置、慥ニ受取申候、以上、

文化元年子七月五日

百艘年寄印

当津十日講御肝煎中

七夕御礼

石原庄三郎様 青銅百疋、木札付

町役元々

芝山泰蔵様

々

七里左六郎様

御元々

石丸三伍右衛門様

御勝手方

山田仲助様

船方

内堀繁太様

右五軒江島目五拾疋宛

右之外御門内御手代衆、組屋舗不殘、北出氏江ハ名札ばかりにて相勤申候、

治郎左衛門、勘三郎 供和助、但雇

一、右流鱚津田屋彦右衛門与申もの、ひらい置候由、嶋閑喜兵衛方迄申来り候付、何分乘来り呉候様伝言申遣候処、七月八日乘来り候付、右彦右衛門江酒かさな代として四百文并二先達而申越候賃銭貳百文、此度乘来り候賃銭貳百文、都合八百文差遣申候、

右船即日喜兵衛方江差戻し、翌日孫右衛門参、御役所二而しのた牧太郎様へ御届申上候、

右為挨拶と春風と申名酒三升、孫右衛門持参被致候事、

享保十六亥四月廿二日

比宮様 御下向

一、廿日昼八つ時、仲右衛門様を矢橋、山田へ之御廻状を通此方へ御渡被遊、尤今度御通り二付、此方并松本へハ御口上二而被仰渡候、依之下舟之者へ急度申聞、廿二日二八人疋人ものせ上ケ不致申候、

右御当日大津御休二付、若舟御用之程難計奉存、小船拾艘嶋之関へ相廻し手当仕置、勿論船年寄、加子共相詰居申候得共、一切御乗船等無之、陸地御通り石山へ御参詣被為遊候由、

同八月十九日、鈴木小右衛門様御登り被遊候二付、矢橋迄御迎ひ舟式艘差出、御乗船被遊候段、留有之、此儀右比宮様御下向御用二付、鈴木様御参府被遊候義二而可有御座と奉存候御事、

其後寛延二巳三月 五十宮様御下向為御用、御先代様并内蔵助様御参符被遊、同六月廿二日御上津被遊候節も、前同様御迎ひ舟矢橋迄差出、御両所様共御乗舟被遊候御事、

七月廿三日

右御尋二付、書付孫右衛門持参差上申候事、

八月二日、吾妻川浚見元々石丸三平殿、同心高田源左衛門殿、町

三五右衛門 手塚傳十郎殿

代堀猪三郎、宿場年寄井筒屋九兵衛、町方百艘立会場二而壹尺五寸堀下ハ此節高水二而格別浚二不及、上ミニ準シ見計候様被仰渡候、年寄与治兵衛承ル、

八朔京都御礼

西御奉行

一、曲渚和泉守様

金子三百疋 目録台 下ケ札二付

御用人

増田郷八様

御取次

椎名市右衛門様

星野半右衛門様

佐藤多仲様

原田仙専助様

矢沢龍右衛門様

鈴木順平様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

ノ九軒へ銀壹両つゝ

東御奉行

森川越前守様

金子三百疋

目録台

下ケ札付

御用人

小柴宗右衛門様

田村直右衛門様

鈴木又兵衛様

柴田栄蔵様

石川与左衛門様

松野小右衛門様

御勝手

村田忠兵衛様

伊藤右内様

右九軒へ銀壹両つゝ

西御公事方

深谷平左衛門様

千賀与三右衛門様

不破伊左衛門様

浅賀卯兵衛様

入江吉兵衛様

上田八蔵様

本多新左衛門様

菊地治左衛門様

熊倉恵助様

廣瀬佐野右衛門様

右五軒へ金子百疋つゝ

柏原治部右衛門様

酒井宗助様

右七軒へ銀壹両つゝ

東御公事方

上田弥右衛門様

寺田官左衛門様

木村清右衛門様

末吉新五郎様

本多金右衛門様

喜多尾八郎右衛門様

山田劔治郎様

森儀左衛門様

右四軒へ金百疋つゝ

中川李左衛門様

櫛橋平蔵様

平尾安左衛門様

森善右衛門様

右八軒へ銀壹両つゝ

上町代

田内与助殿

銀貳両

奥田九右衛門殿 銀壹両

下町代

藤沢傳六殿

貳百文

東西御門番へ 三百文つゝ

藤村佐一殿

貳百文

上町代中へ

五百文

東西中番中へ 三百文つゝ

下町代中へ

五百文

宿鍵屋佐助へ

三百文

宿鍵屋佐助下女中へ 貳百文

追分丸屋四郎兵衛へ百文

山科大津屋孫兵衛へ 百文

ノ金三両三步

銀壹両三十四包

銀貳両壹包

錢五百文貳つ

錢三百文六つ

錢貳百文三つ

錢百文二つ

右之通治郎左衛門、孫右衛門、供新八、荷持やとひ、和助

楽姫様御下向二付、

御代官石原庄三郎様御賄御用被仰蒙、神泉苑町御旅宿へ御登り被遊并御手代元ノ柴山泰蔵様、船方内堀繁多様御掛り御供二而御詰被成候二付、乍序八朔御礼御窺旁治郎左衛門、孫右衛門伺公致候事、

但し殿様ニハ^{来ル}八月五日^ル京都御詰切ニ候へ共、御手代衆方ハ七月廿七日比^ル御詰切被成御座候事、

八朔当所御礼

石原庄三郎様

金子貳百足
目録台、下ケ札付

芝山泰藏様

石丸三伍右衛門様

七里佐六郎様

山田仲助様

舟方

内堀繁多様

右五軒へ金百足つゝ、

小頭

佐久間正藏様

々

赤井平六様

目附

高橋角左衛門様

々

多胡甚助様

々

多賀喜曾多様

右拾軒へ銀壹両つゝ、

吉本弥四郎殿

山本兵五郎殿

右式軒へ鳥目貳拾疋つゝ、

御門吟助殿へ五百文
御袋へ貳百文

御足輕半七殿

小遣梅八殿

藤七殿

右三人へ鳥目貳百文つゝ、

メ金壹両三步

銀壹両拾ヲ

白崎久太夫様

組屋敷不残

平藏町年寄

右ハ手札計ニ而相勤申候、

太郎兵衛、三郎兵衛、供平兵衛

近日石原庄三郎様御賄御用ニ付、江戸御下りニ付、八月四日四つ時

御見見江被仰付候ニ付、先例之通金貳百足差上候事、

右御目見江ニ罷出候分、左之通、

惣年寄 小野又三郎^{宗九郎}、町代 堀猪三郎、宿場^{猪三郎} 年寄^{井つゝ屋九兵衛、}
矢嶋藤五郎^{宗九郎}、遠藤重五郎、

七組惣代七人、百艘^{与次兵衛、}米会所^{頭取木屋久兵衛組、}
荷問屋惣代^{西川屋弥藏、}御門前惣代兩人、

下ノ本陣大塚^{大坂屋}嘉右衛門、上ノ本陣肥前屋^{弥四郎}九左衛門、

宿場肝煎^{吉本弥四郎、}是ハ町代ノ次也、

右之通、但米会所ハ是迄出不申候へとも、此度御目見江被仰付候義

及承、俄二願二被罷出候御聞濟有之候義二御座候、上ケ物ハ扇子箱也、

下ノ本陣も此度始而被出候事、

一、七月廿五日、下寺村新蔵外壱人乗組、村内之米三拾五俵、其外青物

等中艀船二積入、朝五つ時村方出船仕罷登り候処、山田方大津迄之間にて落風逢、兩人共無如在相働キ候へ共、即時二船横二こけ、積入候品漸米壹表、青物少し計残り、其余者湖中へ打あかり、最早可致様無之、兩人共船上側二取付十方暮居候処、折能当浦下組甚兵衛義、常楽寺方戻り船二源六ト兩人乗組通り懸り見受、早速帆下ケ船ヲ寄せ助ケ乗せ介抱いたし、則甚兵衛宅へ乗せ歸り候二付、即刻小船入方加子大勢、其時大船居合、船頭并押手之者共追々助ふね差出し、船も無別条、小船入へつれ歸り候趣承之、早速小船入会所へ与次兵衛太郎兵衛兩人参り様子相たづね候処、右新蔵義ハ当所若狭屋六兵衛揚り之米故、右六兵衛方へ送り状持参にて届ケ参候趣、外唄人ハ金左衛門と申老人にて、当所へ養生ニ罷登り候仁二而、余程つかれ候牀二而、甚兵衛方ニ暫相休居候二付、右新蔵若六方へ呼二遣し候所程なく罷歸り、様子相尋候処、右難舟之趣申立、則米之義ハ当所若六殿揚二御座候二付、只今同人殿方へ此段届参り候趣申之候、依之其村方宿ハ当所何れ二而候哉与相たづね候所、則柳町越後屋平兵衛方ニ御座候趣申之候二付、左候へ者右宿方右難船之趣急々村方へ申遣し候様申聞候内、右宿越平挨拶ニ被参候二付、右之段申聞、村方役人中へ早速上津被致候様、飛脚ヲ以可被申遣候趣申聞置引取、夫方西会所にて得ト相談仕候処、是迄右牀之義御役所へ御届ケ申上候例無之候へ共、此度之義者目先之事故御役所へ太郎兵衛口上二而御届ケニ参り候処、折節船方御懸り御出役被成、其外役人中ハ中飯引二而御出勤無之候二付、後刻罷出候様御役所小使衆被申引取候へ共、差懸り之義二付、直様北出氏へ参り、右難舟之趣申聞、只今御役所へ参り候処、此節船方御懸り様ニも御出役被成、外御役方様ニも中飯後御出勤無之候二付、後刻罷出候様被仰聞候へ共、差懸り之義ニ付貴公様へ参り候也、是迄右牀之義御届ケ申上候例者無御座候へ共、

此度之義ハ御目先之事故難捨置候二付、此段口上二て私共方ハ御届ケ申上候、当村方へも飛脚ヲ以申遣候間、村役人上津次第御届ケニ罷出候趣申之、宜敷御取計可被下様申入候所、尚出勤仕申上候様被申聞候二付、罷歸申候、翌廿六日朝五つ時過、村役人之内庄屋喜兵衛代り同人忤喜助、船年寄善五郎代り庄兵衛、其外親類下物村利右衛門、右三人罷登り会所へ被参候二付、則年寄次郎左衛門、太郎兵衛兩人立会得御意熟談仕候所、艀ふね二而荷物運送之義ハ御停止ニ御座候、然ル所此度米三十五俵積登り候段、甚以不埒成取計方、此義露顯仕候段甚御察当請候而者一言之申訳も無之義二付、米主ハ何れ二候哉与相尋候処、則庄屋喜兵衛と其外同人親類喜左衛門与申仁と、兩人之米之趣二付、喜助被申候者右米之儀二付、私方ハ勿論喜左衛門ニおいてもいケ牀相成候而も聊申分無之候間、宜敷様差図致し取計呉候様被相頼候所、左様有之候へハ、米之義ハ随分無数御届ケ申上候様可然候間、此段得ト相考候而先北出氏方へ御届ケ可被参様差図致し遣候処、兩人被参候処北出氏被申候者、以書付御届申上候様被申之候二付、兩人不案内之義二付、此段北出氏へ被相頼候所則下書相認メ右之通其方ニて相認メ持参可致様被申聞候二付、右届ケ書相認メ会所へ持参被致候二付披見致候処、少々書損有之候二付、下書見せられ候二付、此方ニて左之通認メ直し遣候事、

乍恐御届奉申上候

一、当月廿五日朝五つ時方栗太郡下寺村百性六左衛門、船主新蔵兩人木濱浜村船屋太兵衛方方当分借り小艀舟二而、自分之畑物外二米式俵積入、大津浦へ向ケ出船仕候所、同日四つ時大津浦先拾五丁計沖二而暴風二出合、高波打込船乗沈難船仕候故其儘舟ばり二取付声ヲ上叫候所、折節大津浦へ歸り申候船御座候而、早速難舟之場所へ漕付呉られ、又々追々当浦より介船出し呉られ候て、右兩人共介命仕候、

尤積入候畑物、米流失仕候へ共、賃積之品ニ而も無御座候、尤米之儀ハ米主喜左衛門へ対談仕候處、流失仕候而も申分無御座趣申之候、右難船之様子当浦百艘方々早速知せ呉られ、奉驚入候二付、右之段御届奉申上候、何卒御憐愍之上御聞濟被成下候ハ、難有奉存候、以上、

文化元甲子年

下寺村新藏印

七月廿六日

同村船年寄善五郎代

庄兵衛印

同村庄屋喜兵衛代

忞喜助印

大津

御役所

右書付持参候而村方々御届ケニ罷出候所、此節船御懸り役も御出役被成御留主中、御役所ニも殊ニ此節京都御用別而御取込故彼是及暮方候二付、明日罷出候様被仰聞候二付、引取被申候處、同夜五つ時過二村方呼ニ参り、村役人罷出候處、則船御懸り内堀様御歸り被成候二付、被仰聞候ハ、右届ケ書ニ米主ニも申分無之趣書入、尚又百艘年寄ニも付添罷出候様被仰聞候二付、此段申参り候二付、則年寄太郎兵衛付添村役人召連、右届ケ書ニ書入致し持参仕罷出候處、内堀様、北出氏御立会之上被仰聞候ハ、右書付之趣相違無之候哉ト村役人へ御尋被成候二付、相違無之段御答被申上候二付、内堀様被仰聞候ハ、米之義者書付ニ者式儀と有之候か、余程有之趣風聞致し有之趣被仰聞候二付、村役人々御答申候者、書付之趣忞相違無之段申上候二付、百艘方も右二付助船等差出し世話致し遣し候趣ニ有之候間、右村方々申通り相違無之哉ト相尋被成候二付、多（太）郎兵衛御答申上候ハ、右村方々申上候趣少も相違無之段御答申上候二付、右届之趣御聞濟被成相済申候二付、何れも引取申候ハ夜四つ時過相

成候事、右二付仲間方左之通一札取之事、

口上代

一、当村新藏外忞人乗組村内之米式儀、其外青物等中艀ふね二積入、今廿五日朝五つ時村方出船仕罷登候處、山田方大津迄之間ニ而落風ニ逢、兩人共無如才相働き候得共、即時二船横ニこけ、積入候品漸米忞儀、青物少し計残り、其余者湖中へ打あかり、最早可致様無之、兩人共船之上側ニ取付十方ニ暮居候處、折能当浦御下方小船持甚兵衛殿義、常樂寺方戻り船ニ源六と申仁兩人乗組通り懸り見請被申、早速帆下ケ船ヲ寄せ助ケ乗せ致介抱、則甚兵衛殿宅へ乗せ歸り被呉、災之中ニ得仕合申候、右二付即刻御当浦方加子衆大勢被仰付、追々助ケ舟御差出し被下、舟茂無別条御当浜へ着仕、忞仕合御座候、尤艀忞挺、橋板忞枚相見へ不申候得共、全何方へ就^か流行、勿論米ハ沈ミ青物ハ流失仕候義ニて、御手伝被下候加子衆ニ聊鳥乱成義無御座候、此外船并二舟賃等不殘御渡、慥ニ受取申候、依之御札旁書付差入置候上ハ、後日子細申もの御座候ハ、我々共罷出其明可仕候以上、

文化元甲子年

下寺村

新藏印

七月

同村舟年寄

庄兵衛印

同村庄屋喜兵衛代

忞喜助印

百艘船年寄中

右一札廿七日受取申候、右為挨拶左之通、持参被致候事、尤一札之本書ハ難舟一件箱二入置、御酒料

一、南鐐沓片、仲間江

先触

石原庄三郎手代

牧野九郎兵衛

福永五作

一、両掛 式荷

此人足式人

右者我等共儀横関、野洲川々為見廻、明日朝五つ時大津出立、村々江罷越候条、書面之人足無遅滞可被差出候、此先触早々可被継送、我等宿之上可被相返候、以上、

割印 子八月九日

石原庄三郎手代

福永五作印

牧野九郎兵衛印

大津百艘、矢橋、草津、守山、野洲村、横関村

右宿村々

問屋

年寄中

追而横関村之儀ハ明日守山宿へ着之上、様子ニ寄可罷越候間、可被得其意候、以上、

右先触未ノ上刻ニ至来ニ付、即刻矢橋浦へ遣入、

樂姫様御下向御賄御用掛り

石原庄三郎様御手代御組御出府之分江、為餞別八月十一日年寄治郎左衛門相勤被申候、則御名前左之通、

御元々

柴山泰蔵様

金百足

舟方御手代

内堀繁太様

右同断

平御手代

三好仁十郎様

南鐐沓片

御書役

舟橋誓蔵様

右同断

御組同心

川嶋文左衛門様

銀沓両

同

佐久間官吉様

同断

同

手塚熊太様

同断

但し 七軒

殿様并柴山様、内堀様江者追而御留主窺被相勤可申筈、外様へハ不

及其儀ニ、此度切之積リニ候事、

八月十四日、夕方石原庄三郎様御手代篠田牧太郎様より呼ニ参、年寄太郎兵衛罷出候处、矢橋、八幡、能登川へ御城米舟賃御尋ニ付、差上候端書之写、左之通、

湖上矢橋浦、八幡浦、能登川浦、右三浦へ大津迄之御城米舟賃御尋

ニ付、左ニ奉申上候、

一、矢橋浦へ大津迄

※

御城米百石ニ付

此舟賃三斗六升

一、八幡浦

能登川へ大津迄

御城米百石二付

此船賃壹石八升

右者私共所持留書之写、如此二御座候得共、矢橋、八浦^幡式ヶ浦共廻舟浦二而無之故、私共積受之義も無御座、其浦限之船二而積登り候へハ、一応相尋候上相違之儀御座候ハ、追而可奉申上候、尤能登川之儀ハ廻舟浦二御座候得共、御城米年久敷出不申候二付、是又掛合候上申上度奉存候、以上、

閏八月十五日

百艘年寄

太郎兵衛

但無印

篠田牧太郎様

(※箇所に貼紙)

「如此書付上置候後、矢橋、八まん、のと川江かけ合相調候処、矢橋ハ御定三斗六升二而、外二増米三斗六升有之、都合七斗式升請取来候旨、舟年寄利兵衛返答被申参候、

能登川之儀ハ八幡表^ろ被掛合候処、御定ハ六斗二而、外二増米四斗八升出、都合壹石八升二候段、のと川問屋中^ろ八幡年寄仁左衛門方^へ書付ヲ以返答有之、右之書付八幡^ろ被差越候二付、増舟賃一件袋之中^へ入置候、尤八幡浦も能登川と同舟賃二而、高壹石八升二候旨、書状二而被申越候二付、八月晦日篠田様^へ其段次郎左衛門申上置候事、」

右之通半切紙二相認、太郎兵衛持参仕差上、猶かけ合候上追而可申上段申上置候二付、矢橋、八幡^へ遣候書状之留、左之通、

一筆致啓上候、秋冷之砌御堅勝可被成御座、珍重奉存候、然ハ能登川并八幡^ろ之御城米舟賃、此度御役所^ろ御尋二御座候、此義当浦旧記二書留も御座候^へ共、自然相違之義有之候而ハ如何之ニ候間、

當時之御振合承度候、且又能登川江ハ絶而年久敷出不申、勿論宝永年中百姓方出前之義彼是も有之候浦方二候間、乍御苦勞能登川^へ御かけ合被下度候、尤右舟賃之内御公儀^ろ何程出、百姓方^ろ何程出候と申義の有無も得と御調被下、近々御上津之御序も御座候ハ、御為聞可被下候、若又無其儀候ハ、得と相訳り候様、書面御認被成、急々御返事可被下候、右御頼申入度、書余期貴面候、不具、

八月十五日

百艘舟年寄

八幡浦舟年寄中様

追而永田浦^へ掛合之儀ハ、三ヶ浦惣代として堅田庄兵衛殿被参呉候様相頼置候二付、猶各々方^へも其段堅田^ろ通達有之候様申談置候、且又針江浦^へも上津被致候様書状遣置候得ハ、登り被申候ハ、引合可申、併一応二而ハ埒明候事も有之間敷候^へハ、余ハ付替之砌取きめ候積二御座候、万事ハ貴面二可申述候、以上、

(横書)

「市松ふね舟頭八右衛門義、八まん行積下り候幸便二差下し、尤右八右衛門^へ委細之訳伝言申遣置、」

一翰致啓上候、秋冷之砌御堅勝被成御座奉賀候、然ハ貴浦^ろ御城米舟賃何程二候哉と、此度御役所^ろ御尋有之、当浦旧記二書留も御座候^へ共、自然相違有之候而ハ如何ニ存候間、其御浦方當時之御振合承度候間、近日御上津之儀候ハ、与次兵衛、太郎兵衛両家之内^へ御立寄被下度、若又無其儀候ハ、相訳り候様書面二て急々御返事可被下候、右御尋申入度、早々如此御座候、以上、

八月十五日

百艘舟年寄

矢橋浦

舟年寄中様

右書状ハ渡舟二遣候積二而、廻り平兵衛^へ渡置、

七月廿八日、大濱御印場先二溺死人有之、右大濱辻子二脱捨物有之候二付、川口町、当仲間連印二而御届申上候処、双方へ取片付ケ被仰付候、留書別帳二委細記有之故略之、

矢橋浦方返状

先刻者御書翰被下致拜見候、如来意秋冷相催候処、弥御壯健二被成御座、奉恭賀候、然者此度当浦御城米運賃御尋之旨被仰聞、奉承知候、就夫上津仕候様被仰聞、当明後十八日上津仕、得貴意御相談可申上候、右御報申上度、早々如斯御座候、以上、

矢橋浦

八月十五日

船年寄

百艘

御年寄中様

御報

右再状之留

以手紙得貴意候、弥御堅勝二可被成御座、奉珍重存候、然者一昨日者預御書面、後刻御報申上候、定而御落手可被下与奉存候、且又今日者上津仕御面談可申上候処、無拠就役用得参意不仕候故、以書中申上候、

一、御城米運賃之儀

当浦方大津迄

壹石二付米七合式勺

一、御蔵米

壹俵二付米三合宛

右之通二而御座候、左様御承知可被下候、若又御尋二付御面談申上候儀も御座候ハ、今一応御申越可被下候、尚又近々致上津之立寄

可得御意候、右御断旁々如此二御座候、以上、

矢橋浦

八月十八日

船年寄

百艘

御年寄中様

右書状少々難分り儀有之候故、又々以書中尋二遣ス、左之通、

兩度之御報状早速相達拜見仕候処、御城米運賃壹石二付七合式勺と被仰聞候、正徳元寅年湖上浦々へ被仰付候趣二而ハ、矢橋方大津迄壹石二付三合六勺二御座候、若壹石与壹俵との思相違ひ二而ハ無之哉、近來其御浦方御城米運送ハ無之様存候へ共、併是迄御運送被成七合式勺無滞御受取被成義二御座候哉、且又御公儀御定ハ三合六勺二而、外二三合六勺ハ百姓方方出、都合七合式勺と申様成義二而ハ無御座候哉、今一応御調被成、不日可被仰聞候、其上二而申上候様仕度奉存候、右御尋申入度、如此御座候、以上、

大津百艘

八月十九日

舟年寄

矢橋浦

舟年寄中様

右孫衛門東へ持参被致之、

一札

一、私兄七兵衛儀、其御組内二而年久敷小船持渡世仕罷有候処、先達而相果、当時相続仕候者無御座、尤御組懸り之借銀合四拾六貫八百四拾文有之候二付、何卒右七兵衛名前并右借銀等御組中へ御引請被下、追而相続人相究候節者御勘定相立候て、何時二而も其御組内二而前七兵衛同様二小船持渡世相続出来候様仕度旨ヲ以段々御願申上

候処、其段御承知被下、且又御引請中御勘定之儀ハ毎年正月私立合見請之上、若不審之儀候ハ、無遠慮可相尋、其上二も分りかたく儀も候ハ、何方へも申立候様与被仰下、千万忝奉存候、然ル上者、此儀二付外方違乱申者毛頭無御座候、万一故障之者候ハ、我々罷出急度埒明可申候、為後日之一札仍而如件、

下組之内七兵衛実弟

文化元年

子八月

京五条大黒町

大和屋彦兵衛印

右七兵衛妻親

平蔵町上ノ町

竹屋惣兵衛印

下組

小船持御衆中

前書七兵衛跡相続人無之故、弟大和屋彦兵衛へ為引請申度段、下組惣代方先達而各々様迄御尋申上候処、右彦兵衛儀ハ京都住居二候処、是迄当津之外二而船稼為致候例無之、新規之儀故御聞届ケも難被下旨被仰聞、御尤至極奉存候、猶又双方掛ケ合仕、追而相続人相究り候迄ハ組内へ引請二仕、何時二而も相続人出来候節者、故七兵衛同様二小船持渡世為致候筈二而、則親類方前書之通組中へ一札取置申候二付、七兵衛印形此度組内へ預り置、以来共都而之小船遣ひ方は迄之通順番次第二七兵衛名前を以船遣ひ申度段御届ケ申上候処、御聞届ケ被下、忝奉存候、為後日双方連印一札差出置候処、仍而如件、

文化元年

子八月

大和屋彦兵衛印

竹屋宗兵衛印

下組惣代

甚兵衛印

五兵衛印

百艘

御年寄中

右七兵衛儀先年相果候処、大借有之候而後家儀も当所二難居、京都へ罷越、身を隠し居候趣二而、跡相続致候名前前人無之候へ共、借り舟なから舟帳二ハ七兵衛印形致有之、日々舟稼も致居候得ハ、自然故障之儀出来、舟主無之段御察当請候而ハ百艘仲間之無念二付、其儘難差置、早々名前前人相究候様、先達而方組中へ申聞置候処、七兵衛弟大和屋彦兵衛と申者、当時京都二而相応二くらし罷有、右彦兵衛へ譲り為請度旨申之候得とも、他所之者二小船為持候例無之、新規之事故其儀ハ難成段申渡置候、依之当分組中へ預り置、何時二而も相続人出来次第、故七兵衛時之通不相替渡世為致度旨願出候二付、中間及相談二候処、何分相続筋の事故今更取放し二申付候も氣之毒二存、願之通相含遣置候、尤七兵衛実印ハ此度組中へ預り居候間、年々舟帳是迄之通二調印為致、且又御公辺ハ不及申、何用二而も七兵衛代として組中之内方罷出相勤候筈二申渡有之候事、

後代為心得書置候者也、

右印付書付共、小船一件之引出しへ入置候事、

口上

此度手紙ヲ以得御意置候通、古木物数四拾三包、川口西川弥蔵方へ指舟差越積取寄申候、為念此段御達シ申候、

子八月

大津浦

芦浦觀音寺内 実印
松岡市左衛門判

百艘年寄御中

御持船品浦方御馬計取ニ参る、

右四拾三包、此駄数凡六駄、

右之通御断書二付乗申候、用捨致遣シ候事、

子八月十八日

樂宮様関東御下向二付、御賄御用として石原庄三郎様京都神前苑町^(京)東側中程廊路二御旅屋敷在之、表二御賄会所と表札出在之、此程^ノ御詰切二付、御窺として金子三百疋台二乗、八月廿日与治兵衛、太郎兵衛罷登ル、但^{寛延三巳二月}宝曆年中二も先格在之候、船方掛り内堀様御取次在之候、乍序近日御発駕之節、御見立二罷出候義、又追而江戸^ノ御登り之節ハ、矢橋浦迄御迎船差出候先格も御座候へ共、其節御用承度段申上候処、則御窺被成候所、出立之節見送り之義ハ已前も例在之義も候へとも、併此度之義ハ御用先キ二而、彼是混雜致候而ハ如何二付、外中間とも一統差扣候様可申渡候、乍併前日餞別窺二出候義ハ勝手次第と被仰渡候、御登り之義ハ賄も有之候事二候へハ、尚又跡^ノ可被仰聞旨被仰渡候事、

一、八月晦日、御役所^ノ呼二参、次郎左衛門罷出候処、篠田牧太郎様被仰聞候ハ、昨夜同役共金蔵を通り候処、舟の楫陸地へ出張有之、往来之妨二相成候、此義前々^ノ申渡置候義二候へ共者、常々無油断制度可致害之処、等閑二相心得候故、右躰様子二相見得候、向後共舟へ引込置候様被仰渡候故、次郎左衛門答候ハ、手先之者共へも急度申聞置、常々役人ともも氣を付罷有候義二御座候へ共、此節満水二有之、別而昨夜ハ風雨烈候二付、錠縄ゆるみ、楫出張候様二奉存候猶此上出張不申様、常々無油断制度可仕候、乍併とも縄杭木内二出張有之義ハ往来差支二ハ相成間敷奉存候間、御用捨被成下度候、右杭木^ノ陸地へ出張不申様可仕旨申上置候二付、其旨当役人一統へ申

聞、常々無油断氣を付候害二為申合置候事、

九月九日御礼

石原庄三郎様 鳥目百疋、木札付

元^メ

芝山泰蔵様

々

七里左六郎様

々町掛り

石丸三伍右衛門様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

右五軒へ鳥目五拾疋つゝ、

右之外、御門内御手代衆、組屋敷不残、北出氏へ手札二而相勤候事、

太郎兵衛、三郎兵衛、供平兵衛

九月十七日暁七つ時、野洲郡北桜村へ為御検見と

殿様御代り江戸御役人

恩田半助様

石丸三伍右衛門様

岡田大八様

惣御供、式人

右矢橋浦迄御乗船被成候二付、御見送り、

三郎兵衛、小舟上五兵衛三丁

一、例年之通石山庄屋より松たけ甘本到来、当役中配当いたス、九月十八日、

一、廿一日、例之通当役一統朝飯有之、御神酒頂戴仕候事、

一、九月十七日、知内弥四郎義次郎左衛門方へ被参、此度若州々今津への海道筋馬持故障之儀出来候二付、是迄今津へ出候口ノ物荷我等方へ出申、尤宝曆年中二も出候義有之、其節堅田浦小舟を雇ひ為積候故、此度も左様仕度存、則其段堅田舟年寄衆へ申談候処、我等浦方相続筋之義二候へハ、手支なき様舟相廻り可遣旨被申呉候間、於大津浦二も其旨御聞得置被下度と被申候二付、当分之儀ハ随分左様二被致候而可然と聞届置申候事、

但し行々不絶荷物過分二出候節ハ、如何様共及対談候積り二候事、

十月朔日、朝六つ時

殿様御代り御勘定御役

野田吉五郎様

御供六人

御役所御手代

浅野門蔵様

牧野九郎兵衛様

御供壹人つゝ

右風呂屋ノ関る矢橋へ御乗舟被成候二付御見立、

孫右衛門

十月三日、明六つ時

御普請役 小ふね下恩田半助様 加子三丁
当所御手代

篠田牧太郎様

惣御供式人

右矢橋迄御乗舟被成二付御見送り、

忠次郎

十月十二日、石原庄三郎様於関東二此度御勤切二付、当月三日布衣被蒙仰候二付、中間年寄与治兵衛、孫右衛門、御玄関迄罷出恐悦申上候事、但当年樂宮様御賄為御用関東御下向一件留帳二記之、

一、十月廿三日、酉刻、從御役所御差紙七通

一 常樂寺忠右衛門

船頭新兵衛へ渡ス、

川ふね二

内伊庭 善太郎

々 善九郎 〆式通

蒲生郡 廿三日

大房村 〆通 八まん彦太郎へ渡ス、

浅井郡 孫六 式通 船頭太郎兵衛渡ス、

月出 塩津八木濱 〆三通塩津弥右衛門へ渡ス、

添状遣ス、 塩津月出江耆り

八木濱へ五り

高島郡 廿三日

今在家 横江濱六太夫

〆式通 船頭忠兵衛へ渡

浅井郡

八木濱

南濱茂左衛門へ直ニ渡ス、

〆壹通

右ハ船改帳間違之義ニ付、当廿九日御召出し之由、しのた牧太郎様被仰渡候、

大津

配符 御役所 大津浦始

追而本文運上銀、大津橋本町古望仁兵衛ニ而懸改候間、得其意、納人印形持參可致候、以上、

湖上船運上銀、来月五日〆十日迄持參上納可致候、遲滞致間敷候、此配符令請印、早々順達、留り村〆可相返候、以上、

大津

子十月廿四日

御役所御印

書面之趣貸ふね大津、坂本、比叡辻、苗鹿、雄琴、衣川、同本堅田、屋へも可申間候
同艀方、西ノ切、今片田釣獵師、同今片田、断同艀方、藤江、小野、和邇南濱、々北濱、五ヶ浦、南ひら、北ひら、南小松、同北小松、打下、大溝、同艀方、永田、下小川、今在家、横江、舟木南濱、々横江濱、々北濱、南古賀、新庄、太田、藁園、断同深溝、針江、森村、馬場、大浦、木津、今津、新保、領家、北仰、貫川、桂村、深清水、大沼、中庄、北新保、知内、西濱、海津、菅浦、月出両組、岩熊、塩津、石川、片山、同東尾上、断延勝寺、海老江、安養寺、早崎、下八木、八木濱、大濱、同断南濱、同断 川道

右浦々々

庄屋

船年寄

大津

配符 御役所

大津浦始

追而本文諸入用銀小前見届度ものハ御役所へ罷出可見届候、一、別紙書付九封、其所々ニ而可請取候、以上、

大津大濱船改極印場、天明三卯年〆去亥年迄風波之節破損所修覆并石垣繕ひ、其外諸入用銀之分船掛り令割賦候条、得其意運上銀上納之節、別紙之通可相納候、此配符令請印、早々順達、留り所〆可相返候、以上、

大津

子十月廿四日

御役所御印

一、銀六匁貳分六厘 百艘 一、銀四分九厘 觀音寺町
一、銀拾三匁貳分五厘 艀方 一、銀貳分四厘 善兵衛
一、銀貳分四厘 百艘組 一、銀壹匁四分七厘 北保町
一、銀壹匁八分四厘 源助 一、銀壹匁八分八厘 平藏町
一、銀壹匁壹分 蔵橋町 一、銀壹分貳厘 同町六
〔上部横書「小〆廿六匁七分九厘」〕 清助 仁右衛門
一、銀壹匁壹分 尾花川 一、銀四分九厘 今堅田
一、銀壹匁壹分 源六 一、銀四分九厘 三右衛門
一、銀壹匁壹分 中保町 一、銀四分九厘 与助
一、銀壹匁壹分 坂本 一、銀壹匁貳分三厘 伊左衛門
一、銀壹匁壹分 比叡辻 一、銀壹分貳厘 仁左衛門
一、銀壹分四厘 苗鹿 一、銀壹分貳厘 久右衛門

一、々三分六り	雄琴	一、々式分四り	七兵衛 ^々	一、々二匁九分五り	大溝八郎	一、々三匁三分一り	深右衛門 ^{深溝}
一、々式分四り	衣川	一、々壺分式り	李兵衛 ^々	一、々式匁七分	大溝忠兵衛	一、々拾壺匁六り	針江
一、々五匁壺分六り	東本片た丸船方 ^々	一、々壺分式り	太右衛門 ^々	一、々四匁六分七り	永田	一、々六分壺り	森村
一、々九匁四分六り	船方 ^々	一、々式分四り	喜兵衛 ^々	一、々拾匁三厘	今在家	一、々七分三厘	木津
一、々九分八り	五兵衛 ^々	一、々壺分式り	傳左衛門 ^々	一、々式匁四分三厘	藤江	一、々拾三匁一分五厘	今津
一、々壺匁二分三厘	五左衛門 ^々	一、々式匁八分二厘	和邇南濱 ^々	一、々七匁七分四厘	横江	一、々式分四厘	新保
一、々七分三厘	喜兵衛 ^々	一、々壺匁四分七厘	南濱村 ^々	一、々五匁七分七厘	船木 ^{南濱}	一、々三匁一分九厘	領家
一、々六分一厘	太左衛門 ^々	一、々二匁八分二厘	和邇北濱	(上部横書)「小×百五十一匁五分九厘」	貫川	一、銀九匁八分三厘	北仰
一、々壺匁九分六厘	西之切	一、々壺匁九分六厘	大物	一、銀四分九厘	桂村	一、々拾三匁式り	海津
一、々九匁八分三厘	今片田之内釣獅師	一、々壺匁九分六厘	あら川	一、々四分九厘	深清水	一、々三匁四分四厘	大浦
一、々五匁七分七厘	今片田	一、々二匁九厘	木戸	一、々三分六厘	大沼	一、々壺匁式分三厘	菅浦
			守山	一、々三分六厘	中庄	一、々三分六厘	月出 ^{清六組}
			北船路	一、々式分四厘	北新保	一、々壺匁三分五厘	月出 ^{四郎組}
(上部横書)「小×五十五匁九分式り」				一、々三匁三分一厘	知内	一、々拾七匁四分五厘	岩熊
一、銀式匁三分三厘	南比良	一、銀拾九匁六分六厘	舟木北濱	一、々五匁四分	西濱	一、々式分四厘	塩津
一、々二匁五分八厘	北ひら	一、々壺分式り	南古賀	一、々壺匁九分六厘	石川	一、々六匁五分一厘	片山
一、々五匁四分	南小松	一、々式分四厘	新庄	一、々三匁四分四厘	東尾上	一、々五匁式歩八厘	八木濱
一、々三匁三分一厘	北小松	一、々三匁五分六厘	太田	一、々五匁一分六厘	東尾上 ^{徳右衛門}	一、々拾九匁七分八厘	大濱
一、々七分三厘	北小松 ^{七左衛門}	一、々八匁壺分一厘	藁園	一、々三匁七厘	延勝寺	一、々拾三匁一分五厘	南濱
一、々五匁三厘	打下	一、々九匁五分八厘	深溝	一、々七匁一分二厘	海老江	一、々四分九厘	川道
一、々六匁五分一厘	大溝 ^{丸ふね方}	一、々二匁九厘	源兵衛 ^{深溝}	一、々四匁七分九厘	安養寺	一、々壺匁九分六厘	下坂濱
				一、々二匁八分二厘	早崎	一、々壺匁九分六厘	長沢
				一、々拾匁五分七厘下八木	西浦惣 ^三	一、々壺匁九分六厘	

(上部横書)「小×百四十四匁式分式り」

一、御差紙 壹通 坂本浦へ

一、同 壹通 本堅田船方へ

一、同 壹通 同所貸船屋長左衛門へ

一、同 壹通 同所西之切へ

一、同 壹通 今片田へ

一、同 壹通 同所貸船屋伊左衛門へ

一、同 壹通 同所貸船屋七兵衛へ

一、同 壹通 和邇南濱へ

一、同 壹通 南比良へ

×九通、御配符式通、但し前段二有、

合拾壹通也、

外二百艘より片田浦へ之書状壹通、針江浦へ壹通、

惣合拾三通、神無月廿五日朝、宗吉持せ遣ス、

坂本迄百五拾文

御配符御文言前西浦同断 松本浦始

松本三ヶ所、平津、南郷、五ヶ浦^{龍門、淀村、中、東村、富川}、神領、大かや
新田、新濱、南山田、下笠、穴村、中村、津田へ、下寺、下物、
山賀、森河原、杉江、赤之い、矢嶋、大まがり、かいほつ、
野田、ひるた、小田、のむら、大房、南津た、八まん船木、
多賀、浅小井、常楽寺丸ふね方、同船方、石山、千町、外畑、
関津、太支、黒津、里村、橋本、大江、大かや、矢橋、山田、
駒井庄大萱^{書面之趣かしふね}、志那^{同吉田、同木濱、今濱、水保、}
戸田、五条、^{同幸津川、}小濱、吉川、堤村、安治、^{同須原、}
^{同江頭、田中江、加茂、牧村、}^{同長命寺門前、}^{同船木、}
八まん町、北庄、香之庄、豊浦、いば、

御配符御文言、前同断

一、銀五匁壹分六り

一、々々壹分式り

一、々々壹匁九分六り

一、々々三分七り

一、々々式分四り

一、々々九分八り

一、々々式分四り

一、々々四分九り

右浦々

庄屋ふね年寄

松本 一、銀拾五匁八分五り 橋本

馬場 一、式分四り 神領

膳所 一、三匁七り 大かや

船所 一、壹分式り 新濱

鳥居川 一、壹分式り 大かや

石山 一、六匁式分六り 新田

平津 一、五匁四厘 穴村

千町 一、六匁七分六り 大江

南郷 一、四匁九分一り 矢橋

外畑 一、拾九匁九分九り 山た

龍門 一、壹分式り 南山た

淀村 一、拾七匁四分五り 下笠

中村 一、三分七り 駒井庄

東村 一、々々七分三り 大かや

富川 一、壹匁二分三り しな五

太支 一、五匁六分五り 兵衛

黒津 一、八分六り 吉田

里村^稲 一、銀式匁二分一り 同久兵衛

津共 一、々々八分六り 戸田

中村 一、々々拾四匁三分八り 五條

下寺^へ 一、々々拾四匁三分八り 幸津川

下物 一、々々拾八分四り 幸津川

山賀 一、々々式匁七分 宗四郎

森河原 一、々々式匁七分 同小平治

一、 々六匁一分四り	杉江	一、 々八匁七分二り	小濱
一、 々九匁四分六り	赤之い	一、 々拾五匁一分一り	吉川
一、 々三匁貳分	矢嶋	一、 々五匁四分	堤村
一、 々五匁七分七り	大まかり	一、 々九匁七分一り	安治
一、 々三分七り	かいほつ	一、 々四匁九分一り	須原
一、 々廿六匁三分	木濱	一、 々壹分貳り	須原小 兵衛
一、 々四匁五り	木濱 新太郎	一、 々廿六匁六分七り	のた
一、 々貳匁九り	木濱太 兵衛	一、 々七匁七分四り	比留た
一、 々二匁八分二り	々太左衛門	一、 々三拾匁二分三り	野村
一、 々拾一匁六り	今濱	一、 々拾貳匁四り	小田
一、 々四分九り	水保	一、 々七匁貳分五り	えかしら
小メ貳百五十五匁九分一り			
一、 銀二匁八分二り	江頭 三左衛門	一、 銀廿九匁八分六り	南津た
一、 々五匁五分三り	田中江	一、 々七匁貳分五り	船木
一、 々三匁五分六り	かも	一、 々六分壹り	船木善 四郎
一、 々三拾四匁一分六り	牧村	一、 々四匁四分二り	八まん
一、 々六匁六分三	大房	一、 々三匁八分一り	八幡町
一、 々壹匁壹分	長命寺 門前	一、 々六匁六分三り	八まん町 作次郎
一、 々壹匁二分三り	々新兵衛	一、 々壹匁六分	多賀
一、 々貳歩 ^四 五 ^五 り	々惣兵衛	一、 々拾六匁八分三り	北之庄
一、 々拾二匁四分一り	浅小井	一、 同壹匁壹分	伊は甚 兵衛
一、 々三分七り	香之庄	一、 同三匁壹分九り	同善六
一、 々五十一匁二分五り	豊浦	一、 同壹匁壹分	同源左衛門
一、 々壹匁貳分三り	常樂寺 丸船方	一、 同三匁四分四り	同善九郎
一、 々廿八匁二分六り	同船方	東浦惣メ六百三十六匁九分四り	
一、 々七分三り	同庄助	西浦メ三百七十八匁五分八り	

一、
々四十四匁七分三り 伊庭
合壹貫拾五匁五分^三り

一、
々六匁二分六り 同善四郎
小メ貳百八十匁三分五り
外二

一、御差紙 黒津村へ壹通

下笠へ 壹通

山田へ 壹通

しなかしふね屋

惣兵衛へ壹通

メ四通

右之通、同日七時半時、松本村へ遣ス、使大吉、

一、

大津

一、配符 御役所

江州野洲郡木濱始

別紙書付其所々ニ而請取之、早々順達可致候、此配符留り所る可
相返候、以上、

子十月廿四日 御役所御印

江州野洲郡木濱

貸船屋新太郎、同太兵衛

矢嶋邑、水保村、堤邑、野田村

庄屋

船年寄

外二

御差紙 六通

木濱貸船屋新太郎へ壹通

同所貸船屋太兵衛へ壹通

矢嶋村へ 壹通

水保村へ 壹通

堤邑へ 壹通

野田村へ 壹通

合七通、廿五日早朝木濱仁兵衛へ渡入、

十月廿七日、夕方西北風ニ登之船余程有之候処、大津市松船、三郎助船、堅田小船、八幡茂兵衛船、大溝九右衛門船、何れ茂米船ニ而戌刻時右五艘着船差湊ひ候折柄、俄ニ落風強ク相成、別而真の闇ニ有之候処、右之内三郎助船、市松舟、堅田ふねハ仕合能無難ニ乗入候得共、八幡茂兵衛船大濱崎石垣へもたれ難義ニおよひ候ニ付、居合の加子并おして共其外近辺之もの共、大勢罷出無難ニ乗入、無別条候ニ付、翌日茂兵衛仲間へ礼ニ被参候、尤仲間役人も罷出差配致し居候処、大溝九右衛門船義ハ御蔵西之石垣へもたれ難義致居候ニ付、御蔵番衆へ相断御門ヲ明ケもらひ、加子共御蔵ノ船へ乗り移らせ候而、漸金蔵堀へ乗り入候処、船敷痛候哉、水余程這入候故、有合候大溝明キ船式艘^{炭之分壹艘}ニ積替へさせ候処、下並米拾四五俵濡有之迄ニて、格別之義無之故、翌日船揚ケ致、無難ニ相納り候旨ニ而礼ニ被参候、

但し御役所近辺ニ而夜中ニ大勢さわき候事ニ付、早速町方、船方両御役所へ御断申上置候、尚又御蔵番三軒へハ翌朝御挨拶ニ参置候事、

十月晦日

一、酒五升

右ハ大溝九右衛門親類之由ニ而、持参被致、尤加子共へハ別段ニ被及挨拶ニ候事、

十月晦日、為持遣入、

一、錢五百文

金蔵権八

同

一、同四拾八文

同 与四郎

内義へ

右ハ其夜権八方へ申付、米五升焚せ候ニ付、如此遣入、尤炭差方ニ而も酒、漬もの等差出被申候得共、大溝船宿之儀故、此方ハ挨拶ニハ不及申候事、

昨六日、矢橋金勝屋より山田行之灰拾貳俵積登り、当浦ニ而山田船ニ積替より遣之候ニ付、左之通以書状矢橋船年寄方江申遣し置、

以手紙得御意候、寒冷相増候所、各様弥御勇勝被成御座、珍重奉存候、然ハ昨六日貴浦之船金勝屋ノ山田行之灰拾貳俵積登り、当浦ニ而山田船ニ積替被申候所、当浦之義ハ諸浦之船一端当所江着船いたし荷物其まゝ外浦江積参り被申度候節ハ、着船之砌其段相断被申、改候上無紛レ分ハ用捨いたし候義も有之候得共、外船江積替させ不申、此方之船ニ積受申候、然レ共勝手ニ付外船にて被送候へハ、乗前受取候義に御座候へ共、是迄貴浦より右鉢之義も無之候故、定而何之御心付なく御取計被成候義と相察候ニ付、昨日之義ハ及御相對不申候間、此度之義ハ前段之趣御承知有之候様、乍御世話御問屋中江御達し置被下様、後便二否御報可被下奉頼候御問柄之事故、差掛り御相對申上候義ハ氣之毒奉存、此段御頼得御意度、如此御座候、恐惶、

霜月七日

百艘船年寄

矢橋浦

船年寄御衆中

追而此節渡船方各外之余錢取候様相聞江、甚以不案心ニ存候へハ、御互ニ申合せ取メり仕度様奉存候間、御上津之節ハ御立寄り被下度、委細其節可得御意候、以上、

十二月朔日、朝米喜殿參被申候ハ、夜前四つ時大溝ハ飛脚至來、尤高久、萬四郎、米喜、右三人名當ニて書狀拜見仕候処、今朝四つ時大溝式里計奥ニて海つ小舟難舟仕、則同浦漁舟見付、乗人、加子共相助ケ候へ共、舟荷物共行方不知相成候趣申參候付、御届可申旨被申參候、尤問屋市右衛門、大溝ハ飛脚參り候ニ付、則左之通手紙遣ス、以手紙得御意候、然者昨朔日其御浦辺ニて海津小舟難舟いたし候処、御世話ニよつて人々ハ無別条候へ共、舟并荷物之義ハ行方相知れ不申趣、飛脚ヲ以當津問屋方ハ被仰越候旨承之、定而昨朝當浦ハ出舟いたし候海津孫七舟ニて可有之哉と存候、何分御厄介之段奉察、先ハ任幸便ニ、右御挨拶旁如斯ニ御座候、以上、

十二月二日

大溝浦舟御年寄中

百艘舟年寄

追而海津舟年寄中へ遣候別紙之書狀尅通、乍御世話海津衆御地へ被參候節、御達し被下度奉頼上候、以上、
海津浦へ遣申候手紙、左之通り、

以手紙得御意候、然ハ昨朝大溝辺ニ而貴浦之小舟難舟いたし候処、乗人、舟頭ニハ別条無之候得共、舟并荷物之義ハ行方不知旨、當津問屋方ハ大溝浦ハ飛脚參候旨承之、驚入候、定而昨朝當津ハ出舟致候孫七舟ニ而可有之哉と存候、撫御心配之段奉察、先ハ任幸便右御挨拶申上度、右御尋旁如此ニ御座候、猶御用向等候ハ、可被仰下候、

以上、

十二月二日

海津浦舟御年寄中

百艘舟年寄

覺

一、乗かご

尅挺 此人足式人

一、分持

尅荷 此人足尅人

メ三人

右者明五日曉七つ時、大津出立いたし候間、草津迄繼立可被申候、此書付我等着之上可被相返候、以上、

子十二月四日

矢橋浦役人中

石原庄三郎手代

本庄彦吉

但し此御書付、手紙添即刻小舟入迄孫右衛門及被持參致候事、

十二月十一日、寒氣御窺

石原庄三郎様 真鴨尅掛

元メ

芝山泰藏様

々

七里佐六郎様

町掛り

石丸三伍右衛門様

勝手方

山田仲助様

舟方

内堀繁太様

々

篠田牧太郎様

右者南鐐沓片つゝ

小頭

赤井平六様

々

佐久間正蔵様

目附

高橋角左衛門様

々

多部甚助様

々

多賀喜曾太様

右五軒へ銀壺兩つゝ

右之外御門内御手代衆、組屋敷不残、北出雲平殿へハ手札計二而相

勤候事、

与次兵衛、三郎兵衛、供五兵衛

覚

一、御納豆 五拾抱

右者御旧例通御前より不相替被下置、難有頂戴仕候、以上、

子十二月十二日

百艘印

観音寺様御内

松岡市左衛門様

覚

一、金子 百足

右者当津より御家中并御人足渡海為御挨拶、御前を被下置、慥二頂戴仕候、以上、

子十二月十二日

百艘印

松岡市左衛門様

覚

一、肴料 白銀壺封

右ハ木内小兵衛殿を慥二受取申候、以上、

子十二月十二日

百艘印

伏見屋七兵衛殿

極月十二日、京都寒氣御伺

東御奉行

一、^{貼紙}森川越前守様

真鴨沓掛

御用人

御取次

小柴宗右衛門様

村田直右衛門様

鈴木又兵衛様

柴田栄蔵様

石川与左衛門様

松野小右衛門様

御勝手

伊藤右内様

村田忠兵衛様

神原十兵衛様

右手札計

東御公事方

御公事下

上田弥右衛門様

中川定右衛門様

木村清右衛門様

喜多尾八郎右衛門様

本多金右衛門様

中川奎左衛門様

山田劔次郎様

櫛橋平蔵様

右ハ南鐐沓片つゝ

平尾安左衛門様

森儀左衛門様

右手札計

西御奉行

一、曲淵和泉守様

御用人

増田郷八様

鈴木順平様

星野平_右左衛門様

御勝手

原田仙助様

右手札計

西御公事方

深谷平左衛門様

入江吉兵衛様

熊倉恵助様

不破伊左衛門様

本多新右衛門様

右ハ南鐐沓片ツ、

廣瀬左野右衛門様
右手札計二而

外二田内与助殿、白銀三匁

若狭屋八兵衛殿、小鴨一羽

治郎左衛門、孫右衛門、供五兵衛

御取次

椎名市右衛門様

佐藤多仲様

矢沢龍右衛門様

芝忠五郎様

佐藤左一郎様

千賀與三右衛門様

上田八蔵様

柏原治部右衛門様

酒井宗助様

浅賀卯兵衛様

菊地次左衛門様

十二月九日、石原庄三郎様関東方御帰館ニ付草津迄御出迎、名前年
寄治郎左衛門、太郎兵衛、供与八、荷持平助被相勤候事、
同日石場御出迎、與次兵衛、孫右衛門相勤、夫々御玄関江右兩人上

下着二而罷出、恐悦申上候事、

一、山田仲助様義、殿様御供ニて御帰被成候ニ付、翌十日治郎左衛門袴
羽織二而御悦ニ参り候事、但し持参ものなし、

一、同十三日、恐悦御請被成候旨町代部屋方申参り、則与治兵衛、太郎
兵衛相勤、尤先格之通金五百疋差上、御目見有之候、

右外委細之儀者文化元年甲子年樂宮様御入與御賄御用被蒙仰発（始
力）末仲間勤方被仰渡候留帳ニ在之候事、
子極月十四日

一、十二月廿三日、上田弥右衛門様内西村多三郎殿方例之通南鐐沓片参
ル、

覚

一、金子百疋

右ハ朽木兵庫助様方被下置、慥受取申候、已上、

文化元甲子年十二月廿八日

御用達

升屋市右衛門殿

（裏表紙）

七拾九 百艘

（印：百艘）

「大津百艘船万留帳」全体目録

番号	年号	番附	原本	抜書帳	収録
1	(延宝九年～ 天和三年)	番附外	○	—	1
2	(元禄二年～ 享保十六年)	八番	○	×	
3	安永三年(断簡)	不明	△	×	
4	天明四年(断簡)	五十九番	△	×	
5	寛政八年	七十一番	○	×	
6	寛政九年	七十二番	○	×	2
7	寛政十年	七十三番	○	×	
8	寛政十一年	七十四番	○	×	
9	寛政十二年	七十五番	○	×	
10	寛政十三年	七十六番	○	×	3
11	享和二年	七十七番	○	×	
12	享和三年	七十八番	○	×	
13	享和四年	七十九番	○	×	
14	文化二年	八十番	○	×	
15	文化三年	八十一番	○	×	
16	文化四年	八十二番	○	×	
17	文化五年	八十三番	○	×	
18	文化六年	八十四番	○	×	
19	文化七年	八十五番	○	×	
20	文化八年	八十六番	○	×	
21	文化九年	八十七番	○	×	
22	文化十年	八十八番	○	○	
23	文化十一年	八十九番	○	○	
24	文化十二年	九十番	○	○	
25	文化十三年	九十一番	○	○	
26	文化十四年	九十二番	○	○	
27	文化十五年	九十三番	○	○	
28	文政二年	九十四番	○	○	
29	文政三年	九十五番	○	○	
30	文政四年	九十六番	○	○	
31	文政五年	九十七番	○	○	
32	文政六年	九十八番	○	○	
33	文政七年	九十九番	○	○	
34	文政八年	百番	○	○	
35	文政九年	百一番	○	○	

番号	年号	番附	原本	抜書帳	収録
36	文政十年	百二番	○	○	
37	文政十一年	百三番	○	○	
38	文政十二年	百四番	○	○	
39	文政十三年	百五番	○	○	
40	天保二年	百六番	○	○	
41	天保三年	百七番	○	○	
42	天保四年	百八番	○	○	
43	天保五年	百九番	○	○	
44	天保六年	百十番	○	○	
45	天保七年	百十一番	○	○	
46	天保八年	百十二番	○	○	
47	天保九年	百十三番	○	○	
48	天保十年	百十四番	○	○	
49	天保十一年	百十五番	○	○	
50	天保十二年	百十六番	○	○	
51	天保十三年	百十七番	○	○	
52	天保十四年	百十八番	○	○	
53	天保十五年	百十九番	○	○	
54	弘化二年	百二十番	○	○	
55	弘化三年	百二十一番	○	○	
56	弘化四年	百二十二番	○	○	
57	弘化五年	百二十三番	○	○	
58	嘉永二年	百二十四番	○	○	
59	嘉永三年	百二十五番	○	○	
60	嘉永四年	百二十六番	○	○	
61	嘉永五年	百二十七番	○	○	
62	嘉永六年	百二十八番	○	○	
63	嘉永七年	百二十九番	×	○	
64	安政二年	百三十番	×	○	
65	安政三年	百三十一番	×	○	
66	安政四年	百三十二番	×	○	
67	安政五年	百三十三番	×	○	
68	安政六年	百三十四番	×	○	
69	安政七年 万延元年	百三十五番	×	○	

※「原本」の○は原本が残っているもの

「抜書帳」の○は「留帳目録抜書帳」に記載のあるもの

〔大津古文書輪読会会員〕（順不同）

秋山恭伸

麻田有代

片岡良昭

鍬田清美

高正昭

谷玲子

橋本豊

林俊介

樋口晶美

福野修三

藤村正人

河野敏子

大村知永子

小浜麻里子

才田是

井上知枝

大津市歴史博物館調査報告書5

大津百艘船万留帳 3

編集・発行

大津市歴史博物館

〒五二〇—〇〇三七

滋賀県大津市御陵町二番二号

電話 〇七七—五二一—二二〇〇

発行日

令和六年（二〇二四）三月三十一日

印刷

有限会社竹田謄写堂